

A large, expressive black ink brushstroke graphic that forms a continuous, swirling shape, resembling a stylized 'S' or a calligraphic flourish. It is the central visual element of the page.

自己点検・評価報告書

2024年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校

ま え が き

奈良高専は、高度経済成長前期の昭和39（1964）年に設立された国立高等教育機関であり、15歳から5年間一貫の高専独自の教育システム実施に加え、本科卒業後2年間のより高度な専門性を習得する専攻科を最初に設置した高専です。「都市型高専としての地の利」「研究力の高さ」「学生の質の高さ」などの強みを活かして、時代が求める実践的技術者を養成する教育研究や、産学官連携による産業活性化において重要な使命を担ってきました。現在5学科2専攻で運営し、学生総数は約1,100名、本科卒業後の就職：進学の場合は4：6程度で推移しています。産学官連携では京阪神企業の技術者教育、全国規模での技術相談・共同研究や地域交流イベント・公開講座等に、学生と共に積極的に取り組んできました。その結果、学生は国内外の研究発表会で数々の受賞をし、課外活動でもロボコンやラグビーをはじめとして大きな成果を挙げており、産業連携・地域連携も進んでおります。

奈良高専では産業界のニーズを捉え、地域との連携を大切にしながら、イノベティブなモノ・コトづくりができるグローバルエンジニアリーダー人材の育成をめざしてきました。近年世界中で開発が進む生成AIの驚異的な進歩により第四次革命とよばれる技術革新が急速に加速しながら進んでおり、ものづくり現場をも一変させつつあります。「ものづくり」の原点は「人づくり」であり、激しく変動するものづくり現場で、社会ニーズに柔軟に対応できる高専の教育システムに大きな期待が寄せられています。第四次革命に対応しつつも、「ものづくり」において「変わらず大切な物」を受け継ぎ育てる心を大切にして、「人づくり」に取り組んでいきます。

時代の求めに応じて、これまで取り組んできた「世界で活躍するグローバルエンジニア育成」のための英語コミュニケーション力と専門英語力の更なる強化に加え、デジタル化に対応するための知識や技術を持ち、異文化を理解し尊重する資質をも身につけた実践的技術者を養成するために、平成30（2018）年度に開始した「グローバル工学協働教育プログラム」を更に進化させます。学生の国際交流を推進し、積極的に留学生を受け入れ、生活レベルで自然に国際的コミュニケーション能力を身につけられる環境整備を進めていきます。工学教育に加えて、感性や表現力を涵養する異分野の学びを取り入れるために、平成31（2019）年から導入した「しなやかエンジニア教育プログラム」の学びを正課科目に取り入れて継続させ、工学の基礎であるSTEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）にアート（Art）の要素を組み込んだSTEAM教育の標準化をめざします。今後はダイバーシティ・インクルージョン（D&I）という観点から、グローバル、しなやか、二つの教育プログラムの融合と、高度なデジタル人材の育成を柱とした組織改革・カリキュラム再編を進めて、体系的な教育に力を入れていきます。

多様化する生産環境の中で、女性エンジニアの比率向上という社会的要請があります。多様な感性・背景を持つ人材が多面的に交流することで、既成概念にとらわれない斬新なアイデアが生まれ、イノベーションを引き起こすことが期待されています。後藤景子前校長が高専初の女性校長として、高専全体のD&Iを大きく前進させました。奈良高専では、平成31

(2019)年、D&Iの一環として、女子学生の比率30%を目標として推薦入試で女性エンジニアリーダー養成枠を設け、以来、優秀で意欲の高い女子の入学を促しています。本年度の入学生に占める女子割合は25.6%で、より一層の取組が必要です。また、女子学生の比率増加に対応した女性教員の比率向上も課題です。女性教員の研究環境整備による負担軽減と研究力向上など、様々な男女共同参画推進に関する活動を「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業（代表機関：奈良女子大学）により実施しておりますが、子育て中の男子教員や介護を担う教員など、ライフワークバランスに対応した教職員全員の環境整備への取組を強化していくことが重要です。

奈良高専を含む国立51高専の設置機関である独立行政法人国立高等専門学校機構では、企業・自治体・大学などと幅広く連携した事業として「高専発！Society5.0 型未来技術人材育成事業」を展開しております。この事業は研究の高度化を目標としたGEAR5.0、次世代基盤技術教育のカリキュラム化を目標としたCOMPASS5.0の二つのプロジェクトで構成されています。奈良高専は、令和3（2021）年度からGEAR5.0 防災・減災（エネルギー）分野の中核拠点校としての活動をしております。全国各地域からの5高専が協力して高専のスケールメリットを活かした研究拠点を創り上げ、分散型エネルギーデバイス、物質変換技術、ICT・AI技術などの開発を推進します。GEAR5.0に先立ち、全学組織として「共通機器管理センター」を設置しており、この共創拠点をハードとソフトが融合する場として活用し、共同研究や産学官連携を進めていきます。

今後は、早期エンジニア教育機関である高専の利点を活かし、地域の高等教育機関と連携し、「高専発！高度エンジニアリーダーの育成」を目指します。社会実装力を強化するために企業との共同教育・共同研究を推進し、その果実をリカレント教育に繋げるダイナミックな人材育成の推進に向け、産官のご支援・ご協力を期待します。令和4（2022）年4月に奈良女子大学に工学部が設置され、奈良教育大学と奈良女子大学とが統合して国立大学法人奈良国立大学機構が設立されました。今後は、国立高等教育機関として、協力体制を更に強めていきたいと思っております。奈良先端科学技術大学院大学とは専攻科との接続性の良さから長年に亘る多くの教育・研究交流実績があり、今後はさらに連携を深め高専専攻科と大学院大学の共創によるイノベティブ人材育成のためのシステム実現をめざします。

本報告書には、教育・研究・社会貢献などについての記載にとどまらず、多岐にわたる実績データを掲載しました。記載内容のみならず学校の管理・運営に関しても忌憚の無いご意見・ご批判をお待ちしております。今後とも、奈良高専が産業発展に資する人材育成を継続できますよう、一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

令和6年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校長 近藤 科江

目 次

まえがき

本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項	1
1. 1 教務部門	1
1. 2 学生部門	3
1. 3 寮務・グローバル教育部門	5
1. 4 専攻科・研究推進部門	8
1. 5 総務部門	13
1. 6 その他	14
1. 7 管理運営等	18
1. 7. 1 運営組織	18
1. 7. 2 教員組織	21
1. 7. 2. 1 専任教員の配置(現員数)状況	21
1. 7. 2. 2 出身大学等の構成	22
1. 7. 2. 3 年齢構成	23
1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準	24
1. 7. 2. 5 教員人事について	24
1. 7. 3 事務組織	25
1. 7. 4 自己点検・評価	26
第2章 学科総括	28
2. 1 一般教科	28
2. 2 機械工学科	29
2. 3 電気工学科	31
2. 4 電子制御工学科	33
2. 5 情報工学科	35
2. 6 物質化学工学科	37
第3章 研究活動	39
3. 1 教育研究支援室における研究活動	39
3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況	41
第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト	48

資料編

第1章 教育に関する評価関係

資料1	入試説明会等状況	62
資料2	入学試験状況	64
資料3	編入学試験状況	65
資料4	令和5年度開講科目一覧表	66
資料5	令和5年度年間行事予定表	78
資料6	令和5年度授業時間割表（本科）	80
資料7	令和5年度特別講演会実施一覧	82
資料8	令和5年度第4学年対象進路セミナー実施一覧	83
資料9	令和5年度秋季社会工場見学，専攻科学外研修	84
資料10	年度別博士号取得者一覧	85
資料11	令和5年度クラブ顧問・部員数一覧	86
資料12	令和5年度大会等成績一覧	87
資料13	学生会組織図	90
資料14	学生支援センター相談件数	91
資料15	令和5年度保健室利用学生数	92
資料16	令和4・5年度 学生事故発生件数	93
資料17	入学料免除者数	94
資料18	授業料免除者数	94
資料19	日本学生支援機構貸与奨学生採用者数	95
資料20	日本学生支援機構給付奨学生採用者数	95
資料21	進路状況	96
資料22	単車通学許可申請者	97
資料23	奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート	98
資料24	学生委員会違反件数	99
資料25	寮生数推移調	100
資料26	学寮の日課表	101
資料27	寮生会の組織	102
資料28	令和5年度学寮の年間行事	103
資料29	専攻科入学者選抜方法	104
資料30	年度別専攻科入学状況	105
資料31	専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場(令和6年度)	106
資料32	令和5年度授業時間割（専攻科）	107
資料33	専攻科特別講演会	108
資料34	専攻科修了者の進路	109
資料35	JABEE修了者進路状況	112

資料36	専攻科入学者数の推移（専攻科）	113
資料37	企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科）	114
資料38	専攻科生の論文等の学会発表件数（専攻科）	115
資料39	専攻科生の学外表彰実績（専攻科）	116

第2章 研究に関する評価関係

資料40	科学研究費等受入実績調べ	118
資料41	科学研究費採択状況一覧	119
資料42	令和5年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧	120
資料43	令和5年度 共同研究一覧	121
資料44	令和5年度 奨学寄附金一覧	122
資料45	学会賞等の受賞状況	124
資料46	特許出願・登録状況	125

第3章 社会との連携、グローバル教育、男女共同参画推進関係

資料47	公開講座実施実績一覧	127
資料48	令和5年度 学市連携事業一覧	129
資料49	令和5年度 学市連携以外派遣事業一覧	130
資料50	令和5年度 展示会・地域連携事業一覧	130
資料51	施設開放状況一覧	131
資料52	留学生年度別受入一覧表	132
資料53	国際交流 派遣・受入事業一覧	133
資料54	教員の兼業状況	134
資料55	非常勤講師の配置状況	134
資料56	令和5年度FD・SD研修実施一覧	135
資料57	教務部門アンケート関係	136
資料58	総務部門アンケート関係	138

あとがき

※凡例

本書は令和5年度実績を元に令和5年度末時点で点検・評価を行い、令和6年10月に発行したものである。

特に記載のない場合、本書において「昨年度」は「令和4年度」、
「本年度」または「今年度」は「令和5年度」、「次年度」は
「令和6年度」を指す。

本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項

1. 1 教務部門

1 教務関係

1-1 教育の質保証重点6項目(5項目)の学内展開(継続)(LMS(WebClass)の利用拡充を含む)

- ・WebClass を使って、質保証5項目のうち、教務が担当している4項目の必須とされた Step 2 は達成できた。

1-2 教学 IR 室との連携(新規)

- ・教員の研修を行った。また、リサーチクエスチョンをいくつか提出した。

1-3 令和6年度からのカリキュラム改訂(継続)

- ・カリキュラム改訂の延期を決定した。

1-4 令和5年度の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム申請に向けた対応(継続)

- ・プログラム修了生を確定した。

1-5 休退学・原級留置学生の学力向上対策の検討, 進級認定制度に関する規定改訂(継続)

- ・進級認定制度に関する規定改訂を実施した。
- ・具体策まで踏み込めなかったため、来年度継続検討する。

1-6 ICT 教育の充実(WebClass 等の活用, 授業配信システムの運営の検討)(新規)

- ・WebClass の運用が開始できた。活用の定着が必要である。
- ・授業配信システムの維持管理を情報システム統括室に位置付けることができた。

1-7 新学級担任制度(学年主任導入含む)についての点検・評価(継続)

- ・着手できなかった。

1-8 学力の実質化による原級留置率の低減対策(継続)

- ・具体策まで踏み込めなかったため、来年度継続検討する。

1-9 教務部門関係業務の効率化と DX 化(新規)

- ・成績処理システム, 出席管理システムの DX 化を一部行えた。

1-10 新型コロナウイルス感染症対策(継続)

- ・第5類移行に必要な事項を決定。それ以降も学級閉鎖など必要な措置を講じた。

2 入試関係

2-1 入試情報に係る HP の充実(新規)

- ・令和6年3月に本校 HP のトップと入試専用ページの更新を完了した。なお、令和5

年度の奈良高専公式 Web 総アクセス数は、前半（４月１日～１０月３１日）１,８２１,２８３件、後半（１１月１日～３月２５日）１,４２９,８５２件の合計 ３,２５１,１３５件で上位はトップページ（１位）、図書館ページ（２位）、社会貢献（産学関係）（３位）となっている。（入試関係はトップページに含まれる。）

2-2 本科入試制度の検討（推薦選抜制度・編入学の実施時期）（継続・新規）

- ・４年次編入学試験制度の変更について学外に周知し、都島工業高校との面談で、変更に係る情報収集を行った。推薦選抜制度の改善については改組後の体制を見据えて引き続き検討を行う。

教育支援センター

1 リテラシーの向上とセキュリティ対策の強化（新規）

- ・学生に対して e-Learning を実施した。また、高専統一パスワードポリシーに従ったパスワード設定をしてもらうことができた。

2 利用環境の充実と利用の促進（継続）

- ・利用時間をコロナ禍以前の通常通りに戻し、利用促進が行われている。

3 その他（新規・継続）

3-1 今後の ICT 環境の整備の方向性の検討（継続）

- ・ICT 環境の整備については、予算の確保とともに継続して検討する。

3-2 情報リテラシー教育及び情報セキュリティ教育の充実（継続）

- ・学生に対して e-Learning を実施し、宣誓書の提出もほぼ 100% を達成した。また、高専統一パスワードポリシーに従ったパスワード設定をしてもらうことができた。

3-3 無線 LAN の教育・研究への利用促進を考えた AP の増設・運用方針の整理（継続）

- ・AP の増設については、予算確保ができれば、検討を行う。運用方針について継続して検討する。

3-4 図書館棟の施設・設備の利用促進（継続）

- ・図書館棟の施設設備については、コロナ禍以前の利用時間となり、利用促進ができている。

3-5 起業家工房の運用方針の作成およびラーニングコモンズ、FAB スペースの運用方針の整理（新規・継続）

- ・スタートアップ教育環境整備事業により起業家工房の整備、ラーニングコモンズ横の FAB スペースの設備充実がされ、運用についてまとめた。

3-6 スタートアップ事業のとりまとめ（新規）

- ・スタートアップ事業を取りまとめ、連絡会議での情報共有を行い、全学的な取り組み

として事業を進めることができた。

1. 2 学生部門

学生委員会

- 1 課外活動の方針および計画の公表や課外活動指導員の配置など、課外活動の運営指導体制の継続的な検討（継続）
 - ・活動方針として休養日および活動後の下校時間の徹底を行った。顧問業務改善のためのアンケートを実施し、全国および近畿地区高専の状況を確認した。担当する顧問数や各クラブ等の顧問数の上限を設ける提案を行った。
- 2 セミナーや講演会を通した学生生活の充実（継続）
 - ・コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、集合形式の講演会では講師を招聘し、対面式にてより効果的な講演を実施した。また、講演会の対象学年については、令和4年度からの段階的な移行案を元に対象学年を変更した。
- 3 学生定期健康診断における検診項目の点検（継続）
 - ・学校保健安全衛生法に基づく健康診断項目の検討を行った結果、従来通りに実施した。
- 4 学生生活環境に関する意見の聴取方法および改善について継続的な検討（継続）
 - ・認証評価項目の1つとして、学生会を通じて学生から学生生活全般に関する意見聴取を行った。さらに、保護者等からの意見聴取については、ホームページに意見箱を設置して運用した。
- 5 課外活動等における公欠基準の検討（継続）
 - ・課外活動等における公欠基準については、他の公欠基準に照らし合わせて引き続き検討を行うこととした。
- 6 校内整備を通した安全対策および課外活動環境の充実（新規）
 - ・クラブ等顧問からの安全対策および改善要望の意見聴取と、学生からの校内環境への意見聴取を行った。環境整備の一つとして冷水機を整備した。
- 7 大和小泉方面からの自転車通学経路の点検と検討（継続）
 - ・大和小泉方面からの自転車通学経路について、危険な道路横断や地域住民の生活道路を通らないように通学路の周知を行い、立番指導を行った。さらに、該当学生全員に説明会を実施した。
- 8 学生生活の継続的な指導および学生の規範意識の向上と、自主的・自発的活動の涵養（継続）
 - ・学校生活に関する注意喚起として自転車マナー、盗難防止など指導を継続して実施し

た。また、学生会と連携し、夏の軽装キャンペーン、学内クリーンキャンペーン、歩きスマホの実態調査などを実施し、自主的・自発的な活動を継続的にサポートした。

9 奨学金など就学支援体制の強化と効率化（継続）

- ・日本学生支援機構給付奨学金在学採用等の各種奨学金関係の周知期間を昨年度に引き続き1か月程度延ばし、対象者に申請し易くした。さらに、学生掲示板での周知に加え、Microsoft Teams の掲示板を併用して、支援体制の強化を図った。

また、「高校生等奨学給付金」と「日本学生支援機構給付奨学金予約採用」が同時期の申請期間となり、例年は大半が「高校生等奨学給付金」のみの申請であったが、対象学年）及び家計基準が概ね重なることから、本年度より対象者に双方の申請を促した。結果的に対象者の大半が双方の申請を行い、事務手続きの効率化を図ることができた。

10 感染症防止対策・指導や課外活動ステップの再点検の継続的な検討（継続）

- ・コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染症防止対策等は最小限とし、個人の判断とした。

11 ピアサポートについて教員研修の実施および専門職との連携について学生支援センターと連携しながら検討（新規）

- ・ピアサポーターの養成について、準備段階として学生への意見聴取（アンケート）を実施した。アンケート結果を分析、専門職（SSW、SC）と連携・協議し、養成のためのレクチャーやスケジュール等、担任や教職員への研修についての検討を引き続き行うこととした。

学生支援センター

1 学生全体の心の状態の把握のために適当な時期にアンケート調査を実施する（継続）

- ・全学生に対し、6月22日（木）～7月7日（金）に学校生活アンケートを実施した。結果の一部は学級担任に情報提供した。また、自殺親和性が高い学生に対してはカウンセラー等との面談を促した。

2 令和2年7月に制定された「奈良工業高等専門学校いじめ防止等のための基本計画」及び令和5年度の「いじめ防止プログラム」に基づいて、いじめの防止に取り組む（継続）

- ・5月15日（月）～19日（金）、10月16日（月）～20日（金）、1月17日（水）～1月23日（火）に「いじめ防止週間」を設け、学生を対象に「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの実態把握と合わせて啓蒙活動を行った。1回目と3回目は無記名式、2回目は記名式で、Microsoft Forms を利用して行った。昨年度より

回答率が上がったものの、依然回答率が悪く、来年度は担任への協力依頼方法等を検討したうえで実施する。アンケートの回答において、相談を希望する学生にソーシャルワーカーから個別に連絡を取り、相談を希望する学生と面談した。また、3月5日（火）～12日（火）に教職員を対象とした「奈良工業高等専門学校いじめ防止等のための基本計画」等、本校のいじめに関する取組内容の理解度チェックを、Microsoft Forms を利用して行った。

- 3 合理的配慮のためのフローに基づいて具体的支援内容を協議しながら対象学生の支援を実施する（継続）
 - ・配慮の申し出があった学生に対し、学生支援センター運営委員会にて具体的支援を協議し、必要な支援を行った。
- 4 学生支援センターの機能的な運営体制の構築について検討する（継続）
 - ・昨年度に引き続き、各業務をセンター長、副センター長、常勤看護師、ソーシャルワーカー、事務職員等で分担した。併せて、今年度の体制での不具合の是正、効率化を検討した。特に学生情報は Microsoft Teams を利用することにより、迅速に共有できるようになった。
- 5 学生のメンタルヘルスを向上させる方策について検討する（継続）
 - ・昨年に引き続き、新入生オリエンテーションで保健室やカウンセリングルームを紹介した。また、1年生向けに教室に出向き、学生支援センターの仕組みや学生支援ルームを紹介し、学生のクールダウン等に利用するよう促した。
- 6 学生支援に関する情報管理と共有の在り方について検討する。（継続）
 - ・学生支援に関しては担任との連携が重要であるが、センターとしての独立も確保する必要がある。これらの線引きの指針について引き続き検討することとした。
- 7 人権教育およびいじめ防止対策について学外機関と連携して推進する（継続）
 - ・人権・いじめ教育について、学外機関に講師を依頼し、講演を行った。

1. 3 寮務・グローバル教育部門

寮務委員会

- 1 安全な寮生活のための環境整備
 - 1-1 大和郡山ソリデール事業の展開（継続）
 - ・大和郡山ソリデール事業について令和5年12月から元寮生である専攻科1年生1名が事業による同居を開始した。今後定期的な聞き取り調査を実施し、事業の改善を試みる。
 - 1-2 新寮建設を目指す取り組み（継続）

- ・学寮定員増を目的とした寄宿舍整備計画について高専機構と協議し、具体的な検討を開始した。

2 自律的な寮生会活動を目指した指導

2-1 コロナ禍により中止・縮小された寮生会活動を立て直すために組織や行事の見直し（新規）

- ・各種イベントをコロナ前の開催方法に戻し、また新たな実施方法への検討も合わせて実施した。
- ・寮生会代表である寮長副寮長との意見交換会を定期的実施した。
- ・学寮食堂連絡協議会による寮食堂についてのアンケートを定期的実施した。

3 教職員の寮業務軽減

3-1 土日祝宿直の外注化を見据えた、宿直に関する規定や申し合わせの改訂（継続）

- ・令和5年度後期より学寮指導員を1名雇用し土日祝宿直業務を依頼した。令和6年度は、金土日祝日と入試に伴う特別日課について宿直業務を依頼する。

3-2 職員の負担軽減を目的とした、学寮事務業務を見直し（新規）

- ・年度末に職員が実施していた寮棟居室の清掃を外部委託とした。
- ・居室点検の回数を毎月実施から2カ月に1回に減らした。

グローバル教育センター

1 学術交流の活性化

1-1 短期留学生の受け入れ（継続）

- ・短期留学生の受入を2年連続で実施し、シンガポール NYP 及び RP へ学生募集を実施した。申し出があった RP より男子学生2名を令和5年度は10月3日(火)～12月22日(金)、機械工学科 須田研究室へ受け入れた。また令和6年度においても9月30日から12月22日に RP, NYP からそれぞれ2名の男子学生を受け入れ予定である。
- ・協定締結校からの学生の受入を再開した。令和5年度実績は以下の通りである。
香港 IVE：8月17日(木)～23日(水) 学生25名、教員2名
シンガポール RP：9月27日(水) 学生40名、教員3名
シンガポール NYP：3月29日(金)～30日(土) 学生20名、教員1名
- ・新規の教育機関からの視察訪問の受入も行った。
韓国ドゥウォン工科大学：11月30日(木) 学生15名、教員等2名
タイ高専2校：12月18日(月) ロボコンチーム学生7名、教員1名

1-2 国際交流事業の推進（継続）

- ・令和5年度「高専生の海外活動支援事業」後期分を申請し、1,472,134円の予算を獲得した。総勢36名の学生の海外研修や国際学会参加の活動費用として支援金を給付した。私費を含め、海外渡航学生数は機構が設定した派遣目標人数50名を達成した。（私事渡航を除く）

- ・協定締結校3校とのMOU更新を行った。

香港 IVE：8月23日締結，2026年8月22日まで

シンガポール NYP：2月26日締結（自動更新），2029年2月26日まで

台湾 国立勤益科技大学：3月20日締結，2029年3月19日まで

- ・9月にシンガポールテマセクポリテクニクより同校の副校長を含む4名の視察訪問団が来校し、学生の派遣・受入や共同プロジェクト等を介した相互交流を促進させる等、教育・学術研究分野でのより活発な国際連携を深めるため、新たな協定締結に向けた協議を両校の国際交流実務者間で進めていくこととなった。その他、新規交流校の開拓状況は次のとおり。

韓国ドゥウォン工科大学：11月に学生・教員の視察訪問団を受入れ、MOU締結に向けて内容の検討を開始した。

タイ高専トンプリ校：3月1日、校長が講演のため現地を訪問した際、交流に関する情報交換を実施。

台湾明志科技大学：3月19日、校長補佐（グローバル教育担当）及びグローバル教育副センター長が訪問し、国際交流に関する情報交換を実施。

- ・8～9月に専攻科生4名をNYPとRPへ派遣し交流推進を図った。
- ・全学的に海外への国際交流派遣プログラムへの参加を積極的に促した。その結果、2月にタイ高専へ本科生9名（全員GECEP履修1年生）を、3月に本科生23名（GECEP履修生11名，一般12名）をNYP・RPへ派遣した。
- ・全学的にトビタテ！留学 JAPAN への応募を呼びかけた。その結果、高校生コース1名，大学生コース1名の応募があり申請を行った。また，今年度採択者の専攻科2年生1名が9～10月にオランダ国内の大学へ留学した。留学後に活動報告会を開催し，後輩在校生へ留学に関する情報提供を行った。

2 国際教育の活性化

2-1 グローバル工学協働教育プログラム(GECEP)事業の推進（継続）

- ・令和5年度のGECEPベーシックプログラム履修者数は89名（新1年生22名）で，修了生はベーシック3名，アドバンスト4名（履修対象者37名）であった。

GECEPプログラムの一環として，イギリス文化に関する特別講演会（奈良県国際交流員エマ・ホールズワース氏）を12月8日（金）に開催した。参加者アンケートでは

非常に好評であったため、次年度以降も継続を予定している。

- ・ GECEP 受講生を対象としたプログラム評価アンケートを実施し、結果に基づく分析、今後の課題についてまとめを行った。
- ・ 令和6年度以降の入学生（全員）を対象として、GECEP（Basic コース）に代わるサブプログラム修了認定制度（Neo GECEP）を創設することとし、学則及び履修規程を改正した。

2-2 語学教育の推進（継続）

- ・ 国際学会での学生の発表を促進した結果、国際学会奨励金の申請数は12件であった。（昨年度16件）
- ・ TOEIC-IP テストを5月13日（土）～14日（日）午前・午後実施（計4回）、全本科3・4年生及びGECEP 履修2年生を対象に実施した。
- ・ 英語学習表彰を実施した結果、今年度は優秀賞10名、奨励賞13名を表彰した。（昨年度：優秀賞11名、奨励賞14名）

3 留学生指導

3-1 令和5年度の正規留学生の受け入れ（継続）

- ・ 今年度は国費留学生2名（カンボジア、モンゴル）を受入れた。
次年度は国費留学生1名（モンゴル）、マレーシア政府派遣3名の受け入れが確定している。
- ・ 寮務委員会と連携し、学業及び生活指導を行った他、外部講師による補講（日本語、専門科目）やチューターによる学業・寮生活の指導を併せて実施し、学習面と生活面から留学生をサポートした。
- ・ 郡山警察署と連携し、3年生2名に対して生活指導講習を8月7日（月）に実施した。

3-2 マレーシア政府派遣留学生のための集中講義支援（継続）

- ・ 今年度より、インテック国際教育カレッジ高専予備教育コース（KTJ）の集中講義講師の派遣事業は廃止となった。

1. 4 専攻科・研究推進部門

専攻科委員会

1 連携教育による新たな人材養成のための教育プログラムの推進

1-1 豊橋科学技術大学との連携教育プログラムのフォローアップ（継続）

- ・ 豊橋技術科学大学との連携教育プログラム「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」を履修している令和4年度入学生1名に対し、大学卒業に向けて就学が円滑に進むように履修計画や共同開設科目の履修確保等の確認を行い、研究活動に係るフォ

ローアップを行った。該当学生は令和7年3月に無事、プログラムを修了した。

1-2 奈良先端科学技術大学院大学との新たな連携教育プログラムの構築（継続）

- ・文部科学省による「高等専門学校と大学の連携教育プログラムの構築支援」に対して、令和5年度も継続して予算措置されたのを受けて、奈良先端科学技術大学院大学と専攻科との高専-大学院連携教育プログラムの実現に向けて、高専機構学務課、文部科学省専門教育課と協議を行った。
- ・高専-大学院連携教育プログラムの構築に向け、教育課程の制度設計や共創教育コースの設計等の検討を進めるため、10月に双方の担当者等による打ち合わせを行った。12月にプログラム実施に係る覚書を締結し、2月にはプログラム協議会実施要項の締結および共同指導要領を作成し、検討に係る体制を整備した。
- ・研究マッチングを円滑に行うことを目的とした教員間交流会を10月および3月に実施した。

2 専攻科特例認定にかかる取り組み

2-1 「研究力強化プログラム」のフォローアップ（継続）

- ・高専機構が令和2年度より実施している「研究力強化プログラム」に昨年度から参画している2名のプログラム対象者に対して、1名の研究活動メンターとともに、論文投稿に向けた継続的な研究進捗管理と成果管理を行った。プログラム対象者については、プログラムが修了し、1名の教員が特例適用認定の審査で「適」の認定を受けた。

2-2 特例適用認定の審査への対応（新規）

- ・専攻科の授業科目を担当する教員に教育の実施状況等の書類の作成を依頼し、審査を受けた結果、学修総まとめ科目（特別研究）を担当する教員を除いて、教員審査は省略となった。
- ・学修総まとめ科目（特別研究）を担当する教員については、教員審査書類の作成を依頼し、事前確認で受けた指摘事項を反映した後、本提出を行った。最終的には2専攻とも「適」と判定されたが、教員審査については、すべての教員が「適」にはならず、一部の個票については令和6年度に削除することとなった。

3 専攻科入試における Web 出願システムの導入（継続）

- ・昨年度機構本部から、専攻科については WEB 出願システムの導入は任意とする旨通知があり、本校は今年度もシステムの導入を見送った。現時点では WEB 出願システムを導入している高専はほとんどなく、他高専の動向を見ながら今後も検討していくこととなった。

産学協働・地域創生研究センター

1 奈良高専地域イノベーションコンソーシアムの充実（更新）

1-1 イノコン会費を財源とした活動の推進

- ・若手・新任教員研究費補助制度に基づき、申請のあった5名の教員に10万円の研究費補助（イノコン会費が財源）を行った。また、昨年度の同制度によって補助を行った教員2名について、9月に実施した総会で研究紹介を行った。
- ・スタートアップ事業の一環として実施する学生チャレンジプロジェクトの財源の一部としてイノコン会費を利用した。総会でも同プロジェクトについて紹介を行い、事後アンケートで最も高い関心事となった。学生チャレンジプロジェクトの成果報告会についてイノコン会員に通知し、5社9名に参加いただいた。
- ・イノコンおよび本校の産学連携活動を紹介するためのパンフレットが3月末に納品され、令和6年度に配布する予定である。

1-2 コンサルティング提案に基づいた改善案の検討

- ・コンサルティング提案を参考に、地域の企業・自治体の交流を促進するハブとしての役割を担うことで共同研究や社会実装の促進を目指すとともに、学外組織化の可能性について検討を進めている。
- ・イノコンの活動をより広く周知するためのパンフレットが3月末に納品され、令和6年度に配布する予定である。

2 地域創生事業の推進（継続）

2-1 奈良市・奈良先端大・奈良女子大との具体的連携活動の推進

- ・奈良市の財源を用いた共同研究・開発支援補助金事業の対象となった。今年度は本校から対象となる事業は申請されなかったが、次年度以降の本事業のあり方について奈良市と意見交換を行った。
- ・奈良市の取り組みである NARA グリーン・スマートシティ イノベーション プラットフォーム(G-SIP)研究会にアドバイザーとして参加している。

2-2 自治体・企業との共同研究、共創教育の推進

- ・奈良しごと i センターと連携した県内企業との交流会を2回実施し、7月には9社、12月には1回目と異なる9社が参加した。
- ・共同研究を検討する企業の参考となるよう、今年度以降に契約した共同研究について、企業の合意が得られる範囲で研究タイトル等を公表できるように改定しており、地域イノベーションコンソーシアム総会で発表した。
- ・10月に開催された大阪産業局主催の大学・高専合同シーズ発表会でシーズの発表を行った。加えて本校単独のシーズ紹介イベントを8月、11月に実施し、3月にも実

施予定。

- ・共同研究には至らないものの、実施に費用が発生する共同取り組みを実施できるよう、技術相談の規程見直しを進めていたが、徴収した技術相談料が外部資金としての収入・支出とできないことから、検討継続とした。
- 3 学生チャレンジプロジェクト 起業チャレンジ部門の新設（新規）
- ・例年2件の採択としていた学生チャレンジプロジェクトについて、10件の採択に拡大し実施した。採択プロジェクトを決定する審査会では審査員として金融機関3社と奈良市産業政策課に参加いただいた。高専祭で中間報告のポスター・デモ展示を行ったほか、3月に奈良女子大学の記念館で報告会を実施し、学外の39名を含む合計93名が参加した。

共通機器管理センター

- 1 センターの業務計画及び管理運営に関すること（継続）
- ・共通機器管理センター経費の使用について円滑な運用体制を構築するためのポリシーについて議論されたが、制定までには至らなかった。自立運用率の向上を目指して引き続き「互助会制度」の制定に向けて協議していく。
- 2 学内及び学外の機器共用推進（継続）
- ・機器共用について以下5件の機器の追加登録が完了し、共通機器予約・管理システムに登録されている機器は、合計30件となった。
 - ガスクロマトグラフ質量分析計
 - 共焦点レーザー顕微鏡
 - 粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置 ゼータサイザー
 - デジタルマイクロスコープ
 - 超精密非接触三次元表面性状測定器 タリサーフ
- 3 「機器共用」の高専モデルの構築への取組（継続）
- ・研究設備・機器の共用にかかる規則を制定した。
 - ・GEAR 事業との連携としてオープンサイエンス環境の整備を実施した。データの取り扱いなど、阪大のOnionシステムを参考にし、NIIの協力の下、GakuNinの利用を試行してきた。引き続きNIIとの協議についてはGear事業との連携の下進めていく。
 - ・液体HeについてSHARE事業での連携を活かして阪大の定温センターを活用させていただき、Heの再液化によるリサイクルの取り組みを開始した。純度等まだ課題があるが高磁場NMRを維持していくための活路を見出している。また、共同調達により卓上NMRの導入にも成功した。本装置については来年度のセンターで共用利用の提

案をしたのちにセンター登録装置とする。

4 組織力の強化(規程改正) (継続)

- ・ガイドラインについて本年度制定した。

その他、GEAR 事業との連携として TA 制度の試行を実施した。TA 制度については予算を共通機器管理センターで幅広い分野の学生を対象に検討していく。現状としては卒研生の担当教員が責任をもって技術を習得し、学生指導することを前提としている。一方で、技術職員の数とサービスについては現状限定的なものとなっている。TA 制度は今後教職員負担の軽減と教育の質向上に大いに期待ができると考えている。様々な装置のメンテナンス費用の補助や定期講習会の実施、TA 雇用を進めていくためには自立運用率を制定し、自立化を推進していく必要がある。機器利用を妨げない「互助会」の在り方について今後も検討していく。

研究推進

1 科研費獲得のための学内体制整備 (更新)

1-1 学内教員の相互レビュー体制の検討

- ・校長による個別レビューを実施いただいた。
- ・教員対象のアンケート結果を元に、有志による相互レビューを2回実施した。

1-2 傾斜配分、若手・新任教員支援制度の効果分析と改善

- ・科研費の申請、評価結果による傾斜配分制度により、今年度の傾斜配分が行われた。傾斜配分制度の更新以外の施策による効果も含まれるが、今年度の申請率は86% (継続を含む) と過去4年で最大となった。採択率は昨年度と同水準の12.5%であり、申請書の質を向上させ、申請率向上から採択率向上へシフトするような取組を継続する必要がある。
- ・昨年度に3名に対して若手・新任教員研究費補助制度による支援を行った結果、1名が本予算で英語校正を利用し、論文誌の採択につながっている。今年度は5名に支援を行っており、今後も継続して多くの教員に本制度を利用してもらえるよう意見を聞きながら改善を行う。
- ・次年度より科研費の採択率、申請率を上げるための施策として、教員に一律配分している4万円を傾斜配分に組み入れ、新規採択の評価点を上げる等、研究費の傾斜配分の見直しを行うこととなった。

2 GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化 (継続)

- ・令和4年度 GEAR5.0 の中間報告会では、先の改善点と他高専との効率的な連携実績により高評価を得た。引き続き、同事業を推進し、高専の社会実装力について認知度を

向上させられるように尽力した。

中間報告会にて令和6年度も GEAR 事業が継続されることとなった。機構本部の協力の下、学外連携を積極的に推進し、高出力燃料電池研究基盤センターをはじめとする各校センターやネットワークの維持・拡張に努めている。

最終年度には MCCplus の制定がある。

3 間接経費の学内配分率の見直し（新規）

- ・間接経費の見直しを行い、以下の通り変更することとした。

○寄附金、共同研究の間接経費等の積算率を獲得金額によって、10%または30%にしていたものを、高専機構の規則に合わせて30%に統一した。

○学内配分率の教員インセンティブを無くし、学科配分45%、校長裁量経費45%に統一した。

1. 5 総務部門

総務委員会

1 教育の内部質保証と外部評価に対応するシステムの構築

1-1 2020年度認証評価に依る改善項目の検討（継続）

- ・卒業生、修了生、進路先アンケートを実施した。
- ・「建物の入り口が自動扉になっていない」ことについては、キャンパスマスタープランへ記載することを検討した。
- ・「本試験と追試験で同一の問題が出題されている」ことについては、グループFDのチェック項目に追加することを検討し、次年度委員会に引き継いだ。
- ・「進路先関係者からの意見聴取が行われていない」ことについては、卒業生、修了生、進路先アンケートを実施し対応した。
- ・シラバスに従った成績処理の実施と成績根拠資料の収集について学生指導必携に記載を依頼した。

1-2 認証評価4巡目、KIS、教学IRに対応するチェックシステムの改善（新規）

- ・認証評価に加え、KISにおける評価の観点を整理し、企画会議で共有し、各部門での準備を依頼した。
- ・「アドミッションポリシー適合割合の確認」、「内部質保証に係るカリキュラムレベル点検表」、「ディプロマポリシー、卒業・進級認定の認知度と学習環境・達成度に関するアンケート」を実施した。
- ・researchmapを用いて教員の研究業績の収集を行った。
- ・教学IR室の打ち合わせに参加し、企画会議（マネジメント層）との窓口として活動

を行った。

2 その他

- ・学内外より講師を招き、各種 FD を行った。詳細は別紙（資料編 資料 5 6）参照。

広報センター

- 1 令和 4 年度に立案の広報戦略に基づいた広報活動の実施とその影響及び効率の評価（新規）
 - ・体験入学を昨年度に引き続き対面形式にて実施した。午前は 1 学科の見学、午後は 2 学科の見学とし、基本的に中学 3 年生以外を午前に、中学 3 年生を午後の見学とした。
 - ・中学校等が主催の説明会、塾主催の説明会、他高専との合同説明会に積極的に参加した。
 - ・KOSEN FES 2023（国公立高専合同説明会）に出展した。
 - ・生駒市、木津川市、精華町の中学校を訪問し、本校の紹介とともに、中学校における進路状況などについて情報収集を行った。
 - ・イオンモール大和郡山と包括連携協定に関する覚書を締結し、地域社会の発展や教育研究・文化の振興、人材育成に寄与するため連携・協力を強化することとした。
- 2 入試関係ホームページの改善と、ホームページ全体の改善の計画（継続）
 - ・入試関係ホームページの改善案を策定し、業者との契約を経て当該ホームページを公開した。ホームページ全体の改善計画については、継続的に検討を進めることとした。

1. 6 その他

教育研究支援室

- 1 新体制の整備
 - 1-1 業務の効果的・効率的運用のための人員配置および各業務におけるバックアップ体制の強化（継続）
 - ・後期から常勤技術職員 1 1 名の体制で授業支援に取り組むことが出来ている。
 - ・各領域においては、領域長により相互支援体制の確認や新たな試みを実施するなど、新体制の定着に向けて作業を進めている。
 - 1-2 業務内容の把握・整理（審議を必要とする業務および審議を必要としない業務の精査と確認）（継続）
 - ・Microsoft Teams を活用し、業務支援依頼への人員選出を試行した結果については、一定の成果があったといえるが、業務支援依頼申請書の審議について「教育研究支援室運営に係る申し合わせ」に示された手順とは異なっていることから、次年度以降確

認の必要がある。

- ・時間割の配当時間だけでは見えてこない業務を把握するため、一か月間（試行として）「見えない業務の記録」を取った。試行の結果から、次年度は授業関連以外の業務も含めた「業務の記録」を取り、業務内容の把握と整理に活用することとなった。

2 教育支援センターとの連携強化

2-1 FAB スペース設置の設備機器管理体制の整備（継続）

- ・FAB スペースの活用方法が不透明なので、現状進んでいない。

2-2 学生向け「パスワード関連相談窓口」の整理（継続）

- ・教育研究支援室として整理する事は出来なかったが、令和6年度以降「情報システム統括室」が扱う業務として引継いでいく。

2-3 実習工場の運用を【教職員が協働で行う】体制の構築（継続）

- ・予算管理については、教育支援センター管理の下、計画書案に基づき運用を行った。
- ・業務・運用については、施設設備の使用、並びに人的支援とのすみ分けを行い、確立した体制で運用を行えた。

ダイバーシティ推進委員会

1 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（継続）

1-1 女性研究者の研究力向上を図るための体制及び取組内容

- ・年2回開催されたダイバーシティ推進センター運営委員会及び連携機関長会議に参加し、事業に関する事項を決定している。また、ほぼ毎月開催された実務者会議にも出席し、関係機関との連携を図った。
- ・「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」に参加し、連携を行った。
- ・奈良女子大学が運用している保育システムの共同利用を推進し、学内で新規1名の利用があった。
- ・新任女性教員を対象に女性教員研究環境支援として研究費支援を実施、1名の応募があり、審査の結果採択された。
- ・高専教員職体験（インターンシップ）の受け入れを再開したが、応募がなく実施しなかった。

1-2 女性研究者の上位職への登用に向けた取組

- ・高専機構または他機関主催の講演会等について女性教員に限らず、学内教職員にも周知し、参加を促した。

1-3 連携機関等の研究者への支援を通じた好事例の展開

- ・男女共同参画推進委員会のホームページから、ダイバーシティ推進委員会のホームページへと変更を行った。
- ・本校と奈良女子大学、武庫川女子大学で制定した優秀な女性研究者への研究賞を継続実施したが、本校から今年度の応募はなかった。
- ・共同研究スタートアップ支援を3機関連携で共同実施し、本校から1件の応募があり、審査の結果採択された。

1-4 意識啓発や組織改革等を図るための取組

- ・3月8日に奈良県女性センター「いきサポ座」を講師に招き、ジェンダーアンコンシャスをテーマとし、講演会（講演・寸劇・朗読）を開催した。さらに、希望のあった他高専等へも案内し聴講があった。（参加者：他高専を含め教職員38名）
- ・シンポジウム、研修会への参加を促すとともに、ニュースレターを配布する等ダイバーシティに関する意識の啓発を行った。
- ・女性教職員対象に、1月にFormsを用いて意見聴取を行い、要望を集約した。対応が可能なものについては、各担当部署と情報共有を次年度に行う。

1-5 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組

- ・女性エンジニア養成推進センターの協力のもと、研究力向上およびリーダー養成のため、リーダー養成セミナー（きららかセミナー）を10月から1月まで5講座、9回開催した。関係機関に告知したが参加はなかった。
- ・高専女子フォーラム in 関西を9月9日（土）に対面で実施し、発表学生10名、学生スタッフ1名の参加があった。
- ・東北大学サイエンスアンバサダー2名（本校OG）を招いて、ロールモデル講演会を実施した。

女性エンジニア養成推進センター

- 1 しなやかエンジニア教育プログラムベーシックコースの円滑な実施（継続）
 - ・令和5年度は、予定していた講義12件、ワークショップ3件、高専OB講演会1件、女性研究者講演会1件を実施した。
- 2 しなやかエンジニア教育プログラムアドバンストコースの円滑な実施（継続）
 - ・令和5年度は、予定通り、専攻科向け3科目「エンジニアと経営」「ビジネスデザイン」「リーダーシップと意思決定」を実施した。
- 3 高専でのSTEAM教育強化における先進実践校として、高専機構内のSTEAM教育の普及における教材提供、ノウハウの展開などへの寄与（新規）
 - ・中間報告会に続き、STEAM強化事業の最終報告会（3/21-22開催）にて、当校

の STEAM 教育を内包する「しなやかエンジニア教育プログラム」の本年度講義内容や効果測定方法について紹介し、高専内における STEAM 教育普及に寄与した。

- 4 令和 7 年度開始の分野横断型能力育成科目に試行プログラムの実施とその検証（新規）
 - ・令和 6 年度も、分野横断型能力育成科目の試行プログラムを実施予定であり、来年度の講義内容について検討を行った。

施設整備委員会

- 1 講義棟，本館北棟，専攻科南棟，総合情報棟の 4 つの総合的な計画の立案（継続）
 - ・改組の基金応募のため，現在は結果待ちの状況である。情報工学科棟の改修計画を策定した。
- 2 ものづくり実験実習棟空調設置工事の実施（新規）
 - ・9 月 29 日に工事を竣工した。
- 3 令和 9 年度以降の整備計画の策定（新規）
 - ・改組待ち。トイレ，複数教員室の整備。

人事管理

- 1 第 4 期教員人員枠（教育体制整備）に基づく人事マネジメントの再検討（継続）
 - ・再検討を行っているが，改組によって大きく変わる可能性があるため，継続して検討を行う。
- 2 教員評価の明確化（新規）
 - ・奈良工業高等専門学校教員評価規程を策定した。また，奈良工業高等専門学校事務職員及び技術職員人事評価申合せも策定した。
- 3 働き方改革関連法の対応（年休 5 日取得，長時間労働者の健康管理，業務量削減）（継続）
 - ・一斉休業日を年に 3 回追加で設けて，年休取得を進めている。業務削減も引き続き検討する。

学内管理運営

- 1 将来計画の策定と年次計画の策定（継続）
 - ・結論に至らなかった。
- 2 多忙化の解消，DX 化の導入の具体的なアクション（継続）
 - ・幾つかの多忙化解消案を策定した。部活動関係や寮の宿直については具体案が策定で

きた。DX 化は教務関係のプログラムをいくつか完成させた。

- 3 改組計画（入試倍率向上、「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」への応募）（新規）
 - ・今年度は、基金へ応募することができなかった。現在継続して改組を検討している。
- 4 危機管理体制の確認と見直し（新規）
 - ・実施できなかった。

情報セキュリティ関係

- 1 情報セキュリティに関する啓蒙（継続）
 - ・ハード面においてはウイルス対策ソフトや Web ブラウザのブラックリストサイトによるブロック，事務部メールにおいては隔離サーバのレベルを上げ，エンドユーザのリスクの量を低減。ソフト面は特筆すべき要注意メール到着時や，日々のセキュリティ注意喚起等を行った。
- 2 情報セキュリティの脆弱性の解消（メールサーバー，Web サーバーの統合）（新規）
 - ・メールサーバは3月15日に機構の365に移行が完了した。Web サーバの統合に関しては検討を継続する。
- 3 情報セキュリティ知識の底上げ（継続）
 - ・機構本部の情報セキュリティ教育（e-Learning）にて，合格点に達するまで反復して行ってもらったこと，誓約書取得時の資料『要機密情報の外部電磁的記録媒体への保存禁止』において，情報セキュリティ知識の底上げを行った。

その他特記案件

- 1 情報システム統括室の設立準備（新規）
 - ・情報システム統括室の設置を決定し，諸規定を制定した。

1. 7 管理運営等

1. 7. 1 運営組織

平成30年度に人員削減への対応，また学内業務の効率化，教員業務の平滑化，責任体制の明確化，運営体制の強化及び特色化等を目的として，全学委員会と5部門（教務部門，学生部門，寮務・グローバル教育部門，専攻科・研究推進部門，総務部門）に組織される委員が兼務となる体制に再編し，運営を開始した。令和2年度から再編後の運営体制について検証及び運営組織の最適化を始め，優れた点として業務分担が明確となったこと，委員会数の削減が進んだことが挙げられる一方，改善すべき点として教員個人の業務軽減，

情報共有、構成員からの意見の吸い上げがされていないこと及び部門横断的な業務に係る連携が不十分であることが挙げられた。要因の一つとして、令和元年度からの第4期中期目標・計画期間における人員枠の適用により、専門学科の教員枠が削減され部門兼任が必要となったことが考えられたため、令和3年度に各部門の人員構成の一部見直しと総数の削減を行い、令和4年度には産学協働研究センターと地域創生研究教育センターを統合した産学協働・地域創生研究センターならびに共通機器管理センターを専攻科・研究推進部門管轄とした。

5部門以外においては、令和元年度に第1学年の学年主任を新たに配置し、学生指導の面において学科の枠を超え学年を通して指導方針を統一したほか、施設整備委員会委員に3主事及び事務部長を追加し、施設整備計画を学内で共有できる体制とした。また、将来計画委員会と点検・評価委員会を総務委員会に統合し、組織体制を整えた。

令和2年度には、学年主任を第1学年だけでなく第2学年にも配置し、また研究設備・機器の共用化を促進させるため、共通機器管理センターを起ち上げた。さらに業務合理化及び業務に応じた人員の適正配置のため、事務組織においても図書・国際交流係を設置し、組織体制を整えた。

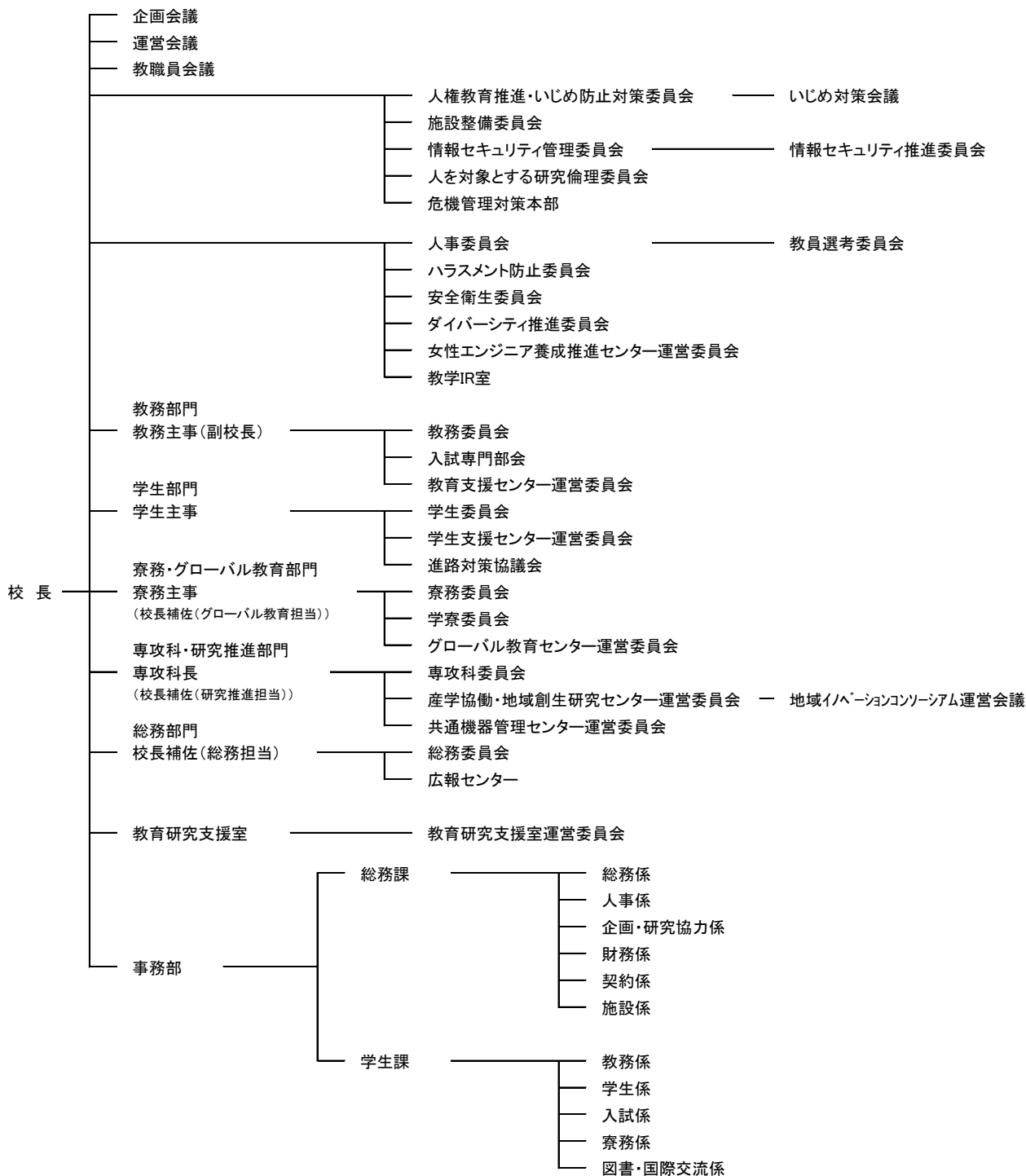
令和4年度に教学IR準備室を設置し、令和5年度より正式に教学IR室を発足させた。令和5年度は企画会議からのリサーチクエストに答えるため、入試制度の見直し、入試戦略、留年・休学・退学率を減らす方策等を検討するための分析データを作成した。

また、令和4年度、男女共同参画推進委員会からダイバーシティ推進委員会への組織名称ならびに審議事項の変更を行い、既存の校務分掌（男女共同参画に関すること、女性研究者の養成支援や女子学生のキャリア支援等の裾野拡大）に加え、他部門からの要請に基づくダイバーシティ推進に係る事項の調整に関することが盛り込まれ、学生や留学生支援等も対象となるよう範囲が拡大された。

※令和5年度の運営組織図を次ページに示す。

令和5年度の運営組織図

奈良工業高等専門学校運営組織図(令和5年度)



1. 7. 2 教員組織

1. 7. 2. 1 専任教員の配置（現員数）状況

本校教員数の配置（現員数）は次のとおりである。

（令和6年5月1日現在）

所属 職名	校 長	一般教科	機械 工学科	電気 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	物質化学 工学科	合 計
校 長	1							1
教 授		6	6	3	4	6	6	31
准教授		10	2	5	3	3	4	27
講 師		2	0	0	0	0	0	2
助 教		5	0	2	2	1	0	10
合 計	1	23	8	10	9	10	10	71

※その他に次の教員が在籍。

電気工学科 嘱託准教授 1 名（短時間再雇用教員）

1. 7. 2. 2 出身大学等の構成

本校教員の出身大学等の構成は、次のとおりである。

(令和6年5月1日現在)

大 学 名	人数	大 学 名	人数
北海道大学	2	山口大学	1
東北大学	2	徳島大学	1
千葉大学	1	九州大学	1
東京大学	1	佐賀大学	1
東京農工大学	1	宮崎大学	1
電気通信大学	1	琉球大学	1
金沢大学	2	富山県立大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1	大阪府立大学	3
岐阜大学	1	大阪市立大学	2
豊橋技術科学大学	5	法政大学	1
名古屋工業大学	1	同志社大学	4
名古屋大学	1	立命館大学	1
京都大学	3	関西大学	1
奈良教育大学	4	近畿大学	1
奈良先端科学技術大学院大学	4	大阪電気通信大学	1
大阪大学	10	関西学院大学	1
神戸大学	3	甲南大学	1
広島大学	1	外国の大学・その他	2
鳥取大学	1	(うち本校卒業者)	8
岡山大学	1		

1. 7. 2. 3 年齢構成

本校教員の年齢構成は次のとおりである。

全教員 71 名の平均年齢は 49. 2 歳であり, そのうち教授 (31 名) は 54. 9 歳, 准教授 (27 名) は 46. 2 歳, 講師 (2 名) は 42. 1 歳, 助教 (10 名) は 36. 8 歳である (次表参照)。

(令和 6 年 5 月 1 日現在)

年 齢	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
67							0
66	1						1
65							0
64		1					1
63		2					2
62		2	1				3
61			1				1
60		4	1				5
59							0
58		2					2
57		3					3
56							0
55		4	1				5
54		1	1				2
53							0
52			1				1
51		3			1		4
50		1					1
49		3	2				5
48		2	2				4
47		1		1			2
46		2	1				3
45			3				3
44			2				2
43			1				1
42			1				1
41			3				3
40			1				1
39			3		1		4
38			1		2		3
37				1	1		2
36			1				1
35					3		3
34							0
33					1		1
32							0
31							0
30							0
29							0
28							0
27					1		1
26							0
合計	1	31	27	2	10	0	71

1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準

教員の採用・昇任等については優秀な人材をより公正に選考するため、校長の諮問機関である人事委員会において、採用の場合は教員選考委員会から、昇任の場合は学科から推薦のあった任用候補者について、奈良工業高等専門学校教員選考基準を踏まえて審査している。

1. 7. 2. 5 教員人事について

新規採用については、教員の退職等に伴う補充人事であるのが一般的である。したがって、当該教員の専門分野を継承する人材の採用が原則となっている。一方、平成29年度以降は学生支援専任教員や女性エンジニア養成推進センター担当教員を採用する等、全学的な重点課題へ対応するための新たな教員人事も行っている。

平成30年11月には、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保する観点から、人事委員会の下に教員選考委員会を新設した。当委員会において公募要領の作成並びに応募書類及び面接（模擬授業を含む）により、候補者の選考審査を行うこととした。採用にあたっては採用予定者を人事委員会へ推薦し審議する。人事委員会の承認後、校長が最終的な決定を行っている。

令和4年度に実施した電気工学科の女性限定公募では、博士号を持っていない候補者を初めて、任期付きの助教として採用した。3年以内に博士号を取得できれば無期雇用に転換する、この制度を使つての初めての採用であった。これも人材確保のための有効な手段であると考えられる。

なお、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標にも掲げられているとおり、優れた教員を確保するため、教授、准教授について本校以外の勤務経験者、長期海外研究・経済協力者の占める割合を向上させることや、高専のみならず、大学を含めて採用校以外への人事交流を活性化させること等が必要である。

1. 7. 3 事務組織

本校における、事務部職員の配置状況は次のとおりである。

(令和6年5月1日現在)

課名	係 名	部 課 長	課長補佐・ 専門職員		専門職員・ 係長		主任		一般職員		看 護 師	計	再雇用・ 有期雇用・ 非常勤						合 計
			事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系			再雇用職員	事務補佐員	技術補佐員	技能補佐員	臨時用務員	その他	
部 長		1										1							1
総務課	課 長	1										1							1
	課長補佐		1									1							1
	総務係				1		1		1			3		1					4
	人事係				1		1		1			3		1					4
	企画・研究協力係				1		1		1			3					1		4
	財務係				1		1		1			3		1					4
	契約係				1		1		1			3		1					4
	施設係				1		1					2		1					3
	総務課付け								1			1							1
	計	1	1	0	6	0	6	0	6	0	0	20	0	5	0	0	0	1	26
学生課	課 長	1										1							1
	課長補佐		1									1							1
	教務係				1		2		1			4		1				1	6
	学生係				1		1		1		1	4	1	1				3	9
	入試係												1	2					3
	寮務係				1							1		2		3	1	1	8
	図書・情報係				1							1		5					6
	国際交流係				1							1		1					2
	計	1	1	0	5	0	3	0	2	0	1	13	2	12	0	3	1	5	36
教育研究支援室				3		7				3		13			3				16
機械工学科												0		2	2				4
電気工学科												0		2					2
電子制御工学科												0		1					1
物質化学工学科												0			2			1	3
合計		3	2	3	11	7	9	0	8	3	1	47	2	22	7	3	1	7	89

1. 7. 4 自己点検・評価

本章においては、管理運営等にかかるこれまでの取り組みを自己点検・評価し、次年度以降の課題を明確にして、その改善を図る。

○運営組織について

- ・ 平成29年度に国際交流委員会と留学生委員会をグローバル教育センター運営委員会に統合し、更なるグローバル教育推進のための体制を整えたことは、高専機構が重要事項として掲げている「国際化」に対応しており、優れた取り組みである。
- ・ 平成30年度に校長補佐にグローバル教育，研究推進，総務の各担当を新設し，それぞれ寮務・グローバル教育，専攻科・研究推進，総務の各部門を担当することにより責任体制を明確にし，運営体制の強化をもたらしたことは評価できる。
- ・ 平成31年度に第1学年における学年主任の新たな配置による学科の枠を超えた学生指導方針の統一，施設整備委員への3主事及び事務部長の追加による施設整備計画の学内共有体制の確立及び将来計画委員会と点検・評価委員会の総務委員会への統合は組織体制の強化をもたらした。
- ・ 令和2年度に第2学年にも学年主任を配置し，更なる学生指導方針の統一を図ることができた。また，全学組織として設置した「共通機器管理センター」が保有する共用機器を学内外で利用可能な体制を整備するとともに，「先端研究設備整備補助事業」による設備の遠隔化・自動化と，「阪奈機器共用ネットワーク」への参画による学外機関との共用化を進め，さらなる共同研究や産学官連携の推進を強化した。
- ・ 令和5年度に専門性の高い情報セキュリティ及び学内の基幹ネットワークなどを一元管理する情報システム統括室準備室を立ち上げ，併せて学生課図書・国際交流係を学生課図書・情報係と国際交流係に再編した。年度内に情報システム統括室規程を整備し，令和6年度から運用を開始している。

○教員組織について

- ・ 教員の出身大学等は，北海道から沖縄までの国公立大学及び外国の大学と幅広く，多様な人材により構成されていることがわかる。なお，教員の年齢構成は全世代間に広がっていることから，適正であると判断できる。
- ・ 採用等に関しては，広く公募を行い本校選考基準に基づき選考をするとともに，模擬授業を行わせることで，研究実績だけではなく，講義力のある優秀な人材の確保を図っている。

- ・ 人事委員会の下に教員選考委員会を新設することにより、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保している。
- ・ 女性教員の採用・登用の促進等，男女共同参画推進を図るための継続した取り組みとして，第4期中期目標・計画期間における教員人員枠を考慮に入れながら，各学科の基本人員枠を設定するとともに，当該人員枠を超過したポストを校長預かりポストとして管理し，当該ポストを女性教員限定公募に使用することにより女性教員の増加につなげていることは評価できる。
- ・ 令和3年度に新任女性教員を対象としたスタートアップのための研究費支援を実施すべく，「女性研究者環境支援プロジェクト実施要項」を制定し，女性教員の研究環境及び研究力向上を図っている。（採択者数：令和3年度2名、令和4年度1名、令和5年度1名）
- ・ 他高専及び他機関の教育研究活動に従事させることにより教員の能力を高めるべく，「高専と両技科大との教員人事交流制度」等の活用による更なる人事交流の推進が必要と考える。教授昇任の要件の1つとして「当該人事交流経験者」を要件に加えるなどの方策が必要である。

○事務組織について

- ・ 事務職員においても組織の活性化や個人の能力を高めるべく，大学などの他機関や近隣国立高専との積極的な人事交流が必要と考えているところではあるが，近隣大学の人事交流縮小（大学内での人材育成への方向転換等）の影響を受けており，人事交流を実施できていない状況であるが，他機関への積極的な働きかけを継続する。

第2章 学科総括

2. 1 一般教科

一般教科では、各専門学科と連携しながら、「幅広い視野と教養」、「豊かな人間性とコミュニケーション能力」、「創造力と実践能力」を有した技術者を育成することを最大の目標としつつ、本科での5年間、あるいは専攻科2年間を含む7年間にわたる専門教育を確実なものとするために、特に本科低学年における基礎学力の獲得に重点をおいた教育指導を実施している。この「基礎学力」の定着のためには、通常の授業における学習に加え、自学自習の習慣付けを欠かすことができないため、日頃から適切な課題を課すなど地道に指導を行い、また各学生の必要性に応じた補習や補講も実施している。併せて、一般教科の教育実践に必要な物理実験室、応用物理実験室、化学実験室、学習指導室、体育館、25mプール、武道場、運動場、テニスコート、地域創生交流室などの各種施設の環境整備・維持管理を行い、また、地域のイベントに参加するなど、教育・研究の地域還元も積極的に行ってきた。以下、令和5年度における一般教科の専任教員23名にて行った重点的な取り組み、およびその状況について述べる。

1) 令和5年度の重点取り組み課題

- ①低学年教育の充実（継続）
- ②就職／大学編入学に関する相談や支援（継続）
- ③学年主任制度（新学級担任制度）の検証（新規）

冒頭にもあるとおり、①、②については一般教科の性質上、常に一般教科の（最大の）重点的取り組み課題となる。この2つに加え、平成31年度（令和元年度）に開始され令和5年度にて本科全体に行き渡った「新学級担任制度」の検証を行うことを令和5年度における重点的取り組み課題とした。

2) 重点取り組み課題の達成状況

- ① 「低学年教育の充実」は一般教科が掲げる最大の取り組み事項であり、日頃の授業における学習指導はもとより、放課後における学生指導にも大きく力を入れている。特に、数学科では1年生を対象とし、毎週1回、放課後に数学担当教員の指導のもとで非常勤講師や専攻科生のティーチングアシスタントも配置して補習を行った。また、英語科やグローバル科を中心として海外派遣・留学生受入などの国際交流事業プロジェクトに対応した学生指導（英語プレゼンテーション指導なども含む）を実施し、本校の国際的な活動を下支えしている。
- ② 進学に関する相談や指導に対し（また①に関連する低学年指導に対しても）、各教員はオフィスアワーはもちろんのこと、それ以外にも放課後等に相談や質問を受け付け、指導

を行なった。特に大学編入学指導に関しては、物理科においては平成23年度から大学編入学を希望する4～5年生を対象とし、放課後に定期的に編入問題への対応を中心としたハイレベルな補習を実施している(令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため集合形式ではなく文章による指導を行っていたが、令和5年度より対面での補習を再開した)。その他、英語科、数学科、化学科においても、編入学試験に関する質問に随時対応しており、また、文系科目、特に国語科を中心に就職・進学に必要な小論文指導や志望理由書・手紙の書き方等の相談に応じ、本校が就職・進学を高いレベルで維持していることに貢献している。

③ 平成31年度(令和元年度)より、第1・2学年の学級担任を全て一般教科の教員とし、またそれぞれの学年に学年主任を配置するなどの「新学級担任制度」が開始された。この制度は年次進行であったため、令和5年度において、本科の全学年に行き渡ったこととなり、この段階をもって制度の検証等を行った。この新担任制度により学科毎の(“縦”の)繋がりに加えて学科を超えた(“横”の)指導方針の決定・実施がより発展した形で行えるようになり、加えて、学年主任の主導による学年会議(担任会)を頻繁に行うことで学級運営に対する相互の助言や支援が得られ、諸事項への対応がより手厚いものになったと考える。実際、学年主任が主導することで従来はあまり行われなかった合同特活が実施され、また「学校生活のルール」や「試験期間中の教室利用のルール」を学年にわたって共通して実施することが可能となるなど複数の改良点が見られた。また、アンケートを基にした担任教員からの意見も極めて好評であり、一般教科として、今後も必要に応じて微調整をしながらこの「新担任制度」が継続されていくことを強く希望することとなった。

3) 令和6年度に向けた課題

- ①低学年教育の充実(継続)
- ②就職／大学編入学に関する相談や支援(継続)
- ③入試広報活動への取り組み(新規)

一般教科の使命を鑑み、「①低学年教育の充実」、および「②就職／大学編入学に関する相談や支援」の2つは、令和6年度においても引き続き一般教科の重点課題となる。この2つに加え、令和6年度に初めて実施した体験入学における一般教科の取り組み(体験入学にて実施した「模擬授業」)、また、中学校訪問等の入試広報活動への取り組みおよびその成果についての検証を、令和6年度における重点課題の1つとしたい。

2. 2 機械工学科

1) 令和5年度の重点取り組み課題

- ① 教員8名体制における業務の効率化(継続)
- ② 志願者増を目指した学科広報(継続)
- ③ 進路指導方針・体制の検討(継続)

④ 各種プロジェクトを活用した実験・実習の検討（新規）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 令和5年度の機械工学科の教員数は8名（教授6名，准教授2名）であり，このうち2名はそれぞれ主事補，副専攻科長を務めており，教員一人あたりの授業や学生指導などの学科に関する業務量は依然として高い水準にあった。そのため，科内会議については前年度に引き続いて情報共有，各種委員会からの意見聴取等に Microsoft Teams を活用することで，短時間での実施が行えた。また学生指導に要する負担が学級担任のみに過度に集中しないように，学科主任がサポートにあたった。

教員個人の業務の軽減・効率化についての方策はこれといった打開策が見あたらないのが現状である。まずは，各種委員会委員等の比較的把握しやすい業務だけでなく，たとえば公開講座や外部イベントへの参加等の情報を科内会議で共有することで，学科教員全員での状況理解を図った。

② 機械工学科内に広報担当を設け，志願者獲得につながる広報イベントにおける広報活動を行った。広報担当教員は学生と協同して広報活動に取り組み，学生の課外活動の支援も兼ねている。年度当初に広報活動に興味のある学生を募集し，広報担当教員とともに年度活動計画を立案したのち，いくつかのテーマを設定して取り組んだ。テーマの中には，具体的に「ものづくり」に関わるものや各種コンテストを目指したもの等，多岐に渡っており，自ら課題設定を行い，実践することができることから機械工学全般に強い興味や関心を持つ学生にとっては好評であり，学年を問わず多くの学生が参加した。その成果は，体験入学，高専祭，入試・学科説明会などで展示され，学生による説明は，各イベントに参加した中学生やその保護者からも好評であった。これらの広報活動の志願者増への効果に関しては，未だ十分な成果を上げるまでには至っていないが，継続して機械工学科の取り組みを学生と共に発信していくことで志願者増につながると考えている。

③ 進路指導に関して，4名の教員が分担して指導を行なった。2月上旬に4年生を対象に進路ガイダンス（就職・進学のための説明会）を行い，その後，機械工学科の進路指導室を開放し，学生に求人情報を閲覧させることで就職活動に対する意識を高めるように指導した。なお，学生の進路相談については，進路指導担当教員が主として対応するが，事前に研究室の仮配属を行い，指導予定教員からもアドバイスが受けられるよう複数体制をとっている。また，Microsoft Teams を用いて求人情報を閲覧できるようにしており，遠隔での進路指導も行える体制を整えた。

令和5年度の進路内訳は，就職23名，進学20名（専攻科への進学5名を含む）であった。就職先としては，機械，建設，電気，化学等の製造業が中心であるが，運輸，情報・通信業，独立行政法人等の多様な業種がみられる。就職に関しては，例年通り，機械工学科に対する求人件数は非常に多く，採用担当者との面談において高専卒業生の実力を高く評価される方が多いことから，その期待の大きさを感じている。一方，進学に関しても専攻科を含め多くの国公立大学等へ進学している現状から，在校生及びその保護者の進

学に対する興味は高まる一方である。いずれの場合も多様な進路を保障しているという点では、一定の成果を示しているように思えるが、現実には進路決定の際、思うような結果を導けない者も数人みられた。指導方法を含めた改善策を検討する必要があると考えている。

④ 4年・5年開講の機械工学実験において、デジタルツインを用いたテーマの開発と試行を実施した。このテーマでは、ラジコンカーのウィングの角度および流速を変化させることで得られるダウンフォースを、風洞実験およびシミュレーションによって比較するものである。実施後のアンケートからは「楽しく学ぶことができましたか」に対して97%が肯定的な結果であり、デジタルツイン技術習得のための実践的教育手段として有効であることが示された。

3年開講科目において、高専防災減災コンテストへの応募に取組んだ。鉄道の踏切における車椅子落輪を防止する課題解決では、行政機関、鉄道関係者、車椅子利用者へのヒアリング、設計、試作、実験を行い、審査員特別賞を受賞した。

3) 令和6年度に向けた課題

① 教員8名体制における持続可能な学科運営（新規）

これまで業務の効率化に重点をおいた取組みを行っていたが、少人数で業務を遂行しているため担当業務の固定化がみられる。現状のようにうまくまわっているうちは大きな問題とはならないが、今後は個人に頼り過ぎない運営が求められる。なお、新規課題として設定しているが従来の課題①の継続・発展的なものである。

② 志願者増を目指した学科広報（継続）

前節に述べた取組にも関わらず、学科志願者(第1希望)数は減少した。取組みを継続することで志願者増をはかる。

③ 進路指導方針・体制の検討（継続）

これまで機械工学科卒業生が就いたことが希な業種・職種を希望する学生がみられるようになっている。進学希望先についても機械工学の枠組みではないところへの希望もみられる。このような多様な進路も含むキャリア教育に関する方針・体制を検討する。

④ 各種プロジェクトを活用した実験・実習の検討（継続）

令和5年度を取組をさらに促進していく。

2. 3 電気工学科

1) 令和5年度の重点取り組み課題

① 少人数で運営していくための業務の効率化（継続）

② 教育・実験環境の整備（新規）

③ 学力不振学生およびハンディがある学生の対応（継続）

④ キャリア教育の充実（継続）

⑤ Web を有効活用した学科広報（新規）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 令和5年度の学科教員数（常勤）は、4月より2名の教員が加わり、電気を専門とする教員9名（教授3名、准教授4名、助教2名）、女性エンジニア養成推進担当（准教授）1名の計10名で、このうち博士号取得者は9名である。教員の入れ替わりで、体験入学や公開講座をはじめとする学科イベントや就職関係などの担当を大きく変更することとなり、これを機に業務の効率化と学生支援の質向上を目的に体制の見直し等を行った。また、求人情報を集約して公開するソフトウェアを改善し、作業の効率化を行った。全体として改善面も見られるが、業務が増加傾向にあるため、実質、個々の教員の熱意によって回っている部分があり、さらなる業務の効率化を進める必要がある。

② 実験・実習授業やイベントに関する保管物品が増えており、保管場所の確保が難しくなっている。そこで、実験室や工作室を含めた各共通スペースにある不要物品の廃棄や片付けを順々に進め、スペースの有効利用と各種作業の効率化を図った。また、セキュリティを向上させるため、教員研究室と学生実験室の無線LANを整備・再構築した。

③ 低学年の不可A持ち上がり制度の影響や社会の変化に伴い、学力不振学生の増加が顕著となっている。また、ハンディをもつ学生が以前より目立ってきており、日々の登校や卒業研究の遂行が難しくなる状況も出てきている。一方、これらの学生と近い教員に過剰な負担がかかってしまう傾向もあり、改善が必要であった。電気工学科では、毎月、全クラスの状況および学生の情報を交換する場を設け、学科で情報の共有を図っている。この情報交換会により、早期に担任や学生支援室と相談するなど、学生への的確で早い対処が可能になっている。また令和5年度は、学年をまたいだ積み上げ要素が特に顕著となる回路系科目とその応用科目において、より効果的に連携させるため、科目担当教員の配置および授業内容（扱う単元の順番と内容）を再考した。これは来年度以降、効果が現われるものと期待している。

④ 4年生に対して、5月、12月と2月に進路ガイダンスを実施し、複数回の進路調査および教員との面談を行いながら、進路選択から決定までの支援を行なった。また、電気工学科卒業生による進路セミナー、外部講師による2つの講演会を実施し、視野を広げかつ進路を考えるうえで参考となる具体的な情報を提供した。さらに、3月に2日間、就職希望者を対象とした企業説明会（複数のMicrosoft Teams 会議室を用意し、入れ替わり企業説明、オンライン）を実施した。4年生の11月に（1～3年生の保護者も参加可）、保護者対象の進路ガイダンスも行っている。3年生には、卒業生と語る会やインターンシップ報告会への参加等を通して、自らの進路について考える機会を設けた。

⑤ 広報を意識し、学科のHPをリニューアルした。また、学科のイベントや状況を外部に伝えるためX（もとTwitter）を開設し、情報公開を行った。

<公開講座・出前授業>

- ・「とっても楽しい IoT 教室 ～こんなものがインターネットにつながる～」
- ・「手作りモータを作ろう！ ～電気エネルギーから運動エネルギーへ～」

＜オンライン授業＞

- ・第1回「観測ロケットで宇宙をみる！ 通信実験を体験しよう」
- ・第2回「ミニ雷を発生！ 放電実験を体験しよう」
- ・第3回「太陽電池を作る！ 材料系実験を体験しよう」

3) 令和6年度に向けた課題

- ① 少人数で運営していくための業務の効率化（継続）
- ② 教育・実験環境の整備（継続）
- ③ 学力不振学生およびハンディがある学生の対応（継続）
- ④ キャリア教育の充実（継続）
- ⑤ Web を有効活用した学科広報（継続）

2. 4 電子制御工学科

1) 令和5年度の重点取り組み課題

- ① 問題解決能力を身につける実践的な技術者教育の充実（継続）
- ② 進路指導体制の充実（継続）
- ③ 学科広報および地域社会との連携体制の充実（継続）
- ④ 知財教育の充実および体系化の検討（新規）

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 電子制御工学科では、系統的にシステムデザイン能力・システム開発能力、さらには問題解決能力に富む技術者を育成する教育プログラムとして、ロボットを題材とした多段階体験型課題解決プログラムを1年次から3年次までの「工学実験」で実施し大いに教育効果を上げている。また、4年次の「システム設計製作」においては、CADや3Dプリンタなどを使って自律型ロボットを設計製作し、学科内ロボットコンテスト（学生のスキルを踏まえ、『レスキューロボット』、『清掃ロボット』、『配達、回収ロボット』等、毎年課題内容・難易度を見直している）を実施し、総合的なメカトロニクス技術を身に付けさせると共に、豊かな創造力の育成を行った。さらに予算、時間、設備、知識等様々な制約がある中で、設定された課題を解決するロボットシステムの設計・製作を、学生5～6名で構成されるプロジェクトとして、より実践的な活動を通して問題解決能力を養うことができた。なお、多段階体験型課題解決プログラムの特徴である、1年次からのレゴマインドストーム等を教材として、学年進行と共に段階的に学習レベルを上げていく方式（多段階体験）を令和5年度も継続して行った。また、第3年次には、ベースロボットに TETRIS 及び myRIO を

用いた教材を導入し、課題解決のための手法について学習させている。さらに、これらの実践教育の成果を、自ら製作したロボットの実演を交えた説明を行うことで、プレゼンテーション能力の育成を図っている。これらの取組みにより、学生の主体性が助長され、創造性の育成に大きく寄与していると考えられる。

② 進路対策委員会を設置し、指導教員及び保護者との連携を図りながら、学生の就職・進学について学生本人の希望を尊重し、進路指導を行った。学生への指導は、4年次の学年末に進路ガイダンスを行うとともに、就職、進学したOB・学生との懇談会を持ち、進路決定の参考とした。また、年末以降に昨年度分の求人資料を公開し、5年次に進級する前から将来の進路に対する意識を喚起した。さらに、5年生の保護者対象の進路ガイダンスを令和5年度直前の3月下旬に実施し、学科の進路方針について説明を行った。そして、5年次4月当初に就職・進学の希望調査を行い、進路対策委員、指導教員、保護者等のアドバイスのもと4月初旬より具体的な受験企業及び進学受験先を決定した。なお、早期の採用選考等就職活動に対しては、学生重視の観点から、各企業側の計画に応じて対応を行った。令和5年度の求人企業数は623社（令和4年度521社）と大きく増加した。卒業学生31名中、就職を希望した学生は12名であった。このうち73%の学生が5月中に就職先の内々定をいただいた。一方、19名の学生が専攻科、大学等へ進学した。進学先の専門分野は本学科が複合系学科であることから、機械系、電気系、情報系等多岐に渡っているのが本学科の特徴である。19名のうち本校専攻科には6名が進学した。

③ 小学校高学年生を対象とした公開講座「楽しく作るライン追跡ロボット」を実施した。本公開講座は、毎回参加希望者が定員を超過しており、抽選により参加人数を調整している。実施アンケートの結果を見ても概ね好評であり、数年後に本校を受験し入学している参加者がいる等、長期的視点においても有効であることがわかる。また、産学連携への取組にも力を入れ、各種展示会等への展示、奈良県内外企業からの技術相談、共同研究や受託研究等を積極的に行った。地域社会との連携としては、電子制御工学科棟電子工学実験室を会場として大和郡山市科学教室・高専教室を開催した。さらに、学市連携出前授業として大和郡山市・生駒市の小学校等に出向き授業を行うなど、近隣地域の小中学生の科学技術に対する興味の一層の増進に貢献した。

④ 独立行政法人工業所有権情報・研修館が公募した「知財力開発校支援事業」に採択され、知的財産の保護や権利の活用についての知識や情意、態度の育成を実施した。取り組みとしては、5年生を対象に弁理士を招聘して講習会を開催してJ-PlatPatを用いた特許情報の検索について研修を行った。また、特許検索研修会・特許検索競技大会に出場した。特許検索競技大会の合格基準は大問3問すべて60%以上かつ全体70%以上であり、結果は認定率84%と昨年度を16%上回る好成績であった。また、2年生を対象に、課題発見・解決手法を説明し、TRIZ（発明的問題解決理論：Theory of Inventive Problem Solving）を用いた演習を通して知的財産について理解を深めた。

3) 令和6年度に向けた課題

- ① 問題解決能力を身につける実践的な技術者教育の充実（継続）
- ② 進路指導体制の充実（継続）
- ③ 進路選択のための段階的なキャリア教育の検討（新規）
- ④ 学科広報および地域社会との連携体制の充実（継続）

2. 5 情報工学科

1) 令和5年度の重点取り組み課題

- ① 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業への対応の検討（新規）
- ② 生成 AI の教育利用に関する科内・学内ガイドラインの検討（新規）
- ③ 予算獲得に伴い、学内で増加し続けるネットワーク接続機器の維持管理問題（新規）
- ④ 令和6年度全国高専プログラミングコンテストの開催準備（新規）
- ⑤ 情報工学科棟改修計画の策定（継続）
- ⑥ 学内の情報共通教育への支援・協力（継続）
- ⑦ 体験入学など学科広報の充実に向けたシステム化（継続）

2) 重点取り組み課題の達成状況

- ① 情報工学科が高度情報専門人材育成の機能強化の核となる見通しの下、まず4月から学科内で検討を開始した。その後、7月に改組検討WGが学内で発足したことに伴い、情報工学科のWGメンバー3名を中心として学科内改組検討WGで新学科の概要、教育カリキュラムの骨子等の具体的な検討を行った。
- ② 最近の生成 AI の急速な普及、大学での生成 AI の教育利用に関するガイドラインの公表を受け、まず国内先行大学でのガイドラインの情報収集を行った上で、5月上旬に、情報工学科の教員3名で、人工知能、情報アクティブラーニング等の実習系科目に対する生成 AI 利用のガイドラインを検討し作成した。その後、教務委員会からの依頼を受けて、令和5年度発足した数理DS/AI教育検討WGのメンバー(情報リテラシ担当教員)らに国語科、英語科教員、担当教務主事補をメンバーに加えて、教育利用に関する学内ガイドライン案の検討・作成を行い、検討メンバーの意見を踏まえた上で、8月末に原案をまとめて教務委員会に提出し、11月末の教務委員会で「奈良高専生成 AI 活用ガイドライン」として承認された。
- ③ 学内で増加し続けるネットワーク接続機器の維持管理問題について、情報工学科教員を含む情報システム管理に関わる関係教員からの相談を受けて、情報工学科主任として夏頃に全学的な情報システム統括組織の必要性について検討と情報収集を開始した。岡山大学での先行事例を参考に、事務部、教員(学科、教員ネットワーク)、教育(総合情報センター、技術職員)、その他(獲得予算毎の情報機器)に分かれていた人、情報機器、ネットワークなどの学内資源を一括管理する情報システム統括組織の構想をまとめ、学科教員らで議論の上、教務主事、事務部長らに提案し、その後学内で実施に向けた準備室が立ち上がった。

④ 令和6年10月に開催される全国高専プログラミングコンテストの主管校を奈良高専で担当するため、山口賢一実行委員会副委員長を中心として学科教員らが協力して準備を進めた。

⑤ 令和5年度に情報工学科棟改修申請を行い、令和4年度の学科内WGで作成した改修計画を元に計画の手直しと改修の準備を行った。令和6年1月に予算が通り、令和6年度情報工学科棟全面改修のための準備作業を開始した。平成20年度の情報工学科棟の空調・照明改修時には2段階に分けて改修に伴う学内移転を行ったが、今回は8月以降年度末までの全面改修のため、情報工学科棟から人・物・機材などを全面的に学内各所に一時移転することになった。準備作業担当を、1)情報工学科棟各部屋の学内移転先の確保調整(施設・教務・学生・総務各係)、2)移転費の見積もり(移転物品のリスト化)作成(契約係)、3)改修後の機材・物品等調達の計画・見積もり作成(財務係)、4)移転工事のレイアウト等詳細設計(施設係)、に分担して準備を行った。

⑥ 情報工学科では、1年次の情報リテラシー科目の全学導入化に伴い、共通シラバスの作成、非情報系4学科の情報リテラシー立ち上げ作業および授業を担当し、その後は教務委員会と協力して、各専門学科教員への授業担当の引継ぎ支援を行ってきた。令和4年度には、教務委員会からの依頼により、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベルへの申請に向けて、数理・データサイエンス・AI実習授業の準備と実施を、AI分野を専門とする教員2名で行い、1年次の情報リテラシー科目の後期3週分について、数理・データサイエンス・AI分野の実習コンテンツを作成し、実習授業を担当した。令和5年度の実習は各科担当教員への引継ぎを兼ねて情報工学科教員で担当し、令和6年度以降は、各科情報リテラシー担当教員による実施を予定している。

⑦ 体験入学について、令和4年度から、学科教員を(1)ネットワーク・セキュリティ・AI、(2)ハードウェア・IoT、(3)ソフトウェア・マルチメディア、の3グループに分け、各年の担当についてローテーション制を導入して、毎年異なるテーマで体験授業を行えるように変更した。令和5年度には、ハードウェア・IoT分野を専門とする教員らを中心として、数学の方程式を解くプログラミング実習を実施した。公開講座および体験授業などで毎年実施している「夏休みAI講座」のコーナーで、令和5年度は最近注目されている生成AIについて、生成AIの学習の仕組みと特徴、活用する際の注意点などについて分かり易く説明した。

3) 令和6年度に向けた課題

- ① 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業への対応(継続)
- ② 令和6年度全国高専プログラミングコンテストの開催準備・実施運営(継続)
- ③ 情報工学科棟全面改修の実施(継続)
- ④ 学内の情報共通教育への支援・協力(継続)
- ⑤ 体験入学など学科広報の充実に向けたシステム化(継続)

2. 6 物質化学工学科

1) 令和5年度の重点取り組み課題

①実践教育の取り組み（継続）

当該学科では、『化学と生物の二つの学問領域を礎とする幅広い技術領域で活躍できる、時代に流されない確かな学問と技術を有したダイナミックレンジの広い創造的人材の育成』という目標を掲げて教育を行っている。化学と生物の理解と実験技術の習得は密接に関連しており、これらの分野においてイノベーションを起こせる人材育成を行う必要がある。

②地域社会貢献の拡充（継続）

当該学科では、学生が機器分析技術や原理を習得することの重要性を考え、学生・教職員の教育研究活動の高度化と活性化、さらには産学連携活動の推進をめざして、物質化学工学科機器分析センター（平成25年度に高専教育の高度化予算の支援を受けて設立、今年度に全学的な組織に改編）の拡充を行なってきた。引き続き、高度な能力を有する技術者の育成を行うとともに、IoT 技術に対応できる化学・生物分野の人材育成の先にある、地域企業への社会貢献を検討してゆく。

③先端技術教育の国際化（継続）

当該学科では、化学と生物に係わる産業分野において、急速な時代の流れにも対応できる創造的人材の育成を目指している。現在、我が国を取り巻く国際情勢は風雲急を告げ、先端技術教育の趨勢が国の存亡に係るところにまで事態が進行している。そこで、応用化学からバイオテクノロジーの基礎と応用力を使って、分子・ナノレベルの微小な世界から化学工学によるプラント設計や地球環境の保護といったマクロ的な世界にも対応できる人材の育成を行い、産業界に優れた人材を送り出すことが重要である。

2) 重点取り組み課題の達成状況

① 当該学科教員や職員が教育方法を頻繁に見直し、学生のレベルに応じた対応も併用し、学生の実験技術の向上に貢献している。また、Microsoft Teams や Webclass によるグループワークやプレゼンテーションを駆使し、ICT 教育を取り込んだ形での実践的教育を行うことを可能にしてきた。

② 例年、教員が公開授業、学市連携協定に基づく科学教室、出前授業等を通して学外協力にも積極性に参画し、理科教育支援及び産学連携活動を推進している。また、研究活動における社会貢献は、各教員レベルで取り組んでおり、それぞれ専門分野での学協会に所属して学会活動を行っている。さらに、科学技術研究費をはじめとする競争的資金、企業との共同研究・受託研究あるいは奨励寄付金を獲得する教員もあり、その研究成果を通じた社会貢献にも積極的に取り組んでいる。上記に加えて当該学科では、高度な分析装置の有効利用と維持管理の観点から、学外にも広く門戸が開かれた組織としての役割を担えるように、機器分析センターに設置されている研究設備・機器について、地域企業や近隣大学・

研究機関による共用化による有効活用を促進してきた。

③ グローバル人材の育成に対応した技術教育への対応として、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムに基づいた英文電子ジャーナルを活用した卒業研究・講義等における文献調査の推進を行ってきた。特に、学生に対する技術分野の外国語教育は、卒業研究において、英語の文献調査等、研究遂行による実践的な取り組みを通じて推進し、専門用語に慣れる機会を増やして英語力の増強をはかってきた。また、学生・専攻科生が国内外で開催される国際会議において研究発表を行ってきた。

3) 令和6年度に向けた課題

① 実践教育の取り組み

化学と生物の理解と実験技術の習得は密接に関連している。実験スキルチェックなどを活用し、実験技術習得の向上を図る。また ICT 教育を併用することで、効率の良い学習のありかたを検討する。

② 地域社会貢献の拡充

化学・生物分野の人材育成や研究開発を通じた、地域や社会への貢献をいかに行うか検討する。

③ 先端技術教育の国際化

教員および学生が海外に出て研究や技術教育で交流を進めるための仕組みの拡充をいかに行うか検討する。

第3章 研究活動

※教員の研究活動については国立高専研究情報ポータルへの掲載に代えています。

(<https://research.kosen-k.go.jp/>)

3. 1 教育研究支援室における研究活動

【学会講演等】1 件

◎ 技術職員のみ（1 件）

1. ものづくり実験実習棟【実習工場】の管理・運営について（移管とその経緯，
展望・課題）
尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一
第15回高専技術研究発表会 in 松江 発表原稿集，2024年2月，pp.97-98

【学術論文等】3 件

◎ 教員（*1）と本科生（*2）との連名（2 件）

1. マグネシウム合金における塑性加工とアークスポット溶接の条件について
の考察
溝上穹*2，鎌谷恵衣*2，宮本博司*2，水田来悟*2，尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一，
須田敦*1，谷口幸典*1，福岡寛*1
奈良工業高等専門学校研究紀要 令和5年度 第59号，2024年3月，pp.11-17
2. ハマルガード
山田智也*2，頼田将希*2，北河大夢*2，古谷僚基*2，矢田衣千加*2，橋本琳*2，
須田敦*1，尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一
第2回高専防災減災コンテスト要旨集，2024年2月，p7

◎ 教員（*1）および学外共同研究者（*4）との連名（1 件）

1. チタン材精密フライス切削における超硬工具摩耗評価
小林賢佑*4，児玉謙司*4，北川大介，和田任弘*4
公益社団法人 日本設計工学会 東海支部 令和5年度研究発表講演会

【技術研究会等への参加】（8 件）

研究会名：第2回機械工作技術研究会
開催日時：令和5年9月14日（木）～9月15日（金）
参加者名：島田大嗣
開催場所：静岡大学
主催：機械工作技術研究会実行委員会

研究会名：第15回高専技術研究発表会 in 松江

開催日時：令和6年2月29日（木）～3月1日（金）

参加者名：尾崎充紀

開催場所：松江高専

主催：松江工業高等専門学校

研究会名：奈良高専スタートアップ教育に関するシンポジウム

開催日時：令和6年3月4日（月）

参加者名：笹山智仁，尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一，北川大介

開催場所：奈良女子大学

主催：奈良工業高等専門学校

研修名：第24回 令和5年度 高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム

開催日時：令和6年3月6日（水）

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンライン（Zoomウェビナー）

主催：2023年度 KEK技術職員シンポジウム及びKEK技術研究会実行委員会

研究会名：令和5年度 高エネルギー加速器研究機構 技術研究会

開催日時：令和6年3月7日（木）～3月8日（金）

参加者名：尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一

開催場所：オンライン

主催：高エネルギー加速器研究機構技術研究会実行委員会

研究会名：機械工作技術研究会オンライン分科会2024

開催日時：令和6年3月13日（水）

参加者名：尾崎充紀，島田大嗣，福田龍一

開催場所：オンライン

主催：機械工作技術研究会実行委員会

研究会名：第7回 大学技術職員組織研究会（山口会議）

開催日時：令和6年3月14日（木）

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンライン（Webex）

主催：山口大学総合技術部，大学技術職員組織研究会

研究会名：2023年度 実験・実習技術研究会

開催日時：令和6年3月15日（金）

参加者名：尾崎充紀，加藤綾子，島田大嗣

開催場所：オンライン

主催：実験・実習技術研究会連絡協議会

3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況

【公開講座】3 件

タイトル：楽しく作るライン追跡ロボット

開催日時：令和5年8月5日（土）

参加者名：松浦亮太

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 電子制御工学科

タイトル：ビジュアルプログラミングでプログラミングを学ぼう

開催日時：令和5年8月5日（土）

参加者名：二宮由成

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 情報工学科

タイトル：からくり人形を作ろう

開催日時：令和5年9月23日（土）

参加者名：尾崎充紀

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 機械工学科

【出前授業】2 件

タイトル：超低温の世界を探る

開催日時：令和5年7月11日（火）

参加者名：片倉泰子

開催場所：郡山東中学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 一般教科物理

タイトル：超低温の世界を探る

開催日時：令和5年9月6日（水）

参加者名：片倉泰子

開催場所：学科指導教室「ASU」

開催組織：奈良工業高等専門学校 一般教科物理

【科学教室】3 件

タイトル：親子で楽しく作る 6 足歩行ロボット

開催日時：令和5年7月1日（土）

参加者名：登一

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 電子制御工学科（大和郡山市連携事業）

タイトル：少年少女パソコン教室

開催日時：令和5年7月1日（土）・8日（土）・15日（土）

参加者名：西野貴之

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 情報工学科（大和郡山市連携事業）

タイトル：いこまっこチャレンジ教室「音博士から教わり、調べてみよう！」

開催日時：令和5年9月30日（土）

参加者名：西野貴之

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：奈良工業高等専門学校 情報工学科（生駒市連携事業）

【広報活動等】8 件

タイトル：ひらめき☆ときめきサイエンス

「レーザー加工を探る～光で透明な材料は削れるか？～」

開催日時：令和5年8月6日（日）

参加者名：笹山智仁

開催場所：奈良工業高等専門学校 ラーニングコモンズ

開催組織：奈良工業高等専門学校 電子制御工学科

タイトル：令和5年度 小中学生ロボコン 説明会

開催日時：令和5年8月24日（木）

参加者名：笹山智仁，登一

開催場所：奈良工業高等専門学校 合同教室

開催組織：奈良工業高等専門学校 広報センター

タイトル：令和５年度 小中学生ロボコン 走行会

開催日時：令和５年 9 月 23 日（土）

参加者名：加藤綾子，北川大介，松浦亮太

開催場所：奈良工業高等専門学校 合同教室

開催組織：奈良工業高等専門学校 広報センター

タイトル：アクセサリーをクッキング!!

開催日時：令和５年 11 月 12 日（日）

参加者名：尾崎充紀

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：青少年のための科学の祭典奈良大会実行委員会

タイトル：シャボン玉がさわれる!?

開催日時：令和５年 11 月 12 日（日）

参加者名：島田大嗣

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：青少年のための科学の祭典奈良大会実行委員会

タイトル：ペーパークラフト風車をつくってみよう

開催日時：令和５年 11 月 12 日（日）

参加者名：福田龍一

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：青少年のための科学の祭典奈良大会実行委員会

タイトル：光は何色？光を分けて混ぜて、調べてみよう

開催日時：令和５年 11 月 12 日（日）

参加者名：加藤綾子，松浦亮太，北川大介，笹山智仁

開催場所：奈良工業高等専門学校

開催組織：青少年のための科学の祭典奈良大会実行委員会

タイトル：令和５年度 小中学生ロボコン 予選会

開催日時：令和５年 11 月 18 日（土）

参加者名：西野貴之，二宮由成

開催場所：奈良工業高等専門学校 大視聴覚室

開催組織：奈良工業高等専門学校 広報センター

【研修への参加】7件

研修名 ピペッティングアカデミー

開催日時：令和5年6月21日（水）ピペットの日常メンテナンス及び精度管理について

令和5年6月21日（水）ピペットの精度管理について（JCSS校正）

令和5年11月14日（水）知って得するピペットの人間工学

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンラインセミナー（GoToWebinar）

主催：ザルトリウス・ジャパン

研修名：令和5年度 東海・北陸・近畿地区高等専門学校技術職員研修会

開催日時：令和5年8月30日（水）～9月1日（金）

参加者名：松浦亮太，北川大介

開催場所：福井工業高等専門学校

主催：福井工業高等専門学校

研修名：DXで何ができるのかを知るワークショップ

開催日時：令和5年11月28日（火）・29日（水）

参加者名：笹山智仁

開催場所：奈良工業高等専門学校 ものづくり実験実習棟多目的室

主催：奈良工業高等専門学校 教学IR室

研修名：分析機器ユーザーに向けた計算化学入門Ⅱ

開催日時：令和6年1月30日（火）

参加者名：加藤綾子

開催場所：WEBミーティング（Zoom）

主催：東海国立大学機構 統括技術センター

研修名：令和5年度IT人材育成研修

開催日時：令和6年2月16日（金）

参加者名：松浦亮太

開催場所：DNP市谷田町ビル

主催：独立行政法人国立高等専門学校機構

研修名：業務効率化のためのDX 推進教職員の養成のための研修

開催日時：令和6年3月6日（水）・7日（木）

参加者名：笹山智仁

開催場所：奈良工業高等専門学校 地域創生視聴覚室

主催：奈良工業高等専門学校 教学IR室

研修名：三菱電機FATECトレーニングスクール（MELFAロボットスクール）

開催日時：令和6年3月11日（月）・12日（火）

参加者名：松浦亮太

開催場所：三菱電機株式会社 大阪FAテクニカルセンター

主催：三菱電機株式会社

【講習等への参加】 7 件

講習名：SEM-EDS（走査形電子顕微鏡）中級講習会

開催日時：令和5年11月28日（火）

参加者名：笹山智仁

開催場所：WEB ミーティング（ZOOM）

主催：大学連携研究設備ネットワーク

講習名：2023年度 実践的サイバー防御演習 CYDER 集合演習B-2コース

開催日時：令和6年1月24日（水）

参加者名：松浦亮太

開催場所：ハートンホテル北梅田

主催：情報通信研究機構・総務省

セミナー名：ラボ用pH基礎セミナー pHの基礎及び電極の管理方法

開催日時：令和5年9月26日（火）

参加者名：加藤綾子

開催場所：オンラインセミナー（Teams）

主催：メトラー・トレド

セミナー名：第6回技術セミナー 伝える技術の活用セミナー第2弾～動画・配信編～

開催日時：令和6年1月26日（金）

参加者名：加藤綾子

開催場所：ハイブリッド開催（Zoom）

主催：高エネルギー加速器研究機構

セミナー名：技術職員のための企画・情報発信セミナー

開催日時：令和6年2月26日（月）

参加者名：加藤綾子

開催場所：WEBミーティング（Zoom）

主催：東海国立大学機構 統括技術センター

セミナー名：【機器利用セミナー】走査型プローブ顕微鏡 SPM-9700

開催日時：令和6年2月28日（水）

参加者名：笹山智仁

開催場所：奈良工業高等専門学校 共通機器管理センター

主催：奈良工業高等専門学校 GEAR5.0 奈良ユニット

セミナー名：【機器利用セミナー】走査型電子顕微鏡 IT 100

開催日時：令和6年3月28日（木）

参加者名：笹山智仁

開催場所：奈良工業高等専門学校 共通機器管理センター

主催：奈良工業高等専門学校 GEAR5.0 奈良ユニット

【その他】5件

タイトル：Interop Tokyo 2023

開催日時：令和5年6月16日（金）

参加者名：松浦亮太

開催場所：幕張メッセ

支援内容等：展示会視察

タイトル：高専ロボコン2023近畿地区大会

開催日時：令和5年10月8日（日）

参加者名：松浦亮太

開催場所：神戸市立中央体育館

支援内容等：応援学生の引率補助

タイトル：第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

開催日時：令和5年10月15日（日）

参加者名：松浦亮太

開催場所：サンドーム福井

支援内容等：R6年度開催に向けた視察

タイトル：第2回高専防災減災コンテスト最終審査会

開催日時：令和6年2月29日（木）～3月1日（金）

参加者名：島田大嗣，福田龍一

開催場所：防災科学技術研究所

支援内容等：学生の引率補助

タイトル：社会工場見学

開催日時：令和5年10月11日（水）

参加者名：笹山智仁(2E)，尾崎充紀(4M)，加藤綾子(3C)，島田大嗣(4M)，
福田龍一(4M)，松浦亮太(2M)，北川大介(3S)

見学場所：(2M) 川重車両テクノ株式会社，神戸海洋博物館

(2E) 関西国際空港，クボタ堺製造所

(3S) パナソニック草津拠点，村田製作所八日市事業所

(3C) 森永乳業株式会社神戸工場，神戸海洋博物館

(4M) 株式会社中村鉄工所，株式会社TISM

支援内容等：自己研鑽の為の視察，及び引率補助

第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
1 教育の内部質保証システム	1-1 【重点評価項目】教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）を整備され、機能していること。	1-1-① 【重点評価項目】教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	1-1-①-(1)	1	学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
			1-1-①-(2)	2	(1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			1-1-①-(3)	3	(1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。 ■設定している □設定していない	総務部門
		1-1-② 【重点評価項目】内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	1-1-②-(1)	4	根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■収集・蓄積している □収集・蓄積していない	総務部門
			1-1-②-(2)	5	自己点検・評価を定期的の実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
			1-1-②-(3)	6	(2)の結果を公表しているか。 ■公表している □公表していない	総務部門
		1-1-③ 【重点評価項目】学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	1-1-③-(1)	7	自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者	教務部門
					自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、□就職・進学先関係者	学生部門
					自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者	奈務・グローバル教育部門
					自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、■卒業（修了）時の学生、■卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、■就職・進学先関係者	専攻科・研究推進部門
			1-1-③-(2)	8	自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、□職員、■在学生、■卒業（修了）時の学生、■卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、■就職・進学先関係者	総務部門
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	教務部門
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、□学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、□教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	学生部門
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	奈務・グローバル教育部門
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 □学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	専攻科・研究推進部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 ■卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、■卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	総務部門
		1-1-④ 【重点評価項目】 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けようとする組織としての体制が整備され、機能しているか。	1-1-④-(1)	9	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けようとする体制が整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門
			1-1-④-(2)	10	前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	教務部門
					前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	専攻科・研究推進部門
					前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	総務部門
			1-1-④-(3)	11	(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	教務部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	学生部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	業務・グローバル教育部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	専攻科・研究推進部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	総務部門
	1-2 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。	1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-①-(1)	12	ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門
			1-2-①-(2)	13	卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	教務部門
			1-2-①-(3)	14	卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質、能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	教務部門
		1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-②-(1)	15	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門
			1-2-②-(2)	16	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	教務部門
			1-2-②-(3)	17	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■学習成果をどのように評価するかを示している □その他	教務部門
		1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-③-(1)	18	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■準学士課程全体として定めている □学科ごとに定めている □その他	教務部門(入試)
			1-2-③-(2)	19	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	教務部門(入試)
			1-2-③-(3)	20	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門(入試)
			1-2-③-(4)	21	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門(入試)
			1-2-③-(5)	22	受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	教務部門(入試)

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
		1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-④-(1)	23	ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
			1-2-④-(2)	24	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門
			1-2-④-(3)	25	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	専攻科・研究推進部門
		1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑤-(1)	26	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑤-(2)	27	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑤-(3)	28	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している □学習成果をどのように評価するかを示している □その他	専攻科・研究推進部門
		1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑥-(1)	29	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑥-(2)	30	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑥-(3)	31	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑥-(4)	32	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑥-(5)	33	受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	専攻科・研究推進部門
	1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	1-3-①-(1)	34	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門
					学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門
					学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
			1-3-①-(2)	35	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	教務部門
					学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	専攻科・研究推進部門
					学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	総務部門
2 教育組織及び教員・教育支援者等	2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	2-1-①-(1)	36	学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	教務部門
			2-1-②-(1)	37	専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	専攻科・研究推進部門
		2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	2-1-③-(1)	38	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	奈務・グローバル教育部門
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			2-1-③-(2)	39	(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	索務・グローバル教育部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
	2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	2-2-①-(1)	40	一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(2)	41	専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(3)	42	専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(4)	43	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	教務部門
			2-2-①-(5)	44	適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■博士の学位 □ネイティブスピーカー（担当する言語を母国語とする） □技術資格 ■実務経験（教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等） □海外経験 □その他	総務部門
		2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	2-2-②-(1)	45	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。 ■適切に確保している □適切に確保していない	専攻科・研究推進部門
			2-2-②-(2)	46	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進部門
			2-2-②-(3)	47	適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進部門
		2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	2-2-③-(1)	48	教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	総務部門
			2-2-③-(2)	49	(1)以外に配慮している措置はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教育経歴 ■実務経験 ■男女比 □その他	総務部門
			2-2-③-(3)	50	在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学位取得に関する支援 ■任期制の導入 ■公募制の導入 ■教員表彰制度の導入 □企業研修への参加支援 ■校長裁量経費等の予算配分 □ゆとりの時間確保策の導入 □サブパティカル制度の導入 ■他の教育機関との人事交流 □その他	総務部門
	2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	2-3-①-(1)	51	全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映 ■整備している □整備していない	総務部門
			2-3-①-(2)	52	(1)の体制の下、教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
			2-3-①-(3)	53	把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。） □給与における措置 ■研究費配分における措置 □教員組織の見直し ■表彰 □その他	総務部門
			2-3-①-(4)	54	非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門
		2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	2-3-②-(1)	55	教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
			2-3-②-(2)	56	(1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■模擬授業の実施 ■教育歴の確認 ■実務経験の確認 □海外経験の確認 □国際的な活動実績の確認 ■その他	総務部門
			2-3-②-(3)	57	(1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			2-3-②-(4)	58	非常勤教員の採用基準等を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
	2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必	2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベ	2-4-①-(1)	59	学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
	要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	ロップメント)が、適切な方法で実施され、組織として教育の向上や授業の改善が図られているか。	2-4-①-(2)	60	定期的にFDを実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
			2-4-①-(3)	61	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	教務部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	学生部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	素務・グローバル教育部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	専攻科・研究推進部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	総務部門
		2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	2-4-②-(1)	62	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない	総務部門
			2-4-②-(2)	63	図書館に専門的職員その他の専属の教員または事務職員等を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない	総務部門
			2-4-②-(3)	64	指導補助者を配置する場合、その定義、業務内容、採用手続等が規定されているか。 ■配置している □配置していない	総務部門
		2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	2-4-③-(1)	65	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			2-4-③-(2)	66	指導補助者を配置する場合、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
3 学習環境及び学生支援等	3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	3-1-①-(1)	67	校地・校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			3-1-①-(2)	68	必要な施設を法令に従い適切に備えているか。 ■備えている □備えていない	総務部門
			3-1-①-(3)	69	学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■実験・実習工場 □練習船 □その他	総務部門
			3-1-①-(4)	70	自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	教務部門
					自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	素務・グローバル教育部門
			3-1-①-(5)	71	教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □厚生施設 ■コミュニケーションスペース □その他	教務部門
					教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■厚生施設 □コミュニケーションスペース □その他	学生部門
					教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □厚生施設 ■コミュニケーションスペース □その他	素務・グローバル教育部門
			3-1-①-(6)	72	施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			3-1-①-(7)	73	(6)の体制が有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	総務部門
			3-1-①-(8)	74	施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			3-1-①-(9)	75	整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			3-1-①-(10)	76	(9)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に 行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
		3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	3-1-②-(1)	77	教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			3-1-②-(2)	78	ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			3-1-②-(3)	79	ICT環境は有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門
			3-1-②-(4)	80	(3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
			3-1-②-(5)	81	(4)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門		
			3-1-③	図書、学術雑誌、視 聴覚資料その他の 教育研究上必要 な資料が系統的 に収集、整理さ れており、有効 に活用されてい るか。	3-1-③-(1)	82	図書館の設備を法令に従い備えているか。 ■備えている □備えていない	教務部門
			3-1-③-(2)	83	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。 ■系統的に収集、整理している □系統的に収集、整理していない	教務部門		
			3-1-③-(3)	84	(2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門		
			3-1-③-(4)	85	(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門		
		3-2-①	履修等に関するガイ ダンスを実施し ているか。	3-2-①-(1)	86	教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学科生 ■専攻科生 ■編入学生 ■留学生 ■障害のある学生 □社会人学生 □その他 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学科生 ■専攻科生 □編入学生 □留学生 ■障害のある学生 ■社会人学生 □その他	教務部門 専攻科・研究推進 部門	
		3-2-②	学習支援に関する学 生のニーズが適 切に把握され、学 生の自主的学習 を進める上での相 談・助言等を行う 体制が整備され、 機能しているか。	3-2-②-(1)	87	学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □担任制・指導教員制の整備 □オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他	教務部門 奈務・グローバル教 育部門 専攻科・研究推進 部門	
		3-2-②-(2)	88	(1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	教務部門 奈務・グローバル教 育部門 専攻科・研究推進 部門			
		3-2-②-(3)	89	学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の導入 ■学生との懇談会 ■意見投書箱 □その他 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■担任制・指導教員制の導入 □学生との懇談会 □意見投書箱 □その他	教務部門 専攻科・研究推進 部門			
		3-2-②-(4)	90	(3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門 奈務・グローバル教 育部門 専攻科・研究推進 部門			
		3-2-③	特別な支援が必要 と考えられる学 生への学習支援 及び生活支援等 を適切に行うこ とができる体制 が整備されてお り、必要に応じ て支援が行われ ているか。	3-2-③-(1)	91	留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	奈務・グローバル教 育部門	
		3-2-③-(2)	92	(1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	奈務・グローバル教 育部門			
		3-2-③-(3)	93	編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門			
		3-2-③-(4)	94	(3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
			3-2-③-(5)	95	社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門	
			3-2-③-(6)	96	(5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 □行っている ■行っていない	専攻科・研究推進 部門	
			3-2-③-(7)	97	障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門	
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門	
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門	
			3-2-③-(8)	98	(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門	
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門	
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門	
			3-2-③-(9)	99	障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も 含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	教務部門	
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も 含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	学生部門	
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も 含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	専攻科・研究推進 部門	
			3-2-③-(10)	100	上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門	
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門	
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門	
		3-2-④	学生の生活や経済 面に係る指導・ 相談・助言等を行 う体制が整備さ れ、機能している か。	3-2-④-(1)	101	学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備してい るか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学生相談室 ■保健センター ■相談員やカウンセラーの配置 ■ハラスメント等の相談体制 ■学生に対する相談の案内等 ■奨学金 ■授業料減免 □特待生 ■緊急時の貸与等の制度 ■いじめの防止・早期発見・対処等の体制 □その他	学生部門
				3-2-④-(2)	102	(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	学生部門
				3-2-④-(3)	103	(3) (2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等 の活動が実際に学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	学生部門
		3-2-⑤	就職や進学等の進 路指導を含め、 キャリア教育の体 制が整備され、機 能しているか。	3-2-⑤-(1)	104	就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門	
				3-2-⑤-(2)	105	(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校として どのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 ■進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	学生部門
					(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校として どのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 □進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 □進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	専攻科・研究推進 部門	
				3-2-⑤-(3)	106	(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門
					(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	専攻科・研究推進 部門	
		3-2-⑥	学生の部活動、 サークル活動、自 治会活動等の課外 活動に対する支援	3-2-⑥-(1)	107	学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
		体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	3-2-⑥-(2)	108	(1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	学生部門
			3-2-⑥-(3)	109	学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門
		3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	3-2-⑦-(1)	110	学生寮を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部門
			3-2-⑦-(2)	111	生活の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部門
			3-2-⑦-(3)	112	勉学の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部門
			3-2-⑦-(4)	113	(2)(3)について、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	寮務・グローバル教育部門
			3-2-⑦-(5)	114	管理・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部門
4 財務基盤及び管理運営	4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-1-①-(1)	115	過去5年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
			4-1-①-(2)	116	校地、校舎等の資産を保有しているか。 ■保有している □保有していない	総務部門
			4-1-①-(3)	117	過去5年間に於いて運営費交付金、授業料、入学科、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 ■確保している □確保できない年があった	総務部門
			4-1-①-(4)	118	過去5年間の収支状況において支出超過となっていないか。 ■支出超過となっていない □支出超過となった年があった	総務部門
		4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	4-1-②-(1)	119	収支に係る方針、計画等を策定しているか。 ■策定している □策定していない	総務部門
			4-1-②-(2)	120	(1)に関係者（教職員等）へ明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門
		4-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対する資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	4-1-③-(1)	121	学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			4-1-③-(2)	122	資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。 ■整合性がある □整合性がない	総務部門
			4-1-③-(3)	123	資源配分の内容について、関係者（教職員等）に明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門
		4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	4-1-④-(1)	124	設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 ■作成・公表している □作成・公表していない	総務部門
			4-1-④-(2)	125	財務に係る監査等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
	4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	4-2-①-(1)	126	管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-①-(2)	127	委員会等の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-①-(3)	128	校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
			4-2-①-(4)	129	事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-①-(5)	130	教員と事務職員等が適切な役割分担の下、必要な連絡体制を確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			4-2-①-(6)	131	(1)～(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			4-2-①-(7)	132	研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められており、また改善を図っていくための体制が整備され機能しているか。（より望ましい取組として分析） ■行っている □行っていない	総務部門
			4-2-①-(8)	133	地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められており、また改善を図っていくための体制が整備され機能しているか。（より望ましい取組として分析） ■行っている □行っていない	総務部門
		4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	4-2-②-(1)	134	学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-②-(2)	135	危機管理マニュアル等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-②-(3)	136	(1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
		4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	4-2-③-(1)	137	外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学金等、同窓会等からの寄付金等）を積極的に受入れる取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
			4-2-③-(2)	138	公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専 用 整 理 番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等				
		4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	4-2-③-(3)	139	研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。（より望ましい取組として分析） ■整備されている □整備されていない	総務部門				
			4-2-③-(4)	140	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。（より望ましい取組として分析） ■整備されている □整備されていない	総務部門				
			4-2-④-(1)	141	外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない	教務部門				
					外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない	専攻科・研究推進部門				
			4-2-④-(2)	142	地域貢献活動等の目的に照らして、活動が計画的に実施されているか。（より望ましい取組として分析） ■実施している □実施していない	教務部門				
					地域貢献活動等の目的に照らして、活動が計画的に実施されているか。（より望ましい取組として分析） ■実施している □実施していない	専攻科・研究推進部門				
		4-2-④-(3)	143	地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。（より望ましい取組として分析） ■実施している □実施していない	専攻科・研究推進部門					
				地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。（より望ましい取組として分析） ■実施している □実施していない	教務部門					
		4-2-⑤	管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	4-2-⑤-(1)	144	SD等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門			
		4-3	学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4-3-①	学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。	4-3-①-(1)	145	教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 ■選任教員に関する情報	教務部門	
				教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □高等専門学校の上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 ■選任教員に関する情報	学生部門					
				教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 ■選任教員に関する情報	専攻科・研究推進部門					
			教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援 ■選任教員に関する情報	総務部門						
	5	準学士課程の教育課程・教育方法	5-1	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5-1-①	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	5-1-①-(1)	146	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	教務部門
						5-1-①-(2)	147	一般教育の充実に配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	教務部門	
					5-1-①-(3)	148	進級に関する規定を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門		
					5-1-①-(4)	149	1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。 ■確保している □確保していない	教務部門		
					5-1-①-(5)	150	特別活動を90単位時間以上実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門		

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当する部門等			
		5-1-②	教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	5-1-②-(1)	151	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □他学科の授業科目の履修を認定 ■インターンシップによる単位認定 ■専攻科課程教育との連携 □外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成 ■資格取得に関する教育 ■他の高等教育機関との単位互換制度 ■個別の授業科目内での工夫 ■最先端の技術に関する教育 □その他	教務部門		
				5-1-②-(2)	152	他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。 ■適切に取り扱っている □適切に取り扱っていない □単位互換制度を設けていないので、該当しない	教務部門		
		5-1-③	創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	5-1-③-(1)	153	創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門		
				5-1-③-(2)	154	実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門		
		5-2	準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5-2-①	5-2-①-(1)	155	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	教務部門	
				5-2-①-(2)	156	教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教材の工夫 □少人数教育 ■対話・討論型授業 □フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	教務部門		
	5-2-②	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	5-2-②-(1)	157	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■授業科目名 ■単位数 ■授業形態 ■対象学年 ■担当教員名 ■教育目標等との関係 ■達成目標 ■教育方法 ■教育内容（1授業時間ごとに記載） ■成績評価方法・基準 ■事前に行う準備学習 ■高等学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 ■教科書・参考文献 □その他	教務部門			
			5-2-②-(2)	158	教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。 ■改善を行っている □改善を行っていない	教務部門			
			5-2-②-(3)	159	設置基準17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。 ■確保している □確保していない	教務部門			
			5-2-②-(4)	160	(3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。 □1単位時間＝50分で規定・運用 ■1単位時間＝50分で規定、45分で運用	教務部門			
			5-2-②-(5)	161	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門			
			5-2-②-(6)	162	(5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■授業外学習の必要性の周知 ■事前学習の徹底 ■事後展開学習の徹底 ■授業外学習の時間の把握 □その他	教務部門			
			5-3	5-3-①	成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	5-3-①-(1)	163	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	教務部門
						5-3-①-(2)	164	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
	5-3-①-(3)	165				1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門		
	5-3-①-(4)	166				成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	教務部門		
	5-3-①-(5)	167				(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門		
	5-3-①-(6)	168				定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門		
	5-3-①-(7)	169	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	教務部門					
			5-3-①-(8)	170	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他（G P A の進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等）	教務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専門学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当する部門等
					成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他(G P Aの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等)	総務部門
		5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	5-3-②-(1)	171	学期等に、修業年限を5年(商船に関する学科は5年6月。)と定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
			5-3-②-(2)	172	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、卒業認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
			5-3-②-(3)	173	卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 ■認定している □認定していない	教務部門
			5-3-②-(4)	174	卒業認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知をしていない	教務部門
			5-3-②-(5)	175	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握をしていない	教務部門
6 準学士課程の学生の受入れ	6-1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	6-1-① 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	6-1-①-(1)	176	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法(学生募集の方針、選抜区分(学力選抜、推薦選抜等。)、面接内容、配点・出題方針等。)となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門
		6-1-② 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	6-1-②-(1)	177	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
					検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			6-1-②-(2)	178	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			6-1-②-(3)	179	(2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立てていない	教務部門
		6-1-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	6-1-③-(1)	180	収容定員を学科ごとに学期で定めているか。また、1学級当たり40人を標準としているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
			6-1-③-(2)	181	学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			6-1-③-(3)	182	過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■適正である □超過又は不足がある	教務部門
			6-1-③-(4)	183	過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 □行っている □行っていない ■過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	教務部門
7 準学士課程の学習・教育の成果	7-1 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に照らして、学習・教育の成果が認められること。	7-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に沿った学習・教育の成果が認められるか。	7-1-①-(1)	184	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			7-1-①-(2)	185	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	教務部門
			7-1-①-(3)	186	(2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	教務部門
		7-1-② 達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に沿った学習・教育の成果が認められるか。	7-1-②-(1)	187	学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
					学生が卒業時に身に付ける学力・資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			7-1-②-(2)	188	学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			7-1-②-(3)	189	学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、卒業生(卒業後5年程度経った者)に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
					学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、卒業生(卒業後5年程度経った者)に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			7-1-②-(4)	190	学生が卒業時に身に付けた学力・資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専門学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当する部門等
			7-1-②-(5)	191	(2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門
					(2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	総務部門
		7-1-③	7-1-③-(1)	192	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	教務部門
					学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	学生部門
			7-1-③-(2)	193	学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門
					学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	学生部門
		8-1-①	8-1-①-(1)	194	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	専攻科・研究推進部門
8 専攻科課程の教育活動の状況	8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	8-1-②	8-1-②-(1)	195	専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 ■考慮している □考慮していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-③	8-1-③-(1)	196	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 □採用されていない	専攻科・研究推進部門
					教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教材の工夫 ■少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	専攻科・研究推進部門
		8-1-④	8-1-④-(1)	198	学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑤	8-1-⑤-(1)	199	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(2)	200	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(3)	201	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていること ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(4)	202	成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(5)	203	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(6)	204	定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(7)	205	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(8)	206	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他（GPAの進級判定への利用、成績分布のガイドラインの設定等）	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑥	8-1-⑥-(1)	207	学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(2)	208	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(3)	209	修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 ■認定している □認定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(4)	210	修了認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(5)	211	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
	8-2 専攻科課程としての 入学者の受入れに関 する方針（アドミッ ション・ポリシー） に沿って適切に運用 されており、適正な 数の入学状況である こと。	8-2-① 入学者の受入れに 関する方針（アド ミッション・ポリ シー）に沿って適 切な入学者選抜方 法が採用されてお り、実際の学生の 受入れが適切に実 施されているか。	8-2-①-(1)	212	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっている。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進 部門
		8-2-② 入学者の受入れに 関する方針（アド ミッション・ポリ シー）に沿った学 生を受入れている かどうかを検証す るための取組が行 われており、その 結果を入学者選抜 の改善に役立てて いるか。	8-2-②-(1)	213	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
					検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			8-2-②-(2)	214	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			8-2-②-(3)	215	(2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立てていない	専攻科・研究推進 部門
		8-2-③ 実入学者数が、入 学定員を大幅に超 過、又は大幅に不 足している状況に なっている状況か。 また、その場合に は、入学者選抜方 法を改善するため の取組が行われる など、入学定員と 実入学者数との関 係の適正化が図ら れているか。	8-2-③-(1)	216	収容定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進 部門
			8-2-③-(2)	217	専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			8-2-③-(3)	218	過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 □適正である ■超過又は不足がある	専攻科・研究推進 部門
			8-2-③-(4)	219	過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■行っている □行っていない □過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	専攻科・研究推進 部門
	8-3 修了の認定に関する 方針（ディプロマ・ ポリシー）に照ら して、学習・教育・研 究の成果が認められ ること。	8-3-① 成績評価・修了認 定の結果から判断 して、修了の認定 に関する方針（ディ プロマ・ポリシー） に沿った学習・教 育・研究の成果が 認められるか。	8-3-①-(1)	220	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-①-(2)	221	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-①-(3)	222	(2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門
		8-3-② 達成状況に関する 学生・修了生・進 路先関係者等から の意見の聴取の結 果から判断して、 修了の認定に関 する方針（ディプロ マ・ポリシー）に 沿った学習・教 育・研究の成果が 認められるか。	8-3-②-(1)	223	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-②-(2)	224	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-②-(3)	225	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-②-(4)	226	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-②-(5)	227	(2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門
		8-3-③ 就職や進学とい った修了後の進路 の状況等の実績 から判断して、学 習・教育・研究の 成果が認められる か。	8-3-③-(1)	228	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-③-(2)	229	学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進 部門
		8-3-④ 修了生の学位取得 状況から判断し て、学習・教育・ 研究の成果が認め られるか。	8-3-④-(1)	230	過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門
9 その他	9-1 いじめの未然防止、 早期発見等のため の対策が組織的に とられていること。	9-1-① 全学的にいじめ防 止等対策に取り組 んでいるか。	9-1-①-(1)	231	(1)いじめ対策の基本計画は定められているか ■定められている。 □定められていない。	学生部門
			9-1-①-(2)	232	(2)いじめ対策マニュアルを整備しているか ■整備している。 □整備していない。	学生部門
			9-1-①-(3)	233	(3)いじめ対策プログラムは計画しているか ■計画している。 □計画していない。	学生部門

資料編

第 1 章 教育に関する評価関係

入試説明会等状況

中学校教諭対象入試説明会

年度	奈 良	大 阪	京 都	その他	合 計
H26	66 名	12 名	7 名	1 名	86 名
H27	67 名	13 名	4 名	0 名	84 名
H28	58 名	7 名	2 名	4 名	71 名
H29	63 名	7 名	2 名	0 名	72 名
H30	73 名	10 名	13 名	1 名	97 名
R1	57 名	18 名	7 名	2 名	84 名
R2	58 名	21 名	7 名	3 名	89 名
R3	68 名	22 名	9 名	4 名	103 名
R4	61 名	20 名	5 名	2 名	88 名
R5	48 名	12 名	3 名	2 名	65 名

中学生・保護者対象 学校&入試説明会等

年度	学校・入試説明会				学校・入試説明会以外の 本校主催入試説明会の計		合 計	
	10月下旬の土曜日		10月下旬の日曜日					
H26	80 組	171 名	117 組	255 名	152 組	287 名	349 組	713 名
H27	92 組	206 名	134 組	280 名	214 組	422 名	440 組	908 名
H28	85 組	187 名	90 組	194 名	215 組	428 名	390 組	809 名
H29	113 組	233 名	99 組	212 名	249 組	484 名	461 組	929 名
H30	 組	 名	127 組	273 名	278 組	574 名	405 組	847 名
R1	98 組	214 名	139 組	295 名	114 組	230 名	351 組	739 名
R2	99 組	196 名	89 組	177 名	85 組	145 名	273 組	518 名
R3	97 組	193 名	95 組	185 名	98 組	166 名	290 組	544 名
R4	79 組	152 名	81 組	145 名	49 組	86 名	209 組	383 名
R5	75 組	145 名	96 組	187 名	52 組	92 名	223 組	424 名

※H30:12/9 1日開催

学習塾指導者対象入試説明会

年度	参 加 者 数	
H26	23 塾	29 名
H27	28 塾	32 名
H28	25 塾	27 名
H29	28 塾	29 名
H30	31 塾	39 名
R1	21 塾	25 名
R2	17 塾	17 名
R3	15 塾	15 名
R4	16 塾	16 名
R5	3 塾	3 名

資料 1－2
中学校訪問

年 度	訪 問	左のうち県内
H26	221 校	91 校
H27	242 校	92 校
H28	243 校	93 校
H29	114 校	75 校
H30	92 校	71 校
R1	92 校	71 校
R2	- 校	- 校
R3	7 校	7 校
R4	11 校	11 校
R5	16 校	8 校

※
※

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

体験入学

年 度	1 日 目	2 日 目	3 日 目	計
H26	206 名	174 名	163 名	543 名
H27	189 名	196 名	153 名	538 名
H28	187 名	190 名	144 名	521 名
H29	182 名	180 名	136 名	498 名
H30	167 名	164 名	178 名	509 名
R1	199 名	193 名	189 名	581 名
R2	- 名	- 名	- 名	- 名
R3	- 名	- 名	- 名	- 名
R4	165 名	149 名	127 名	441 名
R5	160 名	115 名	108 名	383 名

※
※

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

塾・中学校主催 学校説明会等参加状況

年 度	塾主催説明会	中学校主催説明会	中学校からの本校訪問	計
H26	13 回	7 回	2 回	22 回
H27	13 回	7 回	8 回	28 回
H28	12 回	8 回	4 回	24 回
H29	8 回	6 回	1 回	15 回
H30	6 回	8 回	1 回	15 回
R1	8 回	5 回	3 回	16 回
R2	3 回	3 回	0 回	6 回
R3	5 回	3 回	0 回	8 回
R4	7 回	5 回	0 回	12 回
R5	8 回	3 回	14 回	25 回

入 学 試 験 状 況

()は女子で内数

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合 計
H26	総志願者	68	49	85	86	78	366 (44)
	志願者倍率	1.7	1.2	2.1	2.2	2.0	1.8
	推薦志願者数	30	26	50	37	43	186 (34)
	入学者数	42 (1)	42 (9)	40 (2)	41 (2)	41 (10)	206 (24)
H27	総志願者	52	64	64	56	54	290 (43)
	志願者倍率	1.3	1.6	1.6	1.4	1.4	1.5
	推薦志願者数	25	30	35	27	36	153 (25)
	入学者数	42 (2)	42 (5)	40 (0)	42 (6)	41 (14)	207 (27)
H28	総志願者	59	56	67	79	53	314 (60)
	志願者倍率	1.5	1.4	1.7	2.0	1.3	1.6
	推薦志願者数	33	35	40	43	33	184 (46)
	入学者数	41 (7)	41 (9)	41 (7)	40 (7)	42 (14)	205 (44)
H29	総志願者	52	49	53	51	59	264 (50)
	志願者倍率	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	1.3
	推薦志願者数	21	23	32	26	34	136 (33)
	入学者数	42 (5)	42 (9)	40 (4)	41 (8)	42 (15)	207 (41)
H30	総志願者	52	51	69	75	52	299 (50)
	志願者倍率	1.3	1.3	1.7	1.9	1.3	1.5
	推薦志願者数	30	40	37	38	32	177 (39)
	入学者数	41 (3)	41 (4)	42 (2)	40 (4)	40 (20)	204 (33)
H31	総志願者	55	48	53	88	64	308 (67)
	志願者倍率	1.4	1.2	1.3	2.2	1.6	1.5
	推薦志願者数	27	26	35	48	44	180 (45)
	入学者数	42 (6)	40 (6)	41 (2)	41 (12)	41 (19)	205 (45)
2020	総志願者	52	70	60	71	58	311 (51)
	志願者倍率	1.3	1.8	1.5	1.8	1.5	1.6
	推薦志願者数	41	44	41	38	46	210 (42)
	入学者数	41 (4)	42 (9)	42 (0)	40 (6)	40 (18)	205 (37)
R3	総志願者	35	39	50	78	45	247 (50)
	志願者倍率	0.9	1.0	1.3	2.0	1.1	1.2
	推薦志願者数	19	23	32	49	30	153 (44)
	入学者数	40 (6)	42 (8)	41 (3)	42 (13)	40 (16)	205 (46)
R4	総志願者	43	40	41	71	66	261 (69)
	志願者倍率	1.1	1.0	1.0	1.8	1.7	1.3
	推薦志願者数	24	32	27	46	45	174 (55)
	入学者数	43 (8)	42 (8)	42 (8)	41 (10)	42 (23)	210 (57)
R5	総志願者	48	36	47	59	52	242 (59)
	志願者倍率	1.2	0.9	1.2	1.5	1.3	1.2
	推薦志願者数	28	27	30	44	41	170 (50)
	入学者数	41 (5)	42 (12)	42 (6)	41 (10)	43 (22)	209 (55)
R6	総志願者	39	40	43	63	52	237 (56)
	志願者倍率	1.0	1.0	1.1	1.6	1.3	1.2
	推薦志願者数	23	29	33	49	36	170 (50)
	入学者数	40 (6)	43 (13)	42 (5)	42 (9)	40 (20)	207 (53)

※ 志願者倍率は、総志願者数を入学定員(学科欄は40名、合計欄は200名)で割ったもの。

資料 3

編 入 学 試 験 状 況

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計
H26	志願者数	1	3	0	2	0	6
	合格者数	0	1	0	1	0	2
	入学者数	0	1	0	1	0	2
H27	志願者数	3	1	0	1	0	5
	合格者数	1	1	0	0	0	2
	入学者数	1	1	0	0	0	2
H28	志願者数	0	1	0	2	0	3
	合格者数	0	0	0	2	0	2
	入学者数	0	0	0	2	0	2
H29	志願者数	1	0	1	2	0	4
	合格者数	0	0	0	0	0	0
	入学者数	0	0	0	0	0	0
H30	志願者数	1	1	0	3	0	5
	合格者数	0	1	0	2	0	3
	入学者数	0	1	0	2	0	3
H31	志願者数	1	2	0	3	0	6
	合格者数	0	0	0	3	0	3
	入学者数	0	0	0	3	0	3
2020	志願者数	1	1	1	3	0	6
	合格者数	0	1	0	3	0	4
	入学者数	0	1	0	3	0	4
R3	志願者数	0	3	0	3	1	7
	合格者数	0	2	0	0	0	2
	入学者数	0	2	0	0	0	2
R4	志願者数	3	1	0	4	0	8
	合格者数	1	0	0	3	0	4
	入学者数	1	0	0	3	0	4
R5	志願者数	1	1	1	4	0	7
	合格者数	0	0	0	2	0	2
	入学者数	0	0	0	2	0	2
R6	志願者数	2	2	0	3	0	7
	合格者数	1	1	0	2	0	4
	入学者数	1	1	0	2	0	4

一般科目 [令和5年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考	
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		
必修科目	国語Ⅰ	3	3					学修単位	
	国語Ⅱ	3		3					
	国語Ⅲ	2			2				
	国語表現法	2				2			
	地理	2	2						
	歴史	2		2				学修単位	
	公共	2			2				
	政治・経済	2			2			学修単位	
	現代社会と法	2					2	学修単位	
	基礎数学α	4	4						
	基礎数学β	2	2						
	微分積分Ⅰ	4		4					
	微分積分Ⅱ	2			2				
	線形代数	2		2					
	数学特論α	2			2				
	数学特論β	1			1				
	地球惑星物理	1	1						
	物理Ⅰ	1	1						
	物理Ⅱ	3		3					
	生物	1	1						
	化学Ⅰ	2	2					物質化学工学科以外	
	化学Ⅱ	2		2				物質化学工学科のみ	
	化学	4	4						
	保健・体育Ⅰ	2	2						
	保健・体育Ⅱ	2		2					
	体育理論Ⅰ	2			2				学修単位
	体育理論Ⅱ	2				2			学修単位
	体育実技	1					1		
	英語Ⅰ	3	3						
	英語Ⅱ	3		3					
	英語Ⅲ	2			2				
	英語Ⅳ	4				4			学修単位
英語Ⅴ	2					2	学修単位		
英文法Ⅰ	2	2							
英文法Ⅱ	2		2						
英文法Ⅲ	1			1					
選択必修科目	美術	2	※2					学修単位	
	音楽	2	※2					※の内いずれか1科目を選択	
	人間環境学	2					△2	学修単位 △の内いずれか1科目を選択	
	地域学	2					△2		
	日本文化学	2					△2		
必修科目 (留学生)	留学生の日本語	2			2				
選択科目	実用英語Ⅰ	1			1	(1)	(1)	()は未修得者	
	実用英語Ⅱ	1				1	(1)		
	実用英語Ⅲ	1					1		
	異文化交流Ⅰ	1	1						
	異文化交流Ⅱ	1		1					
	異文化交流Ⅲ	1			1				
	異文化交流Ⅳ	1				1			
	異文化交流Ⅴ	1					1		
	海外協働研修Ⅰ	1	1						
	海外協働研修Ⅱ	1		1					
	海外協働研修Ⅲ	1			1				
	海外協働研修Ⅳ	1				1			
	海外協働研修Ⅴ	1					1		
	修得単位計		79[79]	25[27]	23[21]	16[16]	8[8]		7[7]

専門科目 (機械工学科)[令和5年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位
	応用数学 α	2				2		
	応用数学 β	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			学修単位
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学基礎	2	2					
	機械工学ゼミナール	1				1		学修単位
	技術英語	2					2	
	材料学Ⅰ	1		1				
	材料学Ⅱ	2			2			学修単位
	機械工作法Ⅰ	2		2				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			学修単位
	材料力学Ⅱ	2				2		
	材料力学演習	1				1		
	流体力学Ⅰ	2				2		学修単位
	流体力学Ⅱ	2				2		学修単位
	流体力学演習	1					1	学修単位
	熱工学Ⅰ	2				2		
	熱工学Ⅱ	2				2		
	熱工学演習	1					1	学修単位
	機械力学Ⅰ	2			2			
	機械力学Ⅱ	2				2		
	機械力学演習	1				1		学修単位
	電気電子工学	2			2			
	計測工学	2					2	
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	応用制御工学	2					2	学修単位
	情報処理	2			2			学修単位
	数値計算法	1				1		
	機械設計製図Ⅰ	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	2		2				学修単位
	創造設計	1			1			
	機構学	2		2				
	機械設計工学	2					2	学修単位
	機械設計工学演習	2					2	
	生産システム工学	2					2	
	機械工作実習Ⅰ	3	3					学修単位
	機械工作実習Ⅱ	3		3				
	創造設計製作	3			3			
	機械工学実験Ⅰ	3				3		学修単位
	機械工学実験Ⅱ	2					2	
	卒業研究	6					6	
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	9	10	18	28	24	

修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7
	専門科目	88	9	10	18	27	24
	計	167	34	33	34	35	31

専門科目（電気工学科）〔令和5年度開講科目一覧表〕

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位 学修単位
	応用数学 α	2				2		
	応用数学 β	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	基礎電気回路	2	2					
	電気・電子工学入門	1	1					
	環境リテラシー	1	1					
	電気回路Ⅰ	2		2				
	デジタル回路Ⅰ	1		1				
	プログラミング	2		2				
	電気回路演習	1		1				
	電磁気学Ⅰ	1		1				
	電磁気学Ⅱ	2			2			
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電子工学	2			2			
	計測工学	2			2			
	電気工学演習Ⅰ	2			2			
	デジタル回路Ⅱ	1			1			
	環境エレクトロニクス	1			1			
	アナログ回路	2				2		
	デジタルシステム	1				1		
	電磁気学Ⅲ	2				2		学修単位
	電気回路Ⅲ	2				2		学修単位
	電力変換回路	2				2		学修単位
	電気電子材料	2				2		学修単位
	通信工学	2				2		学修単位
	電気機器工学	2				2		学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	環境エネルギー工学	2					2	学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	工業外国語	1					1	
	電気・電子工学実験Ⅰ	2		2				
	ものづくり基礎実習	2		2				
	電気・電子工学実験Ⅱ	2			2			
	ものづくり応用実習	2			2			
	電気・電子工学実験Ⅲ	2				2		
	電気・電子工学創造実験	2				2		
	電気・電子工学実験Ⅳ	4					4	
	卒業研究	6					6	
選択必修	電気工学演習Ⅱ	1				1		} いずれか 1単位を選択
	電気機器設計	1				1		
選択科目	学外実習	1				1		} 10単位以上 を選択
	電力系統工学	2					2	
	電気製図	2					2	
	高電圧工学	2					2	
	伝送工学	2					2	
	組み込みシステム	2					2	
	電気法規・設備工学	2					2	
	半導体工学	2					2	
専門科目開設単位計		94	6	11	18	30	29	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	6	11	18	28	25	
	計	167	31	34	34	36	32	

専門科目（電子制御工学科）[令和5年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位
	応用数学 α	2				2		
	応用数学 β	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	基礎製図法	3	3					
	プログラミング	2		2				
	電気回路Ⅰ	2		2				
	材料・加工学	1		1				
	アルゴリズムとデータ構造	1			1			
	計算機アーキテクチャ	1			1			
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電磁気学	2			2			
	電子工学	2			2			
	熱力学	2			2			
	計測工学Ⅰ	2			2			
	システム要素設計	2			2			
	熱工学	2				2		
	電子回路	2				2		学修単位
	材料力学	1				1		
	流体力学	1				1		
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	制御工学Ⅱ	2				2		学修単位
	計測工学Ⅱ	2				2		学修単位
	電磁気学演習	2				2		
	材料力学演習	1				1		
	流体力学演習	1				1		
	計測工学演習	1				1		
	数値解析	2					2	学修単位
	機械力学	2					2	学修単位
	機能性材料	2					2	学修単位
	制御工学Ⅲ	2					2	学修単位
	ロボティクスⅠ	2					2	学修単位
	ロボティクスⅡ	2					2	学修単位
	システム工学	2					2	学修単位
	応用システム設計	2					2	学修単位
	システム設計製作	2				2		
	機械工学実習	2		2				
	電子制御工学実験Ⅰ	3	3					
	電子制御工学実験Ⅱ	3		3				
	電子制御工学実験Ⅲ	3			3			
	電子制御工学実験Ⅳ	2				2		
	卒業研究	7					7	
選択科目	学外実習	1				1		
	電子制御工学総合演習Ⅰ	1					1	1単位以上選択
	電子制御工学総合演習Ⅱ	1					1	
専門科目開設単位計		90	8	10	19	28	25	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	8	10	19	27	24	
	計	167	33	33	35	35	31	

専門科目 (情報工学科)[令和5年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 α	2				2		学修単位
	応用数学 β	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	デジタル回路	2	2					
	情報工学概論	2	2					
	電気回路基礎	1		1				
	プログラミング基礎	1		1				
	プログラミングⅠ	1		1				
	コンピュータシステム概論	1		1				
	論理回路Ⅰ	1		1				
	IT活用	2		2				
	情報数学	2		2				
	論理回路Ⅱ	2			2			学修単位
	データベースとWebアプリケーション	1			1			
	情報アクティブラーニングⅠ	2			2			
	プログラミングⅡ	2			2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			2			
	データ構造とアルゴリズム	2			2			
	計算機ネットワークⅠ	2			2			
	数値計算・統計	2				2		学修単位
	コンピュータ援用論理設計	2				2		学修単位
	オペレーティングシステム	2				2		学修単位
	計算機言語処理	2				2		学修単位
	情報理論	2				2		学修単位
	情報セキュリティ	2				2		学修単位
	計算機ネットワークⅡ	2				2		
	プログラミングⅢ	2				2		
	情報アクティブラーニングⅡ	2				2		
	集積回路	2					2	学修単位
	情報工学特論	2					2	学修単位
	マルチメディア情報処理	2					2	学修単位
	信号処理	2					2	学修単位
	ソフトウェア工学	2					2	学修単位
	情報戦略システム	2					2	学修単位
	人工知能	2					2	学修単位
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2					2	学修単位
	工業外国語	1					1	
	情報工学実験Ⅰ	2		2				
	情報工学実験Ⅱ	3			3			
	情報工学実験Ⅲ	3				3		
	卒業研究Ⅰ	4					4	
	卒業研究Ⅱ	5					5	
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	11	18	28	26	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	6	11	18	27	26	
	計	167	31	34	34	35	33	

専門科目 (物質化学工学科)[令和5年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位 学修単位
	応用数学 α	2				2		
	応用数学 β	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			学修単位
	応用物理Ⅱ	2				2		
	一般化学演習Ⅰ	1	1					
	一般化学演習Ⅱ	1		1				学修単位
	一般化学演習Ⅲ	1		1				
	化学特論Ⅰ	1	1					
	化学特論Ⅱ	1		1				学修単位
	分析化学	2			2			
	機器分析	2					2	
	有機化学Ⅰ	2		2				学修単位
	有機化学Ⅱ	2			2			
	有機化学Ⅲ	2				2		
	有機材料合成化学	1					1	学修単位
	機能性高分子化学	2					2	
	無機化学Ⅰ	2		2				
	無機化学Ⅱ	2			2			学修単位
	固体化学	2				2		
	基礎電気化学	2					2	
	物理化学Ⅰ	2			2			学修単位
	物理化学Ⅱ	2				2		
	基礎量子化学	2				2		
	生物化学Ⅰ	2		2				学修単位
	生物化学Ⅱ	2			2			
	生物化学Ⅲ	2				2		
	応用微生物学	1				1		学修単位
	分子生物学	2					2	
	生物化学工学	1				1		
	化学工学Ⅰ	2			2			学修単位
	化学工学Ⅱ	2				2		
	微粒子工学	2				2		
	反応工学	2					2	学修単位
	環境分離工学	2					2	
	プロセス制御	2					2	
	物質化学工学実験Ⅰ	2	2					学修単位
	物質化学工学実験Ⅱ	4		4				
	物質化学工学実験Ⅲ	4			4			
	物質化学工学実験Ⅳ	4				4		学修単位
	卒業研究	10					10	
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	13	18	27	25	
修得単位	一般科目	79	27	21	16	8	7	
	専門科目	88	6	13	18	26	25	
	計	167	33	34	34	34	32	

資料 4—1—7

特別活動

単位時間数	学年別配当		
	1年	2年	3年
90	30	30	30

グローバル工学協働教育プログラム [令和5年度開講科目一覧表]

区分	科 目 名	単位数		備 考
		本科	専攻科	
ベーシック	英語アクティブラーニングⅠ	1		
	英語アクティブラーニングⅡ	1		
	グローバルコミュニケーション	1		
	異文化交流Ⅰ	1		※1, ※3
	異文化交流Ⅱ	1		
	異文化交流Ⅲ	1		
	異文化交流Ⅳ	1		
	異文化交流Ⅴ	1		
	海外協働研修Ⅰ	1		※2, ※3
	海外協働研修Ⅱ	1		
	海外協働研修Ⅲ	1		
	海外協働研修Ⅳ	1		
	海外協働研修Ⅴ	1		
	グローバルチャレンジ	1		
アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2	
	海外インターンシップ		2	※3, ※4
	アドバンスト・グローバルエンジニアスキル		2	
	アドバンスト・グローバルチャレンジ		2	※4
※1 異文化交流についてはⅠ～Ⅴのうち、1単位以上修得すること ※2 海外協働研修についてはⅠ～Ⅴのうち、1単位以上修得すること ※3 グローバル工学協働教育プログラム履修者以外の学生も受講できる ※4 2単位以上修得すること				

しなやか教育プログラム [令和5年度開講科目一覧表]

区分	科 目 名	単位数		備 考
		本科	専攻科	
ベーシック	エンジニアの感性と表現Ⅰ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅱ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅲ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅳ	1		
	基礎イノベティブワークショップ	1		
	応用イノベティブワークショップ	1		
	統合イノベティブワークショップ	1		
	ダイバーシティとインクルージョン	1		
アドバンス	エンジニアと経営		2	
	リーダーシップと意思決定		2	
	ビジネスデザイン		2	

専攻科 [令和5年度開講科目一覧表]

教養・専門基礎科目

区分		科 目 名	単位数	学年別配当		備 考
				1年	2年	
教 養	選択必修	特修英語Ⅰ	2	2		4単位以上選択すること
		特修英語Ⅱ	2	2		
		プレゼンテーション英語	2		2	
		アドバンスト・グローバルコミュニケーション	2	2		
	選択必修	地域と世界の文化論	2		2	2単位以上選択すること
		リーダーシップと意思決定	2	2		※2
		ビジネスデザイン	2		2	※2
開 設 単 位 数 計		14				
専 門 基 礎	必 修	地域社会技術特論	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	選択必修	数理科学	2	2		2科目以上を選択
		物理学特論A	2	2		
		物理学特論B	2		2	
	選 択	エンジニアと経営	2	2		※2
		インターンシップ	2	2		※3
		海外インターンシップ	2	2		※3、※4
		アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	2	2		※1
		アドバンスト・グローバルチャレンジ	2	2		※4
	開 設 単 位 数 計		20			
教養・専門基礎科目開設単位数 計		34				
教養 専門基礎科目修得単位数 計 20単位以上修得すること						
(※1) グローバル工学協働教育プログラム履修生は必修						
(※2) しなやかエンジニア教育プログラム履修生は必修						
(※3) 物質化学工学科以外の出身学科で本科で「学外実習」未履修の場合はいずれかの科目を必修						
(※4) グローバル工学協働教育プログラム履修生はいずれかを履修すること						

資料 4—1—11

専攻科 [令和5年度開講科目一覧表]

専門科目 (システム創成工学専攻)

区分		科 目 名		単位数	学年別配当		備考	
					1 年	2 年		
専 門	必	工学基礎研究		10	10		いずれかを選択	
		地域創生工学研究		10	10			
		特別研究		10		10		
		システムデザイン演習		3	3			
		システム設計論Ⅰ		2	2			
		システム設計論Ⅱ		2	2			
	修	機械制御システムコース	電子情報設計技術基礎	2	2			
		電気電子システム、情報システムコース	機械設計技術基礎	2	2			
		機械制御システムコース	研究力向上セミナーⅠ（機械制御系）	2	2			
		機械制御システムコース	研究力向上セミナーⅡ（機械制御系）	2	2			
		電気電子システムコース	研究力向上セミナー（電気電子系）	2	2			
		情報システムコース	研究力向上セミナーⅠ（情報系）	2	2			
		情報システムコース	研究力向上セミナーⅡ（情報系）	2		2		
		専門必修開設単位数 計			51	39	12	
	専 門	選	機械制御システムコース	実用技術英語（機械系）	2	2		
			電気電子システム、情報システムコース	実用技術英語（電気電子・情報系）	2	2		
		3コース共通	計測工学特論	2		2		
			ヒューマンインターフェース	2		2		
機械制御システムコース		システム工学特論	2	2				
		制御工学特論	2	2				
		特殊加工学	2		2			
		工業材料	2		2			
		流体力学特論	2		2			
		計算機援用設計	2		2			
		輸送現象論	2		2			
		電気電子システムコース	電気電子回路特論	2	2			
電磁気学特論			2	2				
電子物性			2		2			
エネルギーエレクトロニクス			2		2			
情報伝送			2		2			
電力システム工学特論			2		2			
情報システムコース			計算理論	2	2			
		計算機ハードウェア	2	2				
		ソフトウェア設計	2		2			
		情報工学基礎論	2		2			
		メディアシステム論	2		2			
専門選択開設単位数 計			44	16	28			
専門科目開設単位 計			95	55	40			
システム創成工学専攻 合計				129				
専門科目修得単位数 計 42単位以上								

専攻科 [令和 5 年度開講科目一覧表]

専門科目 (物質創成工学専攻)

区分		科 目 名	単位数	学年別配当		備考
				1 年	2 年	
専 門	必 修	工学基礎研究	10	10		いずれかを選択
		地域創生工学研究	10	10		
		特別研究	10		10	
		研究リテラシー	2	2		
		実践化学英語	2	2		
		先端工学特論	2		2	
		専門必修開設単位数 計	36	24	12	
	選 択	量子化学	2	2		
		現代有機合成化学	2	2		
		物質分析工学	2	2		
		細胞工学	2	2		
		応用反応工学	2	2		
		選択的有機反応論	2		2	
		電子応用化学	2		2	
		資源エネルギー工学	2		2	
		生物構造化学	2		2	
		生物化学工学特論	2		2	
		拡散工学特論	2		2	
		専門選択開設単位数 計	22	10	12	
	専門科目開設単位 計		58	34	24	
物質創成工学専攻 合計			92			
専門科目修得単位数 計 42単位以上						

令和5年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

資料5

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	土	1	木	1	木	1	土	1	火	1	金
			水曜授業 社会人教育セミナー(2,3年) 閉寮		木曜授業 近畿地区高専体育大会(ハレーボ- ル・剣道・バドミントン:2日まで サッ カー:3日まで)		近畿地区高専体育大会(テニス:3日ま で)		全校集会 学祭前閉校 専攻科前期授業終了		
2	日			2	金	2	日	2	水	2	土
			開校記念日振替休日						学祭前閉校 専攻科前期授業終了		
3	月			3	土	3	月	3	木	3	日
			憲法記念日				↑ 公開授業(7日まで)		試験予備日(午前・補講(午後) 学祭前閉校(1年) 専攻科夏季休業(9月30日まで)		
4	火			4	日	4	火	4	金	4	月
			木曜・祭生集会				↑ 公開授業(7日まで)		学祭前閉校 専攻科前期授業終了		
5	水			5	金	5	金	5	土	5	火
			令和5年度入寮式・入寮式 新入生歓迎会 専攻科新入生オリエンテーション				専攻科授業なし 令和6年度専攻科入学願書受付(学力: 9日まで)				
6	木			6	土	6	火	6	日	6	水
			新入生オリエンテーション(1日目(学生 部門) 専攻科1年春季外研修				↑ 前期中間試験(本学・12日まで)				
7	金			7	水	7	日	7	金	7	月
			全校集会・健康診断・教科書購入 新入生オリエンテーション2日目(教務・ グローバル・しなやか) 専攻科2年ガイダンス				↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
8	土			8	木	8	土	8	火	8	金
							令和6年度専攻科入学願書受付(推 薦:11日まで)				
9	日			9	火	9	金	9	水	9	土
							↑ 前期中間試験(本学・12日まで)				
10	月			10	水	10	土	10	月	10	木
							↑ 前期中間試験(本学・12日まで)				
11	火			11	木	11	日	11	火	11	金
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
12	水			12	金	12	月	12	水	12	土
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
13	木			13	土	13	火	13	水	13	日
							↑ TOEIC-IP試験(14日まで)				
14	金			14	日	14	水	14	金	14	月
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
15	土			15	月	15	木	15	土	15	金
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
16	日			16	火	16	金	16	水	16	土
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
17	月			17	水	17	土	17	月	17	日
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
18	火			18	木	18	日	18	金	18	月
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
19	水			19	金	19	月	19	土	19	火
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
20	木			20	土	20	火	20	日	20	水
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
21	金			21	日	21	水	21	金	21	木
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
22	土			22	月	22	木	22	土	22	金
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
23	日			23	火	23	金	23	日	23	土
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
24	月			24	水	24	土	24	月	24	日
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
25	火			25	木	25	日	25	金	25	月
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
26	水			26	金	26	月	26	土	26	火
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
27	木			27	土	27	火	27	日	27	水
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
28	金			28	日	28	水	28	金	28	木
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
29	土			29	月	29	木	29	土	29	金
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
30	日			30	火	30	金	30	日	30	土
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				
31	月			31	水	31	土	31	月	31	日
							↑ 安全対策講習会(熱中症) 安全対策講習会(熱中症)				

令和5年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

〔後期〕

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月		
日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜
1 日	開祭・寮生集会		1 水	水	4	1 金	金	8	1 月	1 月	元日	1 木	木	15	1 金	金	15
2 月	後期授業開始(本科・専攻科)	月	2 木	木	4	2 土	土		2 火	2 火		2 金	金	15	2 土	土	15
3 火	全校集会	火	3 金	文化の日		3 日	日		3 水	3 水	1	3 土	土		3 日	日	
4 水	高専祭(5日まで) ↑ 近畿地区高専体育大会(ラグビーフットボール 第1日目)	水	4 土	土		4 月	月	8	4 木	開祭・寮生集会 ↑ 全国高専体育大会(ラグビーフットボール・9日まで)		4 日	(登校禁止)		4 月	月	
5 木	古典芸能鑑賞会(2年)	木	5 日	日		5 火	火	8	5 金	全校集会		5 月	月	15	5 火	火	
6 金		金	6 月	高専祭後片付け		6 水	水	9	6 土	土		6 火	火	15	6 水	水	
7 土		土	7 火	月曜振替授業	月	7 木	木	9	7 日	人権教育特別講演会(5年)		7 水	試験予備日(午前)・補講(午後) 専攻科特別研究発表会候補日		7 木	木	
8 日	近畿地区高専ロボコン	日	8 水	水	5	8 金	金	9	8 月	成人の日		8 木	入学試験前全校清掃		8 金	金	
9 月	スポーツの日	月	9 木	人権教育特別講演会(4年)	木	9 土	土		9 火	火		9 金	特別日課(登校禁止)		9 土	土	
10 火		火	10 金	金	5	10 日	日		10 水	水		10 土	(登校禁止)		10 日	日	
11 水	社会工場見学(1～4年) 特別日課(5年) 専攻科学外研修	水	11 土	後期ブックハンティング 全国高専デザコン(12日まで) 近畿地区高専体育大会(ラグビーフットボール 第2日目)	土	11 月	月	9	11 木	冬季リーグ・ダンス研修会 留学生と語る会		11 木	建国記念日 令和6年度入学試験(学力)		11 月	月	
12 木	人権合同特活(3年)	木	12 日	日		12 火	火	9	12 金	金		12 月	振替休日 (登校禁止)		12 火	火	
13 金		金	13 月	月	6	13 水	水	10	13 土	↑ 公開授業(19日まで)		13 火	特別日課(登校禁止)		13 水	水	
14 土	全国高専プロコン(15日まで)	土	14 火	火	6	14 木	木	10	14 日	道路ガイダンス(4年) ↑ 5年生と語る会		14 水	特別日課(登校禁止) 遠隔CBT試験(1～3年)		14 木	木	
15 日		日	15 水	水	6	15 金	金	10	15 月	月		15 月	水曜授業振替 5年生を送る会		15 金	学年末成績・欠課時数確認期間(21日まで)	
16 月		月	16 木	交通安全教室(1年)	木	16 土	土		16 火	火		16 金	金	16	16 土	土	
17 火		火	17 金	金	6	17 日	日		17 水	水		17 土	土		17 日	日	
18 水		水	18 土	土		18 月	月	10	18 木	入学試験前全校清掃		18 日	日		18 月	令和5年度卒業式・修了式	
19 木		木	19 日	日		19 火	火	10	19 金	特別日課(登校禁止21日まで)		19 月	月	16	19 火	↑ 学年末休業(31日まで)	
20 金		金	20 月	木曜振替授業 マリンパフォーマンス鑑賞会(3年)	月	20 水	水	11	20 土	令和6年度入学試験(推薦)		20 火	全校集会 5年生退寮期限 専攻科成績確認期間(21日まで)		20 水	↑ 春分の日	
21 土	学業避難訓練 学業秋季スポーツ大会	土	21 火	火	7	21 木	人権教育特別講演会(専攻科生・教職員対象) 学業大掃除	木	21 日	日		21 水	学業荷物搬出日		21 木	木	
22 日		日	22 水	令和5年度総科願(1年生・受付(30日まで))	水	22 金	金	11	22 月	月		22 木	閉寮		22 金	令和6年度入学・入寮予定者オリエンテーション	
23 月		月	23 木	勤労感謝の日	月	23 土	土		23 火	天皇誕生日 (登校禁止)		23 土	土		23 日	日	
24 火		火	24 金	金	7	24 日	日		24 水	水		24 土	(登校禁止)		24 日	日	
25 水		水	25 土	土		25 月	月	11	25 木	木		25 日	令和6年度入学試験(学力)【通試】		25 月	月	
26 木	秋季スポーツ大会	木	26 日	全国高専ロボコン	日	26 火	火	11	26 金	金		26 月	特別日課(登校禁止)		26 火	火	
27 金		金	27 月	月	7	27 水	↑ 冬休休業(1月4日まで) ↑ 一斉休業(28日まで)		27 土	↑ 全国高専英語ブレコン(28日まで)		27 火	特別日課(登校禁止)		27 水	水	
28 土	↑ 入試・学科説明会(28日まで)	土	28 火	補講日 専攻科授業なし	火	28 木	↑		28 日	日		28 水	5年不可(A)再試験		28 木	木	
29 日		日	29 水	↑ 後期中間試験(本科・12月5日まで)	水	29 金	↑ 年末年始休業(1月3日まで)		29 月	月		29 木	木		29 金	金	
30 月		月	30 木	木	8	30 土	↑		30 火	補講日 専攻科授業なし					30 土	土	
31 火	通年度不可(A)解消期限	火				31 日	日		31 水	↑ 学年末試験(本科・2月6日まで)					31 日	↑	

奈良工業高等専門学校

令和5年度 授業時間割(前期)

		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18		19		20		21		22		23		24		25		26		27		28		29		30		31		32		33		34		35		36		37		38		39		40		41		42		43		44		45		46		47		48		49		50		51		52		53		54		55		56		57		58		59		60		61		62		63		64		65		66		67		68		69		70		71		72		73		74		75		76		77		78		79		80		81		82		83		84		85		86		87		88		89		90		91		92		93		94		95		96		97		98		99		100		101		102		103		104		105		106		107		108		109		110		111		112		113		114		115		116		117		118		119		120		121		122		123		124		125		126		127		128		129		130		131		132		133		134		135		136		137		138		139		140		141		142		143		144		145		146		147		148		149		150		151		152		153		154		155		156		157		158		159		160		161		162		163		164		165		166		167		168		169		170		171		172		173		174		175		176		177		178		179		180		181		182		183		184		185		186		187		188		189		190		191		192		193		194		195		196		197		198		199		200		201		202		203		204		205		206		207		208		209		210		211		212		213		214		215		216		217		218		219		220		221		222		223		224		225		226		227		228		229		230		231		232		233		234		235		236		237		238		239		240		241		242		243		244		245		246		247		248		249		250		251		252		253		254		255		256		257		258		259		260		261		262		263		264		265		266		267		268		269		270		271		272		273		274		275		276		277		278		279		280		281		282		283		284		285		286		287		288		289		290		291		292		293		294		295		296		297		298		299		300		301		302		303		304		305		306		307		308		309		310		311		312		313		314		315		316		317		318		319		320		321		322		323		324		325		326		327		328		329		330		331		332		333		334		335		336		337		338		339		340		341		342		343		344		345		346		347		348		349		350		351		352		353		354		355		356		357		358		359		360		361		362		363		364		365		366		367		368		369		370		371		372		373		374		375		376		377		378		379		380		381		382		383		384		385		386		387		388		389		390		391		392		393		394		395		396		397		398		399		400		401		402		403		404		405		406		407		408		409		410		411		412		413		414		415		416		417		418		419		420		421		422		423		424		425		426		427		428		429		430		431		432		433		434		435		436		437		438		439		440		441		442		443		444		445		446		447		448		449		450		451		452		453		454		455		456		457		458		459		460		461		462		463		464		465		466		467		468		469		470		471		472		473		474		475		476		477		478		479		480		481		482		483		484		485		486		487		488		489		490		491		492		493		494		495		496		497		498		499		500		501		502		503		504		505		506		507		508		509		510		511		512		513		514		515		516		517		518		519		520		521		522		523		524		525		526		527		528		529		530		531		532		533		534		535		536		537		538		539		540		541		542		543		544		545		546		547		548		549		550		551		552		553		554		555		556		557		558		559		560		561		562		563		564		565		566		567		568		569		570		571		572		573		574		575		576		577		578		579		580		581		582		583		584		585		586		587		588		589		590		591		592		593		594		595		596		597		598		599		600		601		602		603		604		605		606		607		608		609		610		611		612		613		614		615		616		617		618		619		620		621		622		623		624		625		626		627		628		629		630		631		632		633		634		635		636		637		638		639		640		641		642		643		644		645		646		647		648		649		650		651		652		653		654		655		656		657		658		659		660		661		662		663		664		665		666		667		668		669		670		671		672		673		674		675		676		677		678		679		680		681		682		683		684		685		686		687		688		689		690		691		692		693		694		695		696		697		698		699		700		701		702		703		704		705		706		707		708		709		710		711		712		713		714		715		716		717		718		719		720		721		722		723		724		725		726		727		728		729		730		731		732		733		734		735		736		737		738		739		740		741		742		743		744		745		746		747		748		749		750		751		752		753		754		755		756		757		758		759		760		761		762		763		764		765		766		767		768		769		770		771		772		773		774		775		776		777		778		779		780		781		782		783		784		785		786		787		788		789		790		791		792		793		794		795		796		797		798		799		800		801		802		803		804		805		806		807		808		809		810		811		812		813		814		815		816		817		818		819		820		821		822		823		824		825		826		827		828		829		830		831		832		833		834		835		836		837		838		839		840		841		842		843		844		845		846		847		848		849		850		851		852		853		854		855		856		857		858		859		860		861		862		863		864		865		866		867		868		869		870		871		872		873		874		875		876		877		878		879		880		881		882		883		884		885		886		887		888		889		890		891		892		893		894		895		896		897		898		899		900		901		902		903		904		905		906		907		908		909		910		911		912		913		914		915		916		917		918		919		920		921		922		923		924		925		926		927		928		929		930		931		932		933		934		935		936		937		938		939		940		941		942		943		944		945		946		947		948		949		950		951		952		953		954		955		956		957		958		959		960		961		962		963		964		965		966		967		968		969		970		971		972		973		974		975		976		977		978		979		980		981		982		983		984		985		986		987		988		989		990		991		992		993		994		995		996		997		998		999		1000		1001		1002		1003		1004		1005		1006		1007		1008		1009		1010		1011		1012		1013		1014		1015		1016		1017		1018		1019		1020		1021		1022		1023		1024		1025		1026		1027		1028		1029		1030		1031		1032		1033		1034		1035		1036		1037		1038		1039		1040		1041		1042		1043		1044		1045		1046		1047		1048		1049		1050		1051		1052		1053		1054		1055		1056		1057		1058		1059		1060		1061		1062		1063		1064		1065		1066		1067		1068		1069		1070		1071		1072		1073		1074		1075		1076		1077		1078		1079		1080		1081		1082		1083		1084		1085		1086		1087		1088		1089		1090		1091		1092		1093		1094		1095		1096		1097		1098		1099		1100		1101		1102		1103		1104		1105		1106		1107		1108		1109		1110		1111		1112		1113		1114		1115		1116		1117		1118		1119		1120		1121		1122		1123	
--	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	-----	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--

奈良工業高等専門学校

令和5年度授業時間割(後期)

学 年	学 期												学 期												学 期												学 期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
一 学 年	M	8:00 8:30	8:45 9:15	10:00 10:30	10:45 11:15	11:30 12:00	12:15 12:45	13:00 13:30	13:45 14:15	14:30 15:00	15:15 15:45	16:00 16:30	16:45 17:15	17:30 18:00	18:15 18:45	19:00 19:30	19:45 20:15	20:30 21:00	21:15 21:45	22:00 22:30	22:45 23:15	23:30 24:00	24:15 24:45	25:00 25:30	25:45 26:15	26:30 27:00	27:15 27:45	28:00 28:30	28:45 29:15	29:30 30:00	30:15 30:45	31:00 31:30	31:45 32:15	32:30 33:00	33:15 33:45	34:00 34:30	34:45 35:15	35:30 36:00	36:15 36:45	37:00 37:30	37:45 38:15	38:30 39:00	39:15 39:45	40:00 40:30	40:45 41:15	41:30 42:00	42:15 42:45	43:00 43:30	43:45 44:15	44:30 45:00	45:15 45:45	46:00 46:30	46:45 47:15	47:30 48:00	48:15 48:45	49:00 49:30	49:45 50:15	50:30 51:00	51:15 51:45	52:00 52:30	52:45 53:15	53:30 54:00	54:15 54:45	55:00 55:30	55:45 56:15	56:30 57:00	57:15 57:45	58:00 58:30	58:45 59:15	59:30 59:45	60:00 60:15	60:30 60:45	61:00 61:15	61:30 61:45	61:45 62:00	62:00 62:15	62:15 62:30	62:30 62:45	62:45 63:00	63:00 63:15	63:15 63:30	63:30 63:45	63:45 64:00	64:00 64:15	64:15 64:30	64:30 64:45	64:45 65:00	65:00 65:15	65:15 65:30	65:30 65:45	65:45 66:00	66:00 66:15	66:15 66:30	66:30 66:45	66:45 67:00	67:00 67:15	67:15 67:30	67:30 67:45	67:45 68:00	68:00 68:15	68:15 68:30	68:30 68:45	68:45 69:00	69:00 69:15	69:15 69:30	69:30 69:45	69:45 70:00	70:00 70:15	70:15 70:30	70:30 70:45	70:45 71:00	71:00 71:15	71:15 71:30	71:30 71:45	71:45 72:00	72:00 72:15	72:15 72:30	72:30 72:45	72:45 73:00	73:00 73:15	73:15 73:30	73:30 73:45	73:45 74:00	74:00 74:15	74:15 74:30	74:30 74:45	74:45 75:00	75:00 75:15	75:15 75:30	75:30 75:45	75:45 76:00	76:00 76:15	76:15 76:30	76:30 76:45	76:45 77:00	77:00 77:15	77:15 77:30	77:30 77:45	77:45 78:00	78:00 78:15	78:15 78:30	78:30 78:45	78:45 79:00	79:00 79:15	79:15 79:30	79:30 79:45	79:45 80:00	80:00 80:15	80:15 80:30	80:30 80:45	80:45 81:00	81:00 81:15	81:15 81:30	81:30 81:45	81:45 82:00	82:00 82:15	82:15 82:30	82:30 82:45	82:45 83:00	83:00 83:15	83:15 83:30	83:30 83:45	83:45 84:00	84:00 84:15	84:15 84:30	84:30 84:45	84:45 85:00	85:00 85:15	85:15 85:30	85:30 85:45	85:45 86:00	86:00 86:15	86:15 86:30	86:30 86:45	86:45 87:00	87:00 87:15	87:15 87:30	87:30 87:45	87:45 88:00	88:00 88:15	88:15 88:30	88:30 88:45	88:45 89:00	89:00 89:15	89:15 89:30	89:30 89:45	89:45 90:00	90:00 90:15	90:15 90:30	90:30 90:45	90:45 91:00	91:00 91:15	91:15 91:30	91:30 91:45	91:45 92:00	92:00 92:15	92:15 92:30	92:30 92:45	92:45 93:00	93:00 93:15	93:15 93:30	93:30 93:45	93:45 94:00	94:00 94:15	94:15 94:30	94:30 94:45	94:45 95:00	95:00 95:15	95:15 95:30	95:30 95:45	95:45 96:00	96:00 96:15	96:15 96:30	96:30 96:45	96:45 97:00	97:00 97:15	97:15 97:30	97:30 97:45	97:45 98:00	98:00 98:15	98:15 98:30	98:30 98:45	98:45 99:00	99:00 99:15	99:15 99:30	99:30 99:45	99:45 100:00	100:00 100:15	100:15 100:30	100:30 100:45	100:45 101:00	101:00 101:15	101:15 101:30	101:30 101:45	101:45 102:00	102:00 102:15	102:15 102:30	102:30 102:45	102:45 103:00	103:00 103:15	103:15 103:30	103:30 103:45	103:45 104:00	104:00 104:15	104:15 104:30	104:30 104:45	104:45 105:00	105:00 105:15	105:15 105:30	105:30 105:45	105:45 106:00	106:00 106:15	106:15 106:30	106:30 106:45	106:45 107:00	107:00 107:15	107:15 107:30	107:30 107:45	107:45 108:00	108:00 108:15	108:15 108:30	108:30 108:45	108:45 109:00	109:00 109:15	109:15 109:30	109:30 109:45	109:45 110:00	110:00 110:15	110:15 110:30	110:30 110:45	110:45 111:00	111:00 111:15	111:15 111:30	111:30 111:45	111:45 112:00	112:00 112:15	112:15 112:30	112:30 112:45	112:45 113:00	113:00 113:15	113:15 113:30	113:30 113:45	113:45 114:00	114:00 114:15	114:15 114:30	114:30 114:45	114:45 115:00	115:00 115:15	115:15 115:30	115:30 115:45	115:45 116:00	116:00 116:15	116:15 116:30	116:30 116:45	116:45 117:00	117:00 117:15	117:15 117:30	117:30 117:45	117:45 118:00	118:00 118:15	118:15 118:30	118:30 118:45	118:45 119:00	119:00 119:15	119:15 119:30	119:30 119:45	119:45 120:00	120:00 120:15	120:15 120:30	120:30 120:45	120:45 121:00	121:00 121:15	121:15 121:30	121:30 121:45	121:45 122:00	122:00 122:15	122:15 122:30	122:30 122:45	122:45 123:00	123:00 123:15	123:15 123:30	123:30 123:45	123:45 124:00	124:00 124:15	124:15 124:30	124:30 124:45	124:45 125:00	125:00 125:15	125:15 125:30	125:30 125:45	125:45 126:00	126:00 126:15	126:15 126:30	126:30 126:45	126:45 127:00	127:00 127:15	127:15 127:30	127:30 127:45	127:45 128:00	128:00 128:15	128:15 128:30	128:30 128:45	128:45 129:00	129:00 129:15	129:15 129:30	129:30 129:45	129:45 130:00	130:00 130:15	130:15 130:30	130:30 130:45	130:45 131:00	131:00 131:15	131:15 131:30	131:30 131:45	131:45 132:00	132:00 132:15	132:15 132:30	132:30 132:45	132:45 133:00	133:00 133:15	133:15 133:30	133:30 133:45	133:45 134:00	134:00 134:15	134:15 134:30	134:30 134:45	134:45 135:00	135:00 135:15	135:15 135:30	135:30 135:45	135:45 136:00	136:00 136:15	136:15 136:30	136:30 136:45	136:45 137:00	137:00 137:15	137:15 137:30	137:30 137:45	137:45 138:00	138:00 138:15	138:15 138:30	138:30 138:45	138:45 139:00	139:00 139:15	139:15 139:30	139:30 139:45	139:45 140:00	140:00 140:15	140:15 140:30	140:30 140:45	140:45 141:00	141:00 141:15	141:15 141:30	141:30 141:45	141:45 142:00	142:00 142:15	142:15 142:30	142:30 142:45	142:45 143:00	143:00 143:15	143:15 143:30	143:30 143:45	143:45 144:00	144:00 144:15	144:15 144:30	144:30 144:45	144:45 145:00	145:00 145:15	145:15 145:30	145:30 145:45	145:45 146:00	146:00 146:15	146:15 146:30	146:30 146:45	146:45 147:00	147:00 147:15	147:15 147:30	147:30 147:45	147:45 148:00	148:00 148:15	148:15 148:30	148:30 148:45	148:45 149:00	149:00 149:15	149:15 149:30	149:30 149:45	149:45 150:00	150:00 150:15	150:15 150:30	150:30 150:45	150:45 151:00	151:00 151:15	151:15 151:30	151:30 151:45	151:45 152:00	152:00 152:15	152:15 152:30	152:30 152:45	152:45 153:00	153:00 153:15	153:15 153:30	153:30 153:45	153:45 154:00	154:00 154:15	154:15 154:30	154:30 154:45	154:45 155:00	155:00 155:15	155:15 155:30	155:30 155:45	155:45 156:00	156:00 156:15	156:15 156:30	156:30 156:45	156:45 157:00	157:00 157:15	157:15 157:30	157:30 157:45	157:45 158:00	158:00 158:15	158:15 158:30	158:30 158:45	158:45 159:00	159:00 159:15	159:15 159:30	159:30 159:45	159:45 160:00	160:00 160:15	160:15 160:30	160:30 160:45	160:45 161:00	161:00 161:15	161:15 161:30	161:30 161:45	161:45 162:00	162:00 162:15	162:15 162:30	162:30 162:45	162:45 163:00	163:00 163:15	163:15 163:30	163:30 163:45	163:45 164:00	164:00 164:15	164:15 164:30	164:30 164:45	164:45 165:00	165:00 165:15	165:15 165:30	165:30 165:45	165:45 166:00	166:00 166:15	166:15 166:30	166:30 166:45	166:45 167:00	167:00 167:15	167:15 167:30	167:30 167:45	167:45 168:00	168:00 168:15	168:15 168:30	168:30 168:45	168:45 169:00	169:00 169:15	169:15 169:30	169:30 169:45	169:45 170:00	170:00 170:15	170:15 170:30	170:30 170:45	170:45 171:00	171:00 171:15	171:15 171:30	171:30 171:45	171:45 172:00	172:00 172:15	172:15 172:30	172:30 172:45	172:45 173:00	173:00 173:15	173:15 173:30	173:30 173:45	173:45 174:00	174:00 174:15	174:15 174:30	174:30 174:45	174:45 175:00	175:00 175:15	175:15 175:30	175:30 175:45	175:45 176:00	176:00 176:15	176:15 176:30	176:30 176:45	176:45 177:00	177:00 177:15	177:15 177:30	177:30 177:45	177:45 178:00	178:00 178:15	178:15 178:30	178:30 178:45	178:45 179:00	179:00 179:15	179:15 179:30	179:30 179:45	179:45 180:00	180:00 180:15	180:15 180:30	180:30 180:45	180:45 181:00	181:00 181:15	181:15 181:30	181:30 181:45	181:45 182:00	182:00 182:15	182:15 182:30	182:30 182:45	182:45 183:00	183:00 183:15	183:15 183:30	183:30 183:45	183:45 184:00	184:00 184:15	184:15 184:30	184:30 184:45	184:45 185:00	185:00 185:15	185:15 185:30	185:30 185:45	185:45 186:00	186:00 186:15	186:15 186:30	186:30 186:45	186:45 187:00	187:00 187:15	187:15 187:30	187:30 187:45	187:45 188:00	188:00 188:15	188:15 188:30	188:30 188:45	188:45 189:00	189:00 189:15	189:15 189:30	189:30 189:45	189:45 190:00	190:00 190:15	190:15 190:30	190:30 190:45	190:45 191:00	191:00 191:15	191:15 191:30	191:30 191:45	191:45 192:00	192:00 192:15	192:15 192:30	192:30 192:45	192:45 193:00	193:00 193:15	193:15 193:30	193:30 193:45	193:45 194:00	194:00 194:15	194:15 194:30	194:30 194:45	194:45 195:00	195:00 195:15	195:15 195:30	195:30 195:45	195:45 196:00	196:00 196:15	196:15 196:30	196:30 196:45	196:45 197:00	197:00 197:15	197:15 197:30	197:30 197:45	197:45 198:00	198:00 198:15	198:15 198:30	198:30 198:45	198:45 199:00	199:00 199:15	199:15 199:30	199:30 199:45	199:45 200:00	200:00 200:15	200:15 200:30	200:30 200:45	200:45 201:00	201:00 201:15	201:15 201:30	201:30 201:45	201:45 202:00	202:00 202:15	202:15 202:30	202:30 202:45	202:45 203:00	203:00 203:15	203:15 203:30	203:30 203:45	203:45 204:00	204:00 204:15	204:15 204:30	204:30 204:45	204:45 205:00	205:00 205:15	205:15 205:30	205:30 205:45	205:45 206:00	206:00 206:15	206:15 206:30	206:30 206:45	206:45 207:00	207:00 207:15	207:15 207:30	207:30 207:45	207:45 208:00	208:00 208:15	208:15 208:30	208:30 208:

資料7

令和5年度特別講演会実施一覧

学科	実施日	演題	講師
M	令和5年10月27日(金)	「地域の未来を牽引する技術」	株式会社MSTコーポレーション 管理部 経営企画室長 クオリカプス株式会社 機械開発生産本部長
E	令和5年11月16日(木)	「エンジニアにこそ必要な人間中心デザインという考え方」	大阪公立大学 生活科学研究院 講師
S	令和5年11月14日(火)	「カオスを活かす—通信・防災・革新的AI(カオス超越性)へ—」	京都大学大学院 情報学研究科 数理工学専攻 物理統計学分野 教授
I	令和5年11月20日(月)	「人工知能などの技術によるサイバー攻撃対策の自動化」	兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科 准教授
C	令和5年6月29日(木)	「地球科学に魅せられて～ナノメートルからキロメートルの世界へ～」	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授
専攻科	令和5年11月9日(木)	「電気化学を活用した“ものづくり”」	奈良工業高等専門学校 電気工学科 研究員

資料8

令和5年度第4学年対象進路セミナー実施一覧

学科	実施日	講師
M	令和6年2月6日(火)	令和元年度卒業生 (阪神高速技術株式会社)
E	令和5年7月4日(火)	平成21年度卒業生 (三菱重工機械システム株式会社 モビリティ事業本部 工作部 ITS計画課 2チーム)
S	令和5年10月19日(木)	平成30年度卒業生 (株式会社クボタ 機械研究開発第六部 第一チーム)
C	令和5年12月7日(木)	平成23年度卒業生 (UBE株式会社 堺工場 製造技術グループ)

令和5年度秋季社会工場見学, 専攻科学外研修

期日	クラス	行 程	引 率 教 員		
10月11日 (水)	1M	大阪国際空港 株式会社JALエンジニアリング, 万博記念公園, ニフレ	新井	平	森
	1E	コマツ大阪工場, エキスポシティ, ニフレ	北村	石飛	三崎
	1S	株式会社西島製作所, エキスポシティ, ニフレ	飯間	上島	櫛
	1I	ダイキン情報システム株式会社, 阪神甲子園球場	道本	内田	稲川
	1C	不二製油株式会社 阪南事業所, 浜寺公園, 宇部興産株式会社 堺工場	豊田	米田	林
	2M	川重車両テクノ株式会社, 神戸海洋博物館	安田	酒井	小柴
	2E	関西国際空港, 株式会社クボタ 堺製造所	矢野	頭師	竹原
	2S	南海電気鉄道株式会社 千代田工場, 二色の浜公園, 不二製油株式会社本社 阪南事業所	石水	西田	
	2I	TOWA株式会社, 京都水族館	山中	松村	松尾
	2C	ロート製薬株式会社 上野テクノセンター, ロクハ公園, 日東電工株式会社 滋賀事業所	藤井	治京	伊月
	3M	ホンカワミクロン株式会社, 山田池公園, 株式会社椿本チエイン 京田辺工場	廣	坂本	朴
	3E	パナソニック株式会社エレクトリックワークス社 津工場, 伊勢神宮, おかげ横丁	池田	松井(真)	大谷
	3S	パナソニック株式会社, 菩提寺PA, 株式会社村田製作所 八日市事業所	橋爪	玉木	山口(和)
	3I	あべのハルカス300, 天王寺動物園, 大阪シーリング印刷株式会社	岩田	岡村	本間
	3C	森永乳業株式会社 神戸工場, メリケンパーク, 神戸海洋博物館	松浦	亀井	加藤
	4M	株式会社中村鉄工所, 株式会社TISM(タジマ工業株式会社)	須田	松井(良)	稲田
	4E	株式会社小松製作所 大阪工場, 万博記念公園, 株式会社エネゲート 千里丘事業所	小坂	芦原	永井
	4S	川崎重工株式会社 明石工場, 阪神電気鉄道株式会社 尼崎車庫	中村(篤)	太田	顯谷
	4I	滋賀大学彦根キャンパス, 国立印刷局彦根工場	山口(智)	新野	山口(賢)
	4C	東レ未来創造研究センター, 多賀SA, マルホ株式会社 彦根工場	直江	山田	片倉
4月6日 (木)	専攻科(1年)	日本ニューロン株式会社 管路防災研究所, けいはんなプラザ	中村(秀)	上野	福岡
10月11日 (水)	専攻科(1年)	DMG森精機株式会社 伊賀事業所, 株式会社リクシル 上野緑工場	中山	福岡	
	専攻科(2年)	株式会社リクシル 上野緑工場, DMG森精機株式会社 伊賀事業所	中村(秀)	上野	

年度別博士号取得者一覧

年 度	区分	学科別博士号取得者数							
	現員	校 長	一 般	機 械	電 気	電 制	情 報	物 化	合 計
平成31年度	75	1	15	10	9	8	9	12	64
令和2年度	75	1	15	9	8	6	9	12	60
令和3年度	75	1	13	9	8	7	9	12	59
令和4年度	72	1	15	8	8	8	9	12	61
令和5年度	74	1	16	8	8	8	9	13	63

資料11

令和5年度 クラブ顧問・部員数一覧

体 育 部

ク ラ ブ 名	顧 問 教 員（一番左が連絡担当）	部 員 数					計
		1年	2年	3年	4年	5年	
アーチェリー	石丸裕士 本間啓道 岩田大志 山口賢一	4	3	4	0	0	11
合 気 道	石飛学 片倉勝己 松浦幸仁 池田陽紀	2	5	2	3	2	14
弓 道	谷口幸典 新井由美 北村誠	11	8	21	14	8	62
剣 道	池田陽紀 須田敦 三崎雅裕	2	6	4	2	1	15
硬式野球	内田眞司 平俊男 小柴孝 酒井史敏	10	8	2	12	4	36
サッカー	松尾賢一 藤井隆輔 上野秀剛 山口智浩	11	4	6	5	4	30
柔 道	矢野充志 山田裕久 稲川太郎	0	0	1	1	0	2
少林寺拳法	直江一光 松井真希子	0	0	0	4	0	4
水 泳	石飛学 廣和樹 橋爪進 松村寿枝	8	10	6	7	9	40
ソフトテニス	西田茂生 米田京平 藤井隆輔 宇田亮子 伊月亜有子	6	6	7	4	8	31
卓 球	上島智史 榑原和彦 亀井稔之 中山敏男 松井真希子	6	6	11	10	7	40
テニス	中村秀美 亀井稔之 山口賢一 中村篤人 樺弘明 伊月亜有子 福岡寛	6	6	2	3	3	20
バスケットボール	新野康彦 頭師孝拓 稲田直久 治京玉記	6	1	1	3	2	13
バドミントン	玉木隆幸 伊月亜有子 中村篤人 岡村真吾 林啓太	12	10	10	2	0	34
バレーボール	松井良明 太田孝雄 板倉和裕 道本祐子 石水明香 朴権英	10	14	10	8	1	43
ハンドボール	大谷真弘 小坂洋明 豊田洋平 坂本雅彦	3	4	3	0	7	17
ラ グ ビ ー	森弘暢 矢野充志 市川嘉裕 山口和也	11	6	2	6	4	29
陸 上 競 技	飯間圭一郎 稲田直久 米田京平 C.E.グレイディ 中村篤人 安田智之 山中聡恵	6	10	5	9	7	37
小 計		114	107	97	93	67	478

文 化 部

からくり	中村篤人 池田陽紀 石飛学 頭師孝拓 橋爪進 飯間圭一郎	22	16	2	4	0	44
機械研究会	須田敦 頭師孝拓	3	12	2	8	8	33
軽音楽	山口和也 大谷真弘 谷口幸典	12	18	24	29	8	91
茶 道	西田茂生 C.E.グレイディ 松村寿枝	8	5	4	1	4	22
システム開発研究会	中村篤人 橋爪進 山口和也 玉木隆幸	5	5	2	3	6	21
将 棋	玉木隆幸 岡村真吾	6	5	4	1	0	16
情報処理研究会	岩田大志 山口賢一 松尾賢一	6	0	4	6	4	20
吹 奏 楽	芦原佑樹 永井歩美 顯谷智也子 藤田直幸 林啓太	9	10	0	1	0	20
美 術	市川嘉裕	5	0	7	4	3	19
放 送	芦原佑樹 山口賢一	1	4	7	8	2	22
小 計		77	75	56	65	35	308

同 好 会

化学同好会	林啓太 米田京平 山田裕久 伊月亜有子	14	17	13	11	0	55
合唱同好会	松井良明 稲田直久	1	3	5	0	0	9
クイズ研究会	C.E.グレイディ	7	1	8	12	2	30
現代視覚文化研究会	北村誠 飯間圭一郎 上野秀剛	0	0	3	1	2	6
手芸同好会	石水明香	3	6	6	0	3	18
数学同好会	矢野充志	8	7	2	1	0	18
生協学生同好会	伊月亜有子 藤井隆輔	3	2	2	0	0	7
電気技術研究会	大谷真弘 芦原佑樹	4	9	4	4	1	22
寮アスレチック同好会	内田眞司 松井真希子 芦原佑樹 山口賢一	23	30	29	24	11	117
小 計		63	75	72	53	19	282

各学年部員数※	1年	2年	3年	4年	5年	合計
	254	257	225	211	121	1068

※各学年部員数はのべ数(複数の部に所属している者もカウント)

学生会執行部	大谷真弘 太田孝雄 上島智史	17	9	7	8	5	46
--------	----------------	----	---	---	---	---	----

令和5年度 大会等成績一覧

<体育系>

令和6年3月31日現在

大会名	月・日	種 目	成 績
第105回全国高校野球選手権春季奈良大会	4.16	硬式野球	1回戦敗退
第60回近畿地区高等専門学校体育大会	6.24	陸上競技	総合 2位
		男子100m	4位
		男子200m	5位
		男子400m	4位
		男子800m	3位
		男子1500m	2位
		男子5000m	4位
		男子110mH	2位
		男子4×100mリレー	5位
		男子4×400mリレー	4位
		男子走幅跳	3位
		男子砲丸投	7位
		男子円盤投	4位
		男子やり投	4位
		女子100m	5位
		女子800m	1位
		女子4×100mリレー	4位
		女子走幅跳	5位
		女子砲丸投	3位
	7.16~17	バスケットボール 男子	入賞なし
	7.1~2	バレーボール 男子	3位
	7.8~9	女子	入賞なし
		ソフトテニス 団体 男子	入賞なし
		個人 男子	入賞なし
第60回近畿地区高等専門学校体育大会	6.24~25	個人 女子	入賞なし
		卓球 団体 男子	2位
		個人 男子ダブルス	3位
		個人 男子シングルス	入賞なし
		団体 女子	入賞なし
		個人 女子ダブルス	入賞なし
		個人 女子シングルス	3位
第60回近畿地区高等専門学校体育大会	7.14~15	柔道 女子52kg級	2位
	7.1~2	剣道 団体 男子	入賞なし
		個人 男子	入賞なし
		団体 女子	1位
		個人 女子	2位
	7.15~16	硬式野球	3位

大 会 名	月・日	種 目	成 績
	7.1～3	サッカー	入賞なし
	7.8～9	ハンドボール	3位
	7.2～3	テニス 団体 男子	2位
		個人 男子シングルス	入賞なし
		個人 男子ダブルス	入賞なし
		団体 女子	入賞なし
		個人 女子シングルス	1位
		個人 女子ダブルス	2位
	7.1～2	バドミントン 団体 男子	3位
		個人 男子ダブルス	3位
		個人 男子シングルス	2位
		団体 女子	1位
		個人 女子ダブルス	2位
		個人 女子シングルス	1位
	7.17	水泳 総合	3位
		男子自由形50m	3位
		男子自由形100m	3位
		男子自由形200m	2位
		男子自由形400m	3位
		男子平泳ぎ100m	2位
		男子平泳ぎ200m	3位
		男子4×100mリレー	2位
		男子4×100mメドレーリレー	3位
		女子自由形50m	1位
		女子自由形100m	2位
		女子200m個人メドレー	2位
		女子4×50mリレー	2位
		女子4×50mメドレーリレー	2位
	11.11	ラグビーフットボール	優勝
第56回近畿地区高専弓道大会	7.8	弓道 団体 男子	入賞なし
		個人 男子	入賞なし
		団体 女子	2位
		個人 女子	優勝 2位
	8.26-27	陸上競技 男子400m	入賞なし
		男子800m	入賞なし
		男子1500m	入賞なし
		男子5000m	入賞なし
		男子棒高跳	入賞なし
		男子砲丸投	入賞なし
		男子円盤投	入賞なし
		男子やり投	入賞なし
		女子100m	2位
		女子800m	入賞なし

大会名	月・日	種 目	成 績
第 58 回 全 国 高 等 専 門 学 校 体 育 大 会		女子4×100mリレー	入賞なし
		女子砲丸投	入賞なし
		女子走幅跳	5位
	8. 19-20	卓球 団体 男子	入賞なし
	8. 26-27	剣道 団体 女子	3位
		個人 女子	入賞なし
	8. 19-20	柔道 女子52kg級	入賞なし
		女子無差別級	3位
	8. 29-31	テニス 個人 女子シングルス	入賞なし
		個人 女子ダブルス	3位
	8. 30-9. 1	バドミントン 個人 男子ダブルス	欠場
		個人 男子シングルス	欠場
		団体 女子	入賞なし
		個人 女子ダブルス	入賞なし
		個人 女子シングルス	入賞なし
	8. 25-26	水泳 男子自由形50m	4位
		男子自由形100m	入賞なし
		男子自由形200m	入賞なし
		男子自由形400m	入賞なし
		男子平泳ぎ100m	入賞なし
		男子平泳ぎ200m	入賞なし
		男子4×100mリレー	入賞なし
		女子自由形50m	4位
		女子自由形100m	4位
		女子200m個人メドレー	入賞なし
		女子4×50mリレー	4位
		女子4×50mメドレーリレー	入賞なし
	1. 4-9	ラグビーフットボール	優勝
第 10 回 全 国 高 等 専 門 学 校 弓 道 大 会	8. 24~25	弓道 女子個人の部	入賞なし
第 30 回 西 日 本 地 区 高 等 専 門 学 校 アーチェリー競技会	8. 28~29	アーチェリー 個人 女子 50m・30m競技	2位・距離賞(50m1位)
		個人 女子 30mダブル競技	1位
第28回西日本地区高専駅伝競走大会	12. 26-27	陸上競技	総合6位

<文化系>

大会名	月・日	種 目	成 績
第 15 回 全 国 高 等 学 校 鉄 道 模 型 コ ン テ ス ト	8. 4~6	機械研究会 H O 車輛部門 モジュール部門	奨励賞 審査員特別賞
第 30 回 全 国 高 等 専 門 学 校 将 棋 大 会	8. 23~25	将棋 団体戦	入賞なし
		男子個人戦	ベスト8 ベスト32 ベスト64 ベスト64 入賞なし
		女子個人戦	2位 3位 入賞なし
アイデア対決・全国高等専門学校 ロボコンテスト 2023 近 畿 地 区 大 会	10. 8	ロボコンプロジェクト Aチーム「杏(カラモモ)」 Bチーム「すぐれモン(スグレモン)」	技術賞 特別賞
第 17 回 近 畿 地 区 高 等 専 門 学 校 英 語 フ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン コ ン テ ス ト	11. 18~19	シングルの部門	第2位 第5位

資料 1 4

学生支援センター相談件数

年度	学年		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	保護者	教職員	合計
	相談項目										
H31	心理相談	人数	21	11	5	13	5	11	16	71	153
		延べ数	60	38	7	18	7	19	17	160	326
	学業	人数	15	14	18	16	3	1	9	17	93
		延べ数	38	32	24	43	3	3	14	39	196
	対人関係	人数	7	24	11	5	3	0	1	68	119
		延べ数	15	65	24	6	3	0	4	201	318
	進路相談	人数	1	3	1	13	7	0	0	6	31
		延べ数	1	9	1	33	7	0	0	9	60
	異性問題	人数	4	0	3	4	0	1	0	15	27
		延べ数	4	0	3	7	0	1	0	53	68
R2	家庭内問題	人数	2	2	1	0	3	2	1	20	31
		延べ数	2	2	1	0	3	2	1	33	44
	その他	人数	11	14	3	5	1	2	9	56	101
		延べ数	15	31	3	5	1	4	23	128	210
	合計	人数	61	68	42	56	22	17	36	253	555
		延べ数	135	177	63	112	24	29	59	623	1222
	心理相談	人数	5	4	3	0	1	1	4	4	22
		延べ数	23	16	9	0	6	1	9	51	115
	学業	人数	17	3	3	8	3	3	11	0	48
		延べ数	23	7	10	12	3	3	15	0	73
R3	対人関係	人数	1	1	2	1	1	0	0	2	8
		延べ数	5	1	17	1	1	0	0	15	40
	進路相談	人数	1	1	0	13	19	2	4	1	41
		延べ数	7	6	0	23	23	21	14	1	95
	異性問題	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭内問題	人数	2	1	1	1	1	0	0	4	10
		延べ数	6	1	6	1	1	0	0	17	32
	その他	人数	5	6	3	7	6	3	8	18	56
		延べ数	15	33	12	11	6	82	10	19	188
R4	合計	人数	31	16	12	30	31	9	27	29	185
		延べ数	79	64	54	48	40	107	48	103	543
	心理相談	人数	3	8	8	4	5	3	8	12	51
		延べ数	6	16	12	10	82	11	14	37	188
	学業	人数	10	8	8	6	5	0	9	5	51
		延べ数	27	37	11	8	5	0	10	11	109
	対人関係	人数	1	2	2	6	2	1	2	16	32
		延べ数	1	9	8	75	25	1	3	71	193
	進路相談	人数	2	2	4	8	47	8	13	2	86
		延べ数	3	4	9	15	86	30	13	6	166
R5	異性問題	人数	0	1	1	1	2	0	0	0	5
		延べ数	0	1	1	1	4	0	0	0	7
	ハラスメント	人数	0	2	0	1	0	0	0	5	8
		延べ数	0	5	0	1	0	0	0	5	11
	家庭内問題	人数	0	3	1	1	1	0	0	2	8
		延べ数	0	3	1	2	32	0	0	2	40
	その他	人数	7	4	4	3	2	4	19	36	79
		延べ数	23	10	6	26	2	20	38	74	199
	合計	人数	23	30	28	30	64	16	51	78	320
		延べ数	60	85	48	138	236	62	78	206	913
R4	心理相談	人数	3	7	11	9	19	3	6	16	74
		延べ数	5	12	41	28	90	4	13	76	269
	学業	人数	78	8	8	31	3	2	10	8	148
		延べ数	116	19	18	38	5	11	27	19	253
	対人関係	人数	3	3	4	0	4	0	2	2	18
		延べ数	3	11	5	0	10	0	2	2	33
	進路相談	人数	2	5	1	22	20	2	8	9	69
		延べ数	2	8	1	29	91	4	14	14	163
	異性問題	人数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		延べ数	0	0	0	1	0	0	0	0	1
R5	ハラスメント	人数	5	0	0	0	0	0	1	3	9
		延べ数	8	0	0	0	0	0	2	11	21
	家庭内問題	人数	0	0	3	5	2	0	0	0	10
		延べ数	0	0	8	6	2	0	0	0	16
	その他	人数	10	2	4	18	7	0	32	90	163
		延べ数	12	2	16	20	21	0	44	225	340
	合計	人数	101	25	31	86	55	7	59	128	492
		延べ数	146	52	89	122	219	19	102	347	1096
	心理相談	人数	7	22	5	9	3	5	12	41	104
		延べ数	20	36	15	36	17	6	25	145	300
R5	学業	人数	2	6	8	0	0	1	5	3	25
		延べ数	4	11	25	0	0	1	7	10	58
	対人関係	人数	9	2	3	0	3	0	2	1	20
		延べ数	16	3	4	0	12	0	9	1	45
	進路相談	人数	2	6	6	4	11	3	5	12	49
		延べ数	4	11	13	14	35	3	12	19	111
	異性問題	人数	1	0	2	0	1	0	0	0	4
		延べ数	1	0	2	0	1	0	0	0	4
	ハラスメント	人数	0	1	0	0	1	0	0	1	3
		延べ数	0	2	0	0	2	0	0	1	5
R5	家庭内問題	人数	4	1	2	1	0	0	4	2	14
		延べ数	4	1	2	1	0	0	10	2	20
	その他	人数	10	3	8	3	1	2	18	63	108
		延べ数	14	5	8	9	1	3	54	125	219
	合計	人数	35	41	34	17	20	11	46	123	327
		延べ数	63	69	69	60	68	13	117	303	762

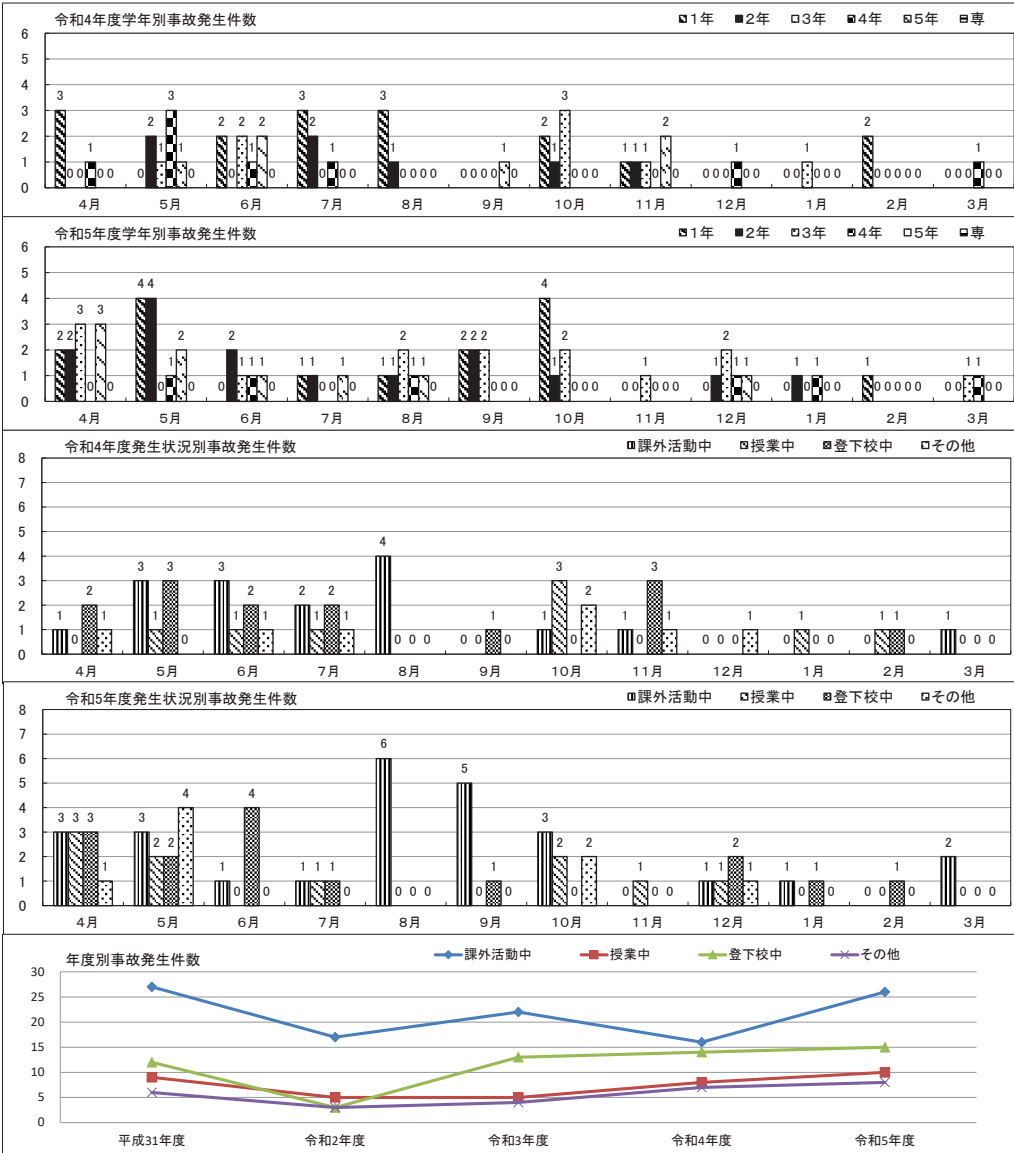
令和5年度 保健室利用学生数

月	区 分	怪 我 等	体調不良等	相 談 等	総 数	登校日数
4		32	12	9	53	18(春季休業)
5		40	33	7	80	19
6		17	23	4	44	22(前期中間試験)
7		18	35	11	64	20(前期末試験)
8		8	15	4	27	8(前期末試験・夏季休業)
9		3	1	2	6	0(夏季休業)
10		32	43	3	78	21
11		16	30	5	51	20(後期中間試験)
12		19	29	4	52	18(後期中間試験・冬季休業)
1		11	23	1	35	17(冬季休業)
2		4	8	0	12	14(学年末試験)
3		1	0	2	3	12(学年末休業)
合計		201	252	52	505	189

保健室利用状況

区 分	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
怪 我 等	274	110	140	171	201
体 調 不 良 等	313	134	178	186	252
相 談 等	216	73	60	93	52
合 計	803	317	378	450	505

令和4.5年度 学生事故発生件数



令和4年度事故発生報告(提出された事故報告書に基づく)													
月別学年別								月別発生状況別					
発生月	1年	2年	3年	4年	5年	専	計	発生月	課外活動中	授業中	登下校中	その他	計
4月	3	0	0	1	0	0	4	4月	1	0	2	1	4
5月	0	2	1	3	1	0	7	5月	3	1	3	0	7
6月	2	0	2	1	2	0	7	6月	3	1	2	1	7
7月	3	2	0	1	0	0	6	7月	2	1	2	1	6
8月	3	1	0	0	0	0	4	8月	4	0	0	0	4
9月	0	0	0	0	1	0	1	9月	0	0	1	0	1
10月	2	1	3	0	0	0	6	10月	1	3	0	2	6
11月	1	1	1	0	2	0	5	11月	1	0	3	1	5
12月	0	0	0	1	0	0	1	12月	0	0	0	1	1
1月	0	0	1	0	0	0	1	1月	0	1	0	0	1
2月	2	0	0	0	0	0	2	2月	0	1	1	0	2
3月	0	0	0	1	0	0	1	3月	1	0	0	0	1
総数	16	7	8	8	6	0	45	総数	16	8	14	7	45

	課外活動中	授業中	登下校中	その他	計
平成31年度	27	9	12	6	54
令和2年度	17	5	3	3	28
令和3年度	22	5	13	4	44
令和4年度	16	8	14	7	45
令和5年度	26	10	15	8	59

令和5年度事故発生報告(提出された事故報告書に基づく)													
月別学年別								月別発生状況別					
発生月	1年	2年	3年	4年	5年	専	計	発生月	課外活動中	授業中	登下校中	その他	計
4月	2	2	3	0	3	0	10	4月	3	3	3	1	10
5月	4	4	0	1	2	0	11	5月	3	2	2	4	11
6月	0	2	1	1	1	0	5	6月	1	0	4	0	5
7月	1	1	0	0	1	0	3	7月	1	1	1	0	3
8月	1	1	2	1	1	0	6	8月	6	0	0	0	6
9月	2	2	2	0	0	0	6	9月	5	0	1	0	6
10月	4	1	2	0	0	0	7	10月	3	2	0	2	7
11月	0	0	1	0	0	0	1	11月	0	1	0	0	1
12月	0	1	2	1	1	0	5	12月	1	1	2	1	5
1月	0	1	0	1	0	0	2	1月	1	0	1	0	2
2月	1	0	0	0	0	0	1	2月	0	0	1	0	1
3月	0	0	1	1	0	0	2	3月	2	0	0	0	2
総数	15	15	14	6	9	0	59	総数	26	10	15	8	59

資料 1 7

入学料免除者数（高専機構）

年 度	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
令和元年度	2	2	0	0
令和2年度	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0
令和4年度	1	0	0	1
令和5年度	0	0	0	0

入学料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

年 度	申請者数	満額減免	2/3減免	1/3減免	不認定・辞退
令和2年度	15	4	2	3	6
令和3年度	6	5	0	1	0
令和4年度	11	6	2	2	1
令和5年度	8	6	0	1	1

資料 1 8

授業料免除者数

授業料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有）に対し、①授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

※減免額については、
(1)「第Ⅰ区分：満額（上限の範囲内）」 (2)「第Ⅱ区分：第Ⅰ区分の減免額の2/3」 (3)「第Ⅲ区分：第Ⅰ区分の減免額の1/3」
(4)「停止：適格認定（家計）により支援対象外」 (5)「不認定」 (6)「その他」

年 度		申請者数	(1) 全額減免	(2) 2 / 3 減免	(3) 1 / 3 減免	(4) 停止	(5) 不認定	(6) その他
令和2年度	前期	83	33	13	10	0	27	0
	後期	56	32	11	9	4	0	0
令和3年度	前期	67	39	12	7	3	6	0
	後期	65	38	11	9	4	2	1
令和4年度	前期	53	36	6	8	1	1	1
	後期	55	35	7	6	4	2	1
令和5年度	前期	45	29	5	5	3	3	0
	後期	47	32	7	2	5	1	0

授業料免除者数（高専機構）

年 度	前 期				後 期			
	申請者数	全額免除	半額免除	不許可	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
令和元年度	29	14	11	4	28	15	10	3
令和2年度	24	11	11 (3)	2	21	9	10 (2)	2
令和3年度	8	1	5 (2)	2 (1)	7	1	5	1
令和4年度	4	1	2	1	2	1	1	0
令和5年度	1	1	0	0	2	2	0	0

（ ）が付いている授業料免除者は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」の免除額が「高専機構による授業料免除」の免除額（不許可含む）より多いため、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」（2/3又は1/3減免）を適用している者。

資料 19

日本学生支援機構貸与奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数	採用者数
	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	予約採用	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	無利子 (第二種)	合計 (第一種)	合計 (第二種)
令和元年度	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4	1
令和2年度	4	1	0	0	0	2	0	0	0	1	6	2
令和3年度	4	2	0	0	2	3	1	0	0	0	9	3
令和4年度	0	1	0	0	0	0	2	0	0		0	3
令和5年度	7	1	0	0	0	0	0	0	0		7	1

※予約採用は、中学校で予め申請をし、本校入学後に届け出ることによって採用が決定される。

※第一種・第二種併用申請者等は第一種・第二種それぞれに計上する。

資料 20

日本学生支援機構給付奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数
	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	第Ⅳ区分	支給停止	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	第Ⅳ区分	支給停止	合計
令和2年度	27	8	6	0	3	5	3	3	0	1	52
令和3年度	31	9	7	0	3	7	2	2	0	1	58
令和4年度	27	4	6	0	1	9	3	0	0	3	49
令和5年度	20	4	2	0	2	12	4	0	0	1	42

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有）に対し、

授業料等の減免（授業料と入学金の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

資料21

進路状況

年 度	学 科	卒業者数	求 人		就 職 者			進学・ その他
			企業数	求人数	民間企業	官公庁	計	
令和元年度	機 械 工 学 科	36	1120	332	13	1	14	22
	電 気 工 学 科	34		237	16	0	16	18
	電子制御工学科	34		221	11	0	11	23
	情 報 工 学 科	40		227	16	0	16	24
	物質化学工学科	34		131	14	0	14	20
令和2年度	機 械 工 学 科	36	935	260	13	1	14	22
	電 気 工 学 科	48		235	23	0	23	25
	電子制御工学科	34		227	11	0	11	23
	情 報 工 学 科	35		195	15	0	15	20
	物質化学工学科	35		119	13	0	13	22
令和3年度	機 械 工 学 科	32	848	248	18	0	18	14
	電 気 工 学 科	38		209	19	1	20	18
	電子制御工学科	37		215	13	0	13	24
	情 報 工 学 科	39		175	21	0	21	18
	物質化学工学科	32		92	8	0	8	24
令和4年度	機 械 工 学 科	35	894	301	16	1	17	18
	電 気 工 学 科	39		241	14	0	14	25
	電子制御工学科	35		196	12	0	12	23
	情 報 工 学 科	32		180	8	0	8	24
	物質化学工学科	36		114	13	0	13	23
令和5年度	機 械 工 学 科	43	1024	315	22	1	23	20
	電 気 工 学 科	35		236	14	0	14	21
	電子制御工学科	31		285	11	0	11	20
	情 報 工 学 科	39		236	20	0	20	19
	物質化学工学科	38		125	9	0	9	29

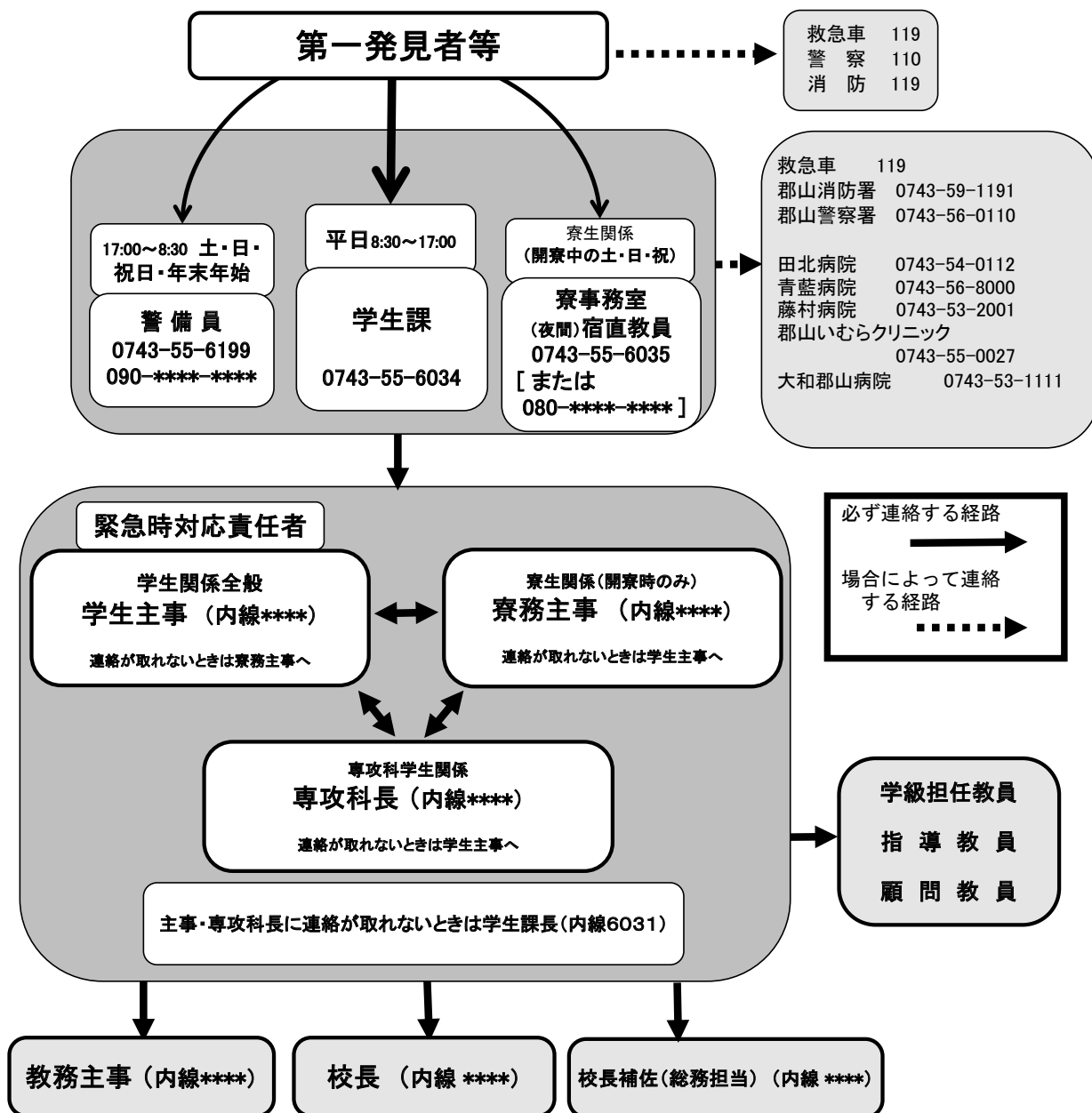
單車通学許可申請者

	学 年	申請者数	許可数
令和元年度	2	0	0
	3	4	3
	4	2	2
	5	2	2
	専攻科	11	11
	合 計	19	18
令和2年度	2	0	0
	3	4	2
	4	3	3
	5	2	2
	専攻科	10	10
	合 計	19	17
令和3年度	2	1	0
	3	3	3
	4	2	1
	5	3	3
	専攻科	9	9
	合 計	18	16
令和4年度	2	1	0
	3	6	5
	4	4	3
	5	1	1
	専攻科	11	11
	合 計	23	20
令和5年度	2	0	0
	3	1	1
	4	6	6
	5	2	2
	専攻科	6	6
	合 計	15	15

※1年生は運転免許の取得を認めていない

奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート

(図中「内線」は令和5年8月現在の対象教員研究室の内線電話番号)



- 事故等の第一発見者は、生命の安全に留意し現場対応(救急車要請、警察通報)を行うとともに、速やかに関係部署へ連絡し応援を求める。
- 緊急時対応責任者は、状況に応じ速やかに校長に報告するとともに、関係教職員とともにその対応に当たる。
- 緊急時には次のことに留意する。
 - (1) 生命の維持を最優先し、全教職員が適切な応急措置、救急体制がとれるように周知しておく。
 - (2) 冷静で的確な判断と指示をする。
 - (3) 救急車が必要だと判断した際には、直ちに救急車の要請を行う。
 - (4) けが等で病院に搬送するときは、緊急時を除き、保護者の意向を確認する。
 - (5) 事故について、保護者に事故発生状況、程度、今後の対応など詳細に納得のいく説明をする。
 - (6) 事故等緊急時連絡チェックリスト(別記)により関係教職員等に確実に連絡する。
 - (7) 緊急時対応責任者は、経過及び対応を簡潔かつ正確に記録しておく(またはその指示をする)。

資料 2 4

学生委員会違反件数

() は関係者数

年 度 違反・事件内容	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
無許可単車・自動車通学 免許取得要項違反	18	(14)	4	(4)	4	(4)	4	(4)	8	(8)
交通違反・事故	73	(72)	21	(20)	38	(38)	105	(105)	73	(76)
不祥事件 (条例違反・窃盗・不正利用等)	3	(3)	4	(4)	2	(3)	5	(5)	6	(6)
暴力・脅迫行為	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合 計	94	(89)	29	(28)	44	(45)	114	(114)	87	(90)

資料25

寮生数推移調(令和元年度～令和5年度)

令和元年度		4 月		1 0 月		令和2年度		4 月		1 0 月	
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子		学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
	1年	15	4	15	4		1年	21	6	23	7
	2年	20	6	20	5		2年	16	4	16	3
	3年	18 (2)	4	18 (2)	4		3年	21 (3)	5 (1)	21 (3)	5 (1)
	4年	19 (4)	5	19 (4)	5		4年	17 (2)	4	17 (2)	4
	5年	14	5 (2)	12	5 (2)		5年	18 (4)	5	17 (4)	5
	小計	86 (6)	24 (2)	84 (6)	23 (2)		小計	93 (9)	24 (1)	94 (9)	24 (1)
	合計	110 (8)		107 (8)			合計	117 (10)		118 (10)	

令和3年度		4 月		1 0 月		令和4年度		4 月		1 0 月	
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子		学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
	1年	20	9	20	9		1年	23	8	23	9
	2年	22	6	20	6		2年	20	9	20	9
	3年	15 (3)	3	13 (3)	2		3年	21 (2)	7 (1)	20 (2)	7 (1)
	4年	19 (3)	5 (1)	16 (3)	4 (1)		4年	11 (3)	2	10 (3)	2
	5年	17 (2)	4	15 (2)	4		5年	14 (3)	3 (1)	9 (3)	3 (1)
	小計	93 (8)	27 (1)	84 (8)	25 (1)		小計	89 (8)	29 (2)	82 (8)	30 (2)
	合計	120 (9)		109 (9)			合計	118 (10)		112 (10)	

令和5年度		4 月		1 0 月	
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
	1年	17	6	17	6
	2年	22	8	22	8
	3年	20 (1)	9 (1)	20 (1)	9 (1)
	4年	16 (2)	8 (1)	15 (2)	8 (1)
	5年	9 (3)	2	8 (3)	2
	小計	84 (6)	33 (2)	82 (6)	33 (2)
	合計	117 (8)		115 (8)	

※ ()は留学生で内数

※ 短期留学生を除く

学 寮 の 日 課 表

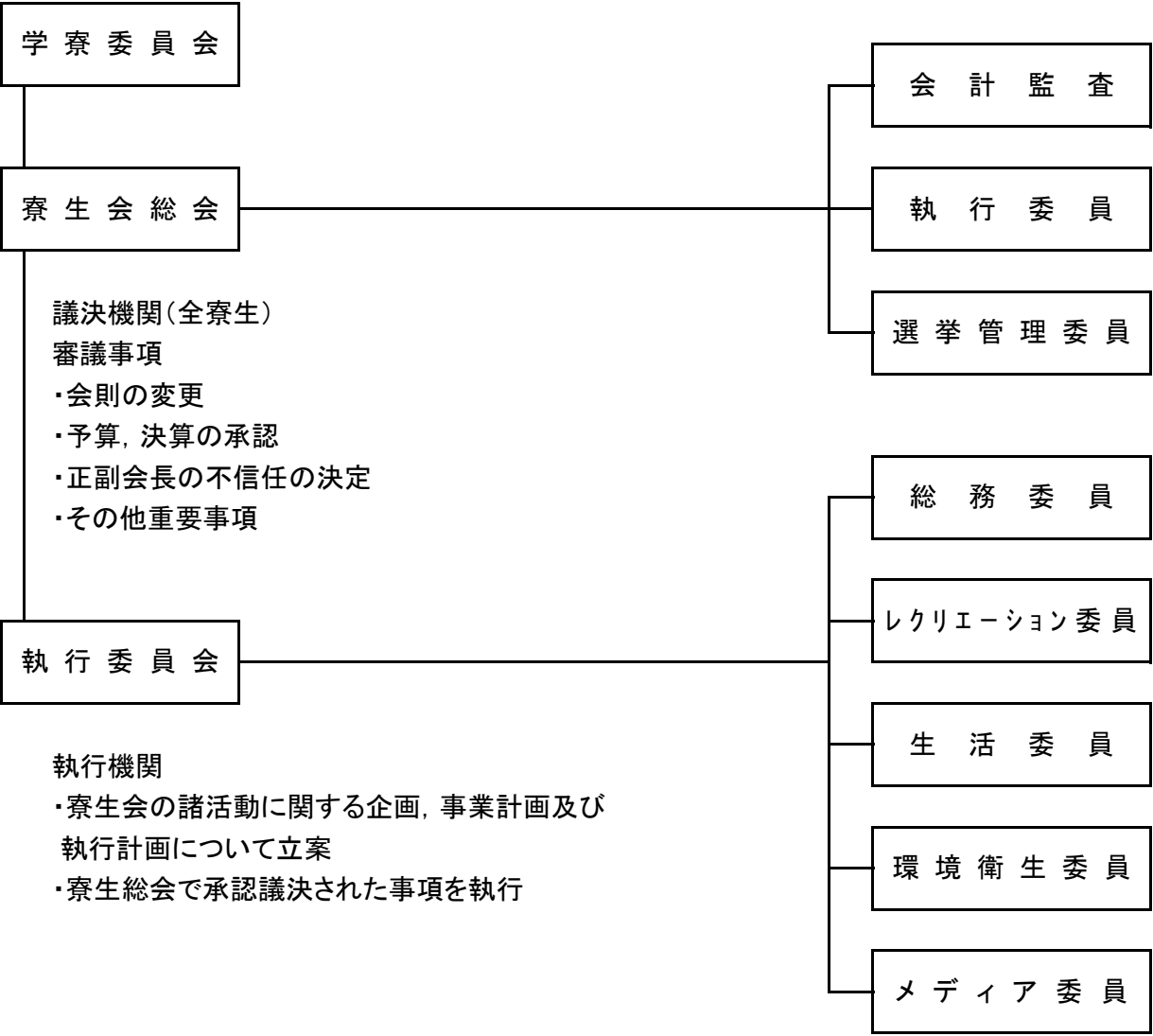
寮生は、基本的に以下の日課表に従って自主的に規則正しい生活をしなければならない。

時 間		内 容
男 子	女 子	
7:00	7:00	起床
7:00 ～ 7:25	7:00 ～ 7:25	清掃
7:30	7:25	点呼報告
7:50	7:50	朝食を知らせる放送
7:50 ～ 8:30	7:50 ～ 8:30	朝食時間
8:30 ～ 8:40	8:30 ～ 8:40	食堂の片づけ
12:10 ～ 13:10	12:10 ～ 13:10	昼食時間
17:30 ～ 19:15	17:30 ～ 19:15	夕食時間
18:30 ～ 21:30	18:00 ～ 21:00	入浴時間
21:30	21:30	門限
22:00	21:30	点呼報告
23:30	23:30	1年生の消灯時間
1:00	1:00	全寮棟の消灯時間

備考

- ◎ 消灯時刻は、定期試験の1週間前から試験最終日までは自由とする。

寮 生 会 の 組 織



学寮の年間行事(令和5年度)

月	諸 行 事
4 月	開寮, 寮生集会, 入寮式, 新入寮生歓迎会(特別食のみ)
5 月	連休に伴う閉寮, 開寮, 寮生集会, 春季スポーツ大会, 避難訓練
6 月	
7 月	寮祭, 1年生寮生保護者との懇談会, 寮通信の発行
8 月	大掃除, 1年生部屋替え, 夏季休業による閉寮
9 月	
10 月	開寮, 寮生集会, 寮長・副寮長選挙, 秋季スポーツ大会
11 月	
12 月	避難訓練, 5年生と語る会, 大掃除, 寮通信の発行, 冬季休業による閉寮
1 月	開寮, 寮生集会, 留学生と語る会
2 月	学寮送別会, 学年末・春季休業による閉寮
3 月	寮通信の発行, 入寮予定者オリエンテーション

専攻科入学者選抜方法

年 度	選 抜 方 法 ・ 日 程		
2020年度	推 薦 5 月 23 日 (木)	学 力 検 査 6 月 15 日 (土)	社 会 人 9 月 25 日 (水)
令和3年度	推 薦 5 月 14 日 (木)	学 力 検 査 9 月 5 日 (土)	社 会 人 9 月 23 日 (水)
令和4年度	推 薦 5 月 20 日 (木)	学 力 検 査 6 月 12 日 (土)	社 会 人 9 月 22 日 (水)
令和5年度	推 薦 5 月 19 日 (木)	学 力 検 査 6 月 18 日 (土)	社 会 人 9 月 21 日 (水)
令和6年度	推 薦 5 月 18 日 (木)	学 力 検 査 6 月 17 日 (土)	社 会 人 9 月 20 日 (水)

※1 令和3年度推薦選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み面接は実施せず

※2 令和3年度学力選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み選抜期日を 6 月 13 日 (土) から 9 月 5 日 (土) に変更した

年度別専攻科入学状況

年度	専攻名	コース名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳 ()は社会人で内数
平成三十一年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.5	30	21	15	本校 15
		電気電子システムコース	6	3.5	21	18	14	本校 14
		情報システムコース	6	2.7	16	12	9	本校 9
	物質創成工学	-	6	2.2	13	12	7	本校 7
	合 計		30	2.7	80	63	45	本校 45 他高専 0
2020年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.1	25	20	12	本校 12
		電気電子システムコース	6	2.7	16	13	12	本校 11 他高専 1
		情報システムコース	6	2.5	15	15	12	本校 12
	物質創成工学	-	6	2.7	16	11	7	本校 7
	合 計		30	2.4	72	59	43	本校 42 他高専 1
令和三年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	14	12	本校 12
		電気電子システムコース	6	2.5	15	12	10	本校 9 他高専 1
		情報システムコース	6	2.0	12	10	9	本校 9
	物質創成工学	-	6	2.0	12	9	9	本校 9
	合 計		30	1.9	58	45	40	本校 39 他高専 1
令和四年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.7	20	15	11	本校 10 他高専 1
		電気電子システムコース	6	3.2	19	12	8	本校 8
		情報システムコース	6	2.0	12	9	8	本校 8
	物質創成工学	-	6	2.3	14	12	10	本校 10
	合 計		30	2.2	65	48	37	本校 36 他高専 1
令和五年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.0	24	16	14	本校 13 他高専 1
		電気電子システムコース	6	2.8	17	13	10	本校 10
		情報システムコース	6	3.2	19	14	11	本校 11
	物質創成工学	-	6	2.0	12	9	7	本校 7
	合 計		30	2.4	72	52	42	本校 41 他高専 1
令和六年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.7	20	16	11	本校 11
		電気電子システムコース	6	2.5	15	11	9	本校 8 他高専 1
		情報システムコース	6	2.8	17	12	11	本校 11
	物質創成工学	-	6	1.7	10	10	8	本校 8
	合 計		30	2.1	62	49	39	本校 38 他高専 1

資料 3 1

専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場（令和 6 年度）

区 分			出 題 分 野（内 容）
各専攻共通（一般科目）			数学（微分積分，線形代数）
専 門 科 目	システム創成 工学専攻	機械制御システムコ ース	熱・水力学，材料力学，電気回路 以上 3 分野から 2 分野選択
		電気電子システムコ ース	電気電子工学（電磁気学，電気回路，アナ ログ電子回路）
		情報システムコース	情報工学（論理回路，情報数学，情報理論， データ構造とアルゴリズム，プログラミング， 計算機ネットワーク）
	物質創成工学専攻		化学工学（流動，伝熱，物質移動）， 物理化学（熱力学及び反応速度論）， 無機化学（元素の性質，化学結合論，固体 化学）， 分析化学（酸塩基平衡，沈殿平衡，錯生成 平衡，分配平衡，酸化還元平衡）， 有機化学（脂肪族及び芳香族化合物）， 生物化学（生体成分及び代謝） 以上 6 分野から 3 分野選択

（学力検査）

月 日	時 間	科 目 等	検 査 場
6 月 1 7 日（土）	9：10～10：10	数 学	奈良工業高等専門学校
	10：30～12：30	専門科目	
	13：30～	面 接	

令和5年度 専攻科授業時間割

[illegible]

資料 3 3

専攻科特別講演会

回	日 時	講演者職名	演 題
21	平成 22 年 12 月 10 日(金) 15:00～17:00	京都大学名誉教授	次世代エネルギーシステムと電池
22	平成 23 年 12 月 16 日(金) 13:00～14:30	日本資材(株)取締役社長	企業における研究の目的と研究員の姿勢
23	平成 25 年 1 月 25 日(金) 13:00～14:30	豊橋技術科学大学教授	センサと LSI の融合が導くイノベーション
24	平成 25 年 12 月 20 日(金) 14:40～16:10	大阪大学大学院教授	再生医療実用化の現状と取り組みについて
25	平成 26 年 10 月 10 日(金) 13:00～14:35	近畿大学水産研究所 所長・特任教授	クロマグロの完全養殖技術の開発と産業化
26	平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:00～14:35	京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 助教	コンピュータが視る世界, コンピュータが描く世界
27	平成 28 年 12 月 8 日(木) 14:40～16:15	東レ(株)先端材料研究所 新エネルギー材料研究室室長 リサーチフェロー/工務技監	新素材研究と医療・環境分野への適用
28	平成 29 年 11 月 30 日(木) 14:40～16:15	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授	試行錯誤で行動を学習する人工 知能ロボットの進化
29	平成 30 年 10 月 18 日(木) 14:40～16:15	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科教授	スピン電子工学：入門
30	令和元年 12 月 12 日(木) 15:00～16:30	大阪大学院情報科学研究科 情報数理学専攻 情報フォトリクス講座 助教	コンピューテーショナルイメージング
31	令和 3 年 1 月 21 日(木) 15:00～16:30	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 ソフトウェア工学研究室助教	ソフトウェアエコシステム研究：ドキュメンテーション・オープンサイエンス・エコノミクス
32	令和 3 年 11 月 11 日(木) 14:50～16:20	山本光学株式会社 執行役員 開発部 部長	現場主義と一貫通貫のものづくり
33	令和 4 年 11 月 10 日(木) 15:00～16:00	株式会社アンド 技術顧問	高専卒業後から現在まで
34	令和 5 年 11 月 9 日(木) 14:50～16:20	奈良工業高等専門学校 電気工学科 研究員	電気化学を活用した“ものづくり”

専攻科修了者の進路

奈良工業高等専門学校

年度	専攻名		進 路		
			就 職	進 学	そ の 他
R1	システム創成工学	機械制御システムコース	セイコーエプソン(株) 1	奈良先端科学技術大学院大学 4	
			(株)奥村組 1	大阪大学大学院 3	
				京都工芸繊維大学大学院 2	
			計 2	計 9	計 0
		電気電子システムコース		奈良先端科学技術大学院大学 4	
				名古屋大学大学院 1	
			計 0	計 6	計 0
		情報システムコース	TRUNK(株) 1	奈良先端科学技術大学院大学 5	
			自衛隊 幹部候補生 1		
			TISシステムサービス(株) 1		
			(株)ヘッドジャパン 1		
			フェンリル(株) 1		
			計 5	計 5	計 0
	物質創成工学	呉竹(株) 1	奈良先端科学技術大学院大学 2		
		AGC(株) 1	京都大学大学院 2		
		吹田市 1	神戸大学大学院 1		
		計 3	計 5	計 0	
	計		10	25	0
年度	専攻名		進 路		
			就 職	進 学	そ の 他
R2	システム創成工学	機械制御システムコース	ソフトバンク(株) 1	奈良先端科学技術大学院大学 5	未定 3
			(株)トクピ製作所 1	大阪大学大学院 3	
				京都大学大学院 1	
				同志社大学大学院 1	
			計 2	計 10	計 3
		電気電子システムコース	近畿日本鉄道(株) 1	大阪大学大学院 3	未定 2
			寺崎電気産業(株) 1	奈良先端科学技術大学院大学 3	
			パナソニック(株)インダストリア 1	東京工業大学大学院 2	
			ルソリューションズ社 1	同志社大学大学院 1	
			計 3	計 9	計 2
		情報システムコース	アステック(株) 2	奈良先端科学技術大学院大学 3	未定 3
			(株)アイティフォース 1		
			(株)AHIRU 1		
			計 4	計 3	計 3
	物質創成工学			奈良先端科学技術大学院大学 6	
				京都大学大学院 1	
				神戸大学大学院 1	
				大阪大学大学院 1	
		計 0	計 9	計 0	
	計		9	31	8

R3	システム創成工学	機械制御システムコース	日立造船(株)	1	大阪大学大学院	4		
			(株)小松製作所	1	奈良先端科学技術大学院大学	3		
			新明和工業(株)	1	東北大学大学院	1		
			(株)アル テクナ	1	京都工芸繊維大学大学院	1		
			計	4	計	9	計	0
		電気電子システムコース	大阪ガス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2		
			ヤンマーホールディングス(株)	1	東北大学大学院	2		
			(株)ビーネックスソリューションズ	1	北陸先端科学技術大学院大学	1		
			日立造船(株)	1	東京工業大学大学院	1		
			TBSアクト(株)	1	大阪大学大学院	1		
パナソニック(株)エレクトリックワークス	1							
(株)中央エンジニアリング	1							
計	7	計	7	計	0			
情報システムコース	(株)マネーフォワード	1	奈良先端科学技術大学院大学	10				
	大研医器(株)	1						
	(株)NTTデータSBC	1						
	(株)はてな	1						
	計	4	計	10	計	0		
物質創成工学	出光興産(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2				
	三菱ガス化学(株)	1	北海道大学大学院	1				
	旭化成(株)	1						
	住友電気工業(株)	1						
	計	4	計	3	計	0		
計		19		29		0		
年度	専攻名	進路						
		就 職	進 学		そ の 他			
R4	システム創成工学	機械制御システムコース	オーツェイド(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2	未定	1
			ファナック(株)	1	大阪大学大学院	1		
			(同)日本テキサスインスツルメンツ	1				
			オムロン(株)	1				
			大阪ガス(株)	1				
			ジョンソンコントロールズ(株)	1				
			中西金属工業(株)	1				
			(株)イトーキ	1				
			ダイキン工業(株)	1				
			東京ロボティクス(株)	1				
		計	10	計	3	計	1	
		電気電子システムコース	アイテック阪急阪神(株)	1	大阪大学大学院	2		
			パナソニック(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	1		
			くらしアプライアンス社	1	京都大学大学院	1		
			ダイダン(株)	1	東北大学大学院	1		
			豊橋技術科学大学 研究員	1	岡山大学大学院	1		
		計	4	計	6	計	0	
		情報システムコース	ソニーグローバルマニュファクチュアリング&オペレーションズ(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	4	未定	1
			(株)ハイマックス	1				
			eBASE(株)	1				
			(株)テイジイエル	1				
			(株)KMS	1				
計	5	計	4	計	1			
物質創成工学	(株)呉竹	1	京都大学大学院	2				
	日東電工(株)	2	奈良先端科学技術大学院大学	1				
			筑波大学大学院	1				
			大阪大学大学院	1				
			九州大学大学院	1				
計	3	計	6	計	0			
計		22		19				

年度	専攻名		進路					
			就 職	進 学	そ の 他			
R5	システム創成工学	機械制御システムコース	(株)クボタ	1	東北大学大学院	1		
			JFEプラントエンジニア(株)	1	大阪大学大学院	1		
			奈良県職員	1	京都工芸繊維大学大学院	1		
			日本電気硝子(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2		
			パナソニックインダストリー(株)	1				
			パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション(株)	1				
		計	6	計	5	計	0	
		電気電子システムコース	エース音響(株)	1	豊橋技術科学大学大学院	1		
			大阪ガスネットワーク(株)	1	金沢大学大学院	1		
			日東電工(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	1		
			(株)日立製作所	1				
		計	4	計	3	計	0	
		情報システムコース	東日本電信電話(株)	1	筑波大学大学院	2	奈良高専研究生	1
					奈良先端科学技術大学院大学	4		
			計	1	計	6	計	1
	物質創成工学	アクア化学(株)	1	大阪大学大学院	1			
		大陽日酸(株)	1	神戸大学大学院	1			
		日揮グローバル(株)	1	奈良女子大学大学院	1			
		パナソニックインダストリー(株)	2	奈良先端科学技術大学院大学	1			
		(株)村田製作所	1					
		計	6	計	4	計	0	
	計		17		18		1	

奈良高専JABEE修了者進路状況

平成17年度												平成18年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
4	8	0	12	2	6	0	8	2	3	0	5	9	6	1	16	2	11	1	14	2	3	0	5
33.3%	66.7%	0.0%		25.0%	75.0%	0.0%		40.0%	60.0%	0.0%		56.3%	37.5%	6.3%		14.3%	78.6%	7.1%		40.0%	60.0%	0.0%	

平成19年度												平成20年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
2	12	1	15	6	11	0	17	3	4	0	7	6	11	3	20	7	8	1	16	3	3	0	6
13.3%	80.0%	6.7%		35.3%	64.7%	0.0%		42.9%	57.1%	0.0%		30.0%	55.0%	15.0%		43.8%	50.0%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成21年度												平成22年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
3	8	1	12	4	4	2	10	3	5	0	8	11	9	0	20	5	10	1	16	2	2	0	4
25.0%	66.7%	8.3%		40.0%	40.0%	20.0%		37.5%	62.5%	0.0%		55.0%	45.0%	0.0%		31.3%	62.5%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成23年度												平成24年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
9	8	0	17	3	8	2	13	2	8	0	10	8	6	0	14	6	6	1	13	4	3	0	7
52.9%	47.1%	0.0%		23.1%	61.5%	15.4%		20.0%	80.0%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		46.2%	46.2%	7.7%		57.1%	42.9%	0.0%	

平成25年度												平成26年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
7	7	0	14	6	13	1	20	5	6	0	11	2	12	0	14	10	7	0	17	2	5	0	7
50.0%	50.0%	0.0%		30.0%	65.0%	5.0%		45.5%	54.5%	0.0%		14.3%	85.7%	0.0%		58.8%	41.2%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

平成27年度												平成28年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
3	7	0	10	3	12	0	15	2	7	0	9	1	9	0	10	2	10	0	12	0	8	0	8
30.0%	70.0%	0.0%		20.0%	80.0%	0.0%		22.2%	77.8%	0.0%		10.0%	90.0%	0.0%		16.7%	83.3%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	

平成29年度												改組前 累計											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
7	10	0	17	5	12	1	18	2	11	0	13	72	113	6	191	61	118	10	189	32	68	0	100
41.2%	58.8%	0.0%		27.8%	66.7%	5.6%		15.4%	84.6%	0.0%		37.7%	59.2%	3.1%		32.3%	62.4%	5.3%		32.0%	68.0%	0.0%	

平成30年度												令和元年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
3	11	1	15	1	6	0	7	4	3	0	7	2	9	0	11	0	6	0	6	5	5	0	10
20.0%	73.3%	6.7%		14.3%	85.7%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		18.2%	81.8%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	

令和2年度												令和3年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
2	10	3	15	3	9	2	14	4	3	3	10	3	9	0	12	5	6	0	11	4	10	0	14
13.3%	66.7%	20.0%		21.4%	64.3%	14.3%		40.0%	30.0%	30.0%		25.0%	75.0%	0.0%		45.5%	54.5%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

資料 3 6

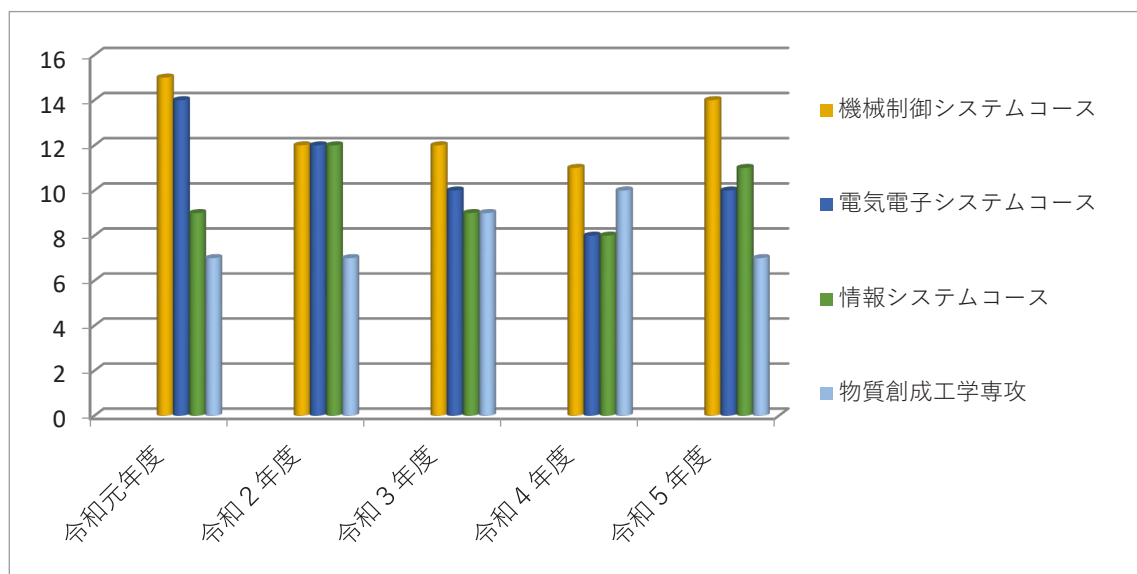


図 専攻科入学者数の推移

資料 37

企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科・延べ人数）

年 度	システム創成工学専攻			物質創成 工学専攻	合 計
	機械制御 システム コース	電気電子 システム コース	情報 システム コース		
令和元年度	11	4	7	1	23
令和2年度	4	2	1	1	8
令和3年度	5	10	3	0	18
令和4年度	11	10	8	6	35
令和5年度	12	15	9	5	41

※海外インターンシップ含む

資料 38

専攻科生の論文等の学会発表件数

発 表 先	年 度	機械制御システムコース	電気電子システムコース	情報システムコース	物質創成工学専攻	合 計
学術雑誌論文	令和元年度	4	2	1	0	7
	令和2年度	3	1	0	3	7
	令和3年度	1	1	1	0	3
	令和4年度	4	0	1	0	5
	令和5年度	1	2	1	0	4
国際学会発表	令和元年度	8	4	3	16	31
	令和2年度	4	1	5	3	13
	令和3年度	13	0	1	3	17
	令和4年度	8	2	4	9	23
	令和5年度	5	3	2	5	15
国内学会発表※	令和元年度	21	15	10	32	78
	令和2年度	19	12	16	23	70
	令和3年度	13	23	15	19	70
	令和4年度	11	18	25	24	78
	令和5年度	16	20	17	22	75
その他 (特許, 研究紀 要, 解説等)	令和元年度	0	4	0	0	4
	令和2年度	2	0	0	0	2
	令和3年度	1	0	0	0	1
	令和4年度	0	0	0	0	0
	令和5年度	0	0	0	0	0

※国内で開催された国際学会での発表は、国際学会発表欄に含めるものとする

専攻科生の学外表彰実績

所属		学生氏名	タイトル	授与機関・学会議名 賞名
システム創成工学専攻	機械制御システム	宇野 耀	非定常超音速ジェットと衝撃波の衝突過程に関する研究	日本設計工学会関西支部2023年度研究発表講演会 学生優秀発表賞
		谷口 真爽	非定常超音速ジェットと衝撃波の衝突過程に関する研究	日本設計工学会関西支部2023年度研究発表講演会 学生優秀発表賞
		出山 敬太郎	小容積衝撃波管から放出された噴流誘起衝撃波および噴流の衝突過程の観測	日本設計工学会関西支部2023年度研究発表講演会 学生優秀発表賞
		中山 和紀	デジタルものづくりを活用した社会実装	日本設計工学会関西支部2023年度研究発表講演会 学生優秀発表賞
		森本 奏多	傾斜果樹園で利用可能な電動作業台車兼運搬車の開発	日本農作業学会2023年度春季大会(第58回講演会) 優秀学生賞
	電気電子システム	猪口 諄也	〚若手幹事リーダーとして第246回研究会開催への貢献〚したことに に対する表彰	パワーエレクトロニクス学会 貢献賞
		福岡 万優	高エネルギー密度型空心インダクタのコイル断面と損失の関係	電気学会 関西支部・令和4年度高専研究発表会 論文発表賞
		福岡 万優	高周波電力用空心インダクタにおける高周波損失の低減	電気学会東京支部新潟支所・第17回高専パワエレフォーラム 最優秀論文発表賞
	情報システム	藤岡 空夢	観光客の訪問スポット間距離を用いた類似度の特徴分析	一般社団法人高専シンポジウム協議会 第29回 高専シンポジウム in Nagaoka 国立大学法人 豊橋技術科学大学学長賞
		山田 裕隆	スキャン排他制御素子を使った非同期式回路のスキャンテスト	令和5年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀賞
		吉岡 春彦	構文木と視線移動の自動マッピング手法を用いたプログラム理解過程の分析	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2023 研究奨励賞
		渡邊 未来	リリースの短縮化がSelf Admitted Technical Debtの導入に与える影響の調査と考察	第30回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ ポスター・デモ賞
		渡邊 未来	メルセンヌ・ツイスターのための自己テスト可能な最小入力系列生成法の評価	令和5年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀賞
	物質創成工学専攻	大井 佑莉	RRDE法を用いたホスホニウム系イオン液体中の酸素還元反応に関する研究	第33回日本MRS年次大会 第33回日本MRS年次大会奨励賞
		大井 佑莉	プロトン添加系イオン液体中の酸素還元反応の解析	第13回高専-TUT太陽電池合同シンポジウム 優秀ポスター発表賞
		出井 将太郎	セラミック膜を用いた劣化水系洗浄剤の再生システムの開発	R4年度専攻科研究フォーラム 優秀賞
		吉井 将人	Development of a Treatment Method for Reduction of Sn Ions in Semiconductor Plating Wastewater	令和5年第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀賞

第2章 研究に関する評価関係

科学研究費等受入実績調べ

(単位:件、円)

学 科 名	科学研究費補助金 外数(研究分担金)		共 同 研 究 (産学連携等研究費)		受託研究・受託事業 (産学連携等研究費)		補 助 金 事 業		奨 学 寄 付 金		う ち 県 内		う ち 県 外	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
令和元年度	21 (10)	21,050,000 【6,180,000】 (2,095,000) 【628,500】	21	13,018,292	13	74,772,371	10	27,626,242	98	23,626,236	43	12,103,236	55	11,523,000
令和2年度	21 (14)	21,132,163 【6,120,000】 (2,920,000) 【876,000】	25	18,386,280	8	82,910,278	12	181,197,588	76	9,681,000	29	4,276,000	47	5,405,000
令和3年度	25 (13)	31,788,197 【9,272,460】 (2,041,000) 【612,300】	14	10,570,000	5	38,882,999	8	15,950,000	65	14,234,000	29	3,254,000	36	10,980,000
令和4年度	27 (15)	23,310,000 【6,780,000】 (3,280,960) 【984,288】	13	6,985,000	8	29,263,000	6	5,700,000	76	17,916,000	35	12,420,000	41	5,496,000
令和5年度	25 (12)	24,380,000 【6,870,000】 (2,575,000) 【772,500】	21	17,127,000	13	38,853,294	4	7,200,000	153	19,194,400	74	9,780,000	79	9,414,400

外数【間接経費】

令和5年度科学研究費採択状況一覧

『配分額』は学内受入総額(学外分担者分除く直接+間接)を指す。

年度	種別	申請数	採択数	採択率	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	氏名	種別	配分額(千円)	課題番号	内 容	課題
5年度	特別推進研究	0	0	-			福岡 寛	期間延長	0	19K04182	衝撃波閉じ込め領域の制御に向けた壁面表面設計	題
	新学術領域研究	0	0	-			新井 由美	期間延長	0	20K00288	新聞小説を原型とする大正末～昭和戦前期の文字環境に関する基礎的研究	
	学術変革領域研究	0	0	-			中村 秀美	期間延長	0	20K12248	イオン交換×キレート錯体を用いた半導体めっきゼロ・エミッションプロセスの構築	
	基礎研究(S)	0	0	-			竹原 信也	継続	1,430	20K03286	技術者倫理教育の教育実践研究を通じて教育改善と効果的な学習教材の開発	
	基礎研究(A)	0	0	-			道本 祐子	継続	650	21K00805	日本人EFL学習者の英語産出における統語構造の複雑性の発達	
	基礎研究(B)	2	0	0.0%			平 俊男	継続	520	21K03824	深層学習アプローチによる力学的感性的視覚化	
							三崎 雅裕	継続	780	21K04161	VOCフリー塗布成膜技術による配向制御した有機pn接合界面の創成	
							藤田 直幸	継続	780	21K04162	100MHz動作を阻ったサブミクロン軟磁性微粒子内包アルミナナテラプレートの創成	
							宇田 賢一	継続	910	21K05219	確約がん細胞の殺傷と同時検出を可能にするpH応答性分子含有リボソームの開発	
							飯田 亮一	継続	1,040	21K05858	収穫・管理支援用運搬台車の開発	
	基礎研究(C)	45	18	40.0%			岩田 大志	継続	1,170	21K11820	多入力多出力の非同期式順序素子を対象としたテスト容易化設計	
							上野 秀剛	継続	780	21K11842	生体情報を用いたプログラム理解のマイクログロセス分析	
							酒井 史敏	継続	1,820	22K04005	機械システムに対する反復学習同定法のためのパラメータ空間表現	
							顯谷 智也子	継続	650	22K02908	協働学習におけるグループ編成パターンの構築と学習活性度の定量的効果測定の研究	
							芦原 佑樹	継続	1,170	22K04147	電離圏鉛直・水平構造観測を実現するロケットGNSS-TECモグラフィ	
							林 啓太	継続	1,950	22K04820	表面電位制御に基づくポルトコナ対応型グループ学習による高専生命科学授業の開発	
							石丸 裕士	継続	390	22K03014	客観指標に基いた非線形壁面摩擦挙動のモデル化とその数値解析への実装	
							谷口 幸典	新規	1,950	23K03614	圧粉成形における非線形壁面摩擦挙動のモデル化とその数値解析への実装	
							中村 篤人	新規	2,210	23K03668	音波共鳴管実験と分子気体力学に基づく非平衡・混合状態における蒸気底数測定法の開発	
							松尾 賢一	新規	3,250	23K02675	採点済み答案画像内の自由手書きされた回答文字の認識を可能にする前処理の実現	
							直江 一光	新規	1,950	23K04483	ドライ培養液を用いた気相中での水素細菌培養によるCO2からの新規物質生産プロセス	
	挑戦的研究(開拓)	1	0	0.0%								
	挑戦的研究(萌芽)	2	0	0.0%								
	若手研究	7	3	42.9%			須田 敦	継続	650	21K14111	能動制御キャスターを複数同時制御する体系的振動制御手法	
							板倉 和裕	継続	780	22K18085	ナールンドラ・モデー政権下のインドにおけるムスリムの政治運動	
							頭師 孝拓	新規	2,600	23K13163	CubeSatによる多点同時観測を可能にする超小型・省電力なプラズマ波動受信器	
	研究活動スタート支援	1	1	100.0%			永井 歩美	新規	1,430	23K19128	大トルク3次元構造SRモータの回転方向制御とハイブリット回転モータへの応用	
	特別研究員奨励費	1	1	100.0%			永井 歩美	継続	700	22KJ0171	NANOMET圧粉を用いた3次元構造SRモータの開発とハイブリット重機への応用	
	研究員公募(若手)	2	2	100.0%			宇田 亮子	新規	490	23HT0174	セッケンで油から作れるんだ～をやってみて、感じて、語る化学実験	
	奨励研究	6	0	0.0%			玉木 隆幸	新規	290	23HT0175	レーザー加工を探索 光で透明な材料は削れるか?	
	小計(代表)	67	25	37.3%	24,380	6,870			30,340			
	基礎研究(A) 研究分担者				290	87	板倉 和裕	継続	377	22H00049	分権化と集権化の政治学：インド28州から見る「民主主義」の展開と再生への道	
	基礎研究(B) 研究分担者				20	6	上島 智史	継続	26	20H01394	防災・災害復興に向けた地図・地図資料の歴史GISデータ化	
	基礎研究(B) 研究分担者				720	216	山田 裕久	継続	936	21H00811	大気圧プラズマジェット表面改質技術を用いたテキスタイルの濡れ制御	
	基礎研究(B) 研究分担者				320	96	大谷 真弘	継続	416	21H03513	遅延時間がネットワークダイナミクスに誘発させる安定化・多様化の基礎と革新的応用	
	基礎研究(B) 研究分担者				300	90	岩田 直志	継続	390	22H02469	XR(リアル/バーチャル)太陽光型植物工場シシテムの開発	
	基礎研究(B) 研究分担者				100	30	岡村 真吾	継続	130	22H03591	格子暗号によるインターネット経路セキュリティの実現	
	基礎研究(B) 研究分担者				100	30	板倉 和裕	新規	130	23H03628	グローバル・アジェンダと国内政治：インドにおけるSDGs政策過程の比較分析	
	基礎研究(C) 研究分担者				135	41	新井 由美	継続	176	20K00346	新聞小説の多角的分析—1920年代から1940年代を中心として—	
	基礎研究(C) 研究分担者				340	102	新井 由美	継続	442	22K00289	日本近代文学と近代絵画の関係を中心とする学術領域横断的研究	
	基礎研究(C) 研究分担者				100	30	玉木 隆幸	継続	130	22K02843	小中高生を対象とするロボットを用いたプログラミング教育の効果定量化手法の提案	
	基礎研究(C) 研究分担者				50	15	藤田 直幸	継続	65	22K04767	レーザー誘起改質法による超短時間での電子貯蔵型 WO3/W 光電極の形成	
	基礎研究(C) 研究分担者				100	30	福岡 寛	継続	130	22K04882	非平衡気相レーザープロセスによる複合ナノ粒子の形成過程の解明と複合構造制御	
	小計(分担)	12	12	100.0%	2,575	773			3,348			
	合計	79	37	46.8%	26,955	7,643						

資料 4 2

令和5年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧

受託研究

学 科	氏 名	受託研究申込者	所 在 地	研 究 題 目	研 究 期 間	研究経費 受入額(円)
物質化学工学科	山田 裕久	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー18階	『燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／水素利用等高度化先端技術開発／PEFC用イオン液体含浸型Pt／MPC高活性・高耐久カソード触媒合成技術の研究開発』	令和2年7月31日 ～ 令和6年3月31日	16,568,000
電気工学科	池田 陽紀	非公開			令和5年6月1日 ～ 令和6年2月29日	910,000
物質化学工学科	山田 裕久	非公開			令和5年6月6日 ～ 令和6年3月31日	499,200
機械工学科	福岡 寛	国立大学法人東京大学 工学系・情報理工学系等	東京都文京区本郷7-3-1	脳深部計測のための音響光技術開発(日本医療研究開発機構(AMED) 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト)	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	2,730,000
物質化学工学科	山田 裕久	非公開			令和5年10月3日 ～ 令和6年3月31日	190,000
物質化学工学科	山田 裕久	非公開			令和5年10月3日 ～ 令和6年3月31日	187,200
物質化学工学科	山田 裕久	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー18階	『燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業／水素利用等高度化先端技術開発／PEFC用イオン液体含浸型Pt／MPC高活性・高耐久カソード触媒合成技術の研究開発』	令和2年7月31日 ～ 令和7年3月31日	16,484,000
計	7件					37,568,400

受託事業

学 科	氏 名	受託事業申込者	所 在 地	プログラム名	受 託 期 間	受 託 金 額 (円)
電子制御工学科	橋爪 進	生駒市教育委員会 他	奈良県生駒市東新町8番38号	にしよロボくん製作業務委託	令和5年5月23日 ～ 令和6年3月31日	351,000
情報工学科	内田 眞司	郡山城にぎわいづくり実行委員会	奈良県大和郡山市北郡山町248番地4	郡山城天守台プロジェクションマッピング	令和5年6月13日 ～ 令和5年12月2日	78,000
広報センター長	玉木 隆幸	生駒市長	奈良県生駒市東新町8-38	令和5年度 出前授業	令和5年6月27日 ～ 令和6年3月31日	55,894
広報センター長	玉木 隆幸	生駒市長	奈良県生駒市東新町8-38	令和5年度いこまこチャレンジ教室(生駒市科学教室)	令和5年6月27日 ～ 令和6年3月31日	50,000
電子制御工学科	玉木 隆幸	非公開		奈良高専—イオンモール大和郡山による地域連携事業	令和5年7月6日 ～ 令和6年3月31日	400,000
電子制御工学科	玉木 隆幸	非公開		奈良高専—イオンモール大和郡山による地域連携事業 (受入額増額)	令和5年7月6日 ～ 令和6年3月31日	350,000
計	6件					1,284,894

補助金事業

学 科	氏 名	補助事業実施者	所 在 地	プロジェクト名	補 助 期 間	補 助 金 額 (円)
物質化学工学科	亀井 稔之	公益財団法人 高橋産業経済研究財団	東京都品川区西五反田2丁目12番19号 五反田NNビル10階	導入容易ならせん分子ユニットの開発(高橋産業経済研究財団 令和5年度助成金)	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日	1,500,000
校長	近藤 科江	奈良県知事	奈良県奈良市登大路町30	令和5年度奈良高専技術情報活用支援事業補助金	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	1,200,000
産学協働・地域創生研究センター長	上野 秀剛	公益財団法人寺田科学技術育英会	奈良県大和高田市東雲町3番17号	研究クラスターの支援を通じた学生の社会実装への参加(令和5年度公益財団法人寺田科学技術育英会助成)	令和5年7月10日 ～ 令和6年3月31日	1,500,000
機械工学科	須田 敦	公益財団法人 村田学術振興・教育財団	京都府長岡京市東神足1-10-1	デジファブ教育プログラムの開発～2D3Dデジタルファブリケーションとデジタルツイン教育～(村田学術振興・教育財団 A助成:(モノづくり教育支援))	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	3,000,000
計	4件					7,200,000

資料 4 3

令和 5 年度 共同研究一覧

	学 科	氏 名	会 社 名	所 在 地	研 究 題 目	変更契約	研 究 期 間	研究経費受入額 (円)
1	機械工学科	須田 敦					令和5年4月24日 ～ 令和6年2月18日	770,000
2	物質化学工学科	中村 秀美					令和5年5月23日 ～ 令和6年3月31日	990,000
3	機械工学科	須田 敦					令和5年5月23日 ～ 令和7年3月31日	770,000
4	機械工学科	谷口 幸典					令和5年6月1日 ～ 令和6年3月31日	990,000
5	物質化学工学科	中村 秀美					令和5年7月4日 ～ 令和6年3月31日	500,000
6	機械工学科	廣 和樹					令和5年7月4日 ～ 令和6年3月31日	77,000
7	物質化学工学科	片倉 勝己					令和5年7月25日 ～ 令和7年3月31日	990,000
8	物質化学工学科	中村 秀美					令和5年7月31日 ～ 令和6年3月31日	990,000
9	電子制御工学科	玉木 隆幸					令和5年7月21日 ～ 令和6年3月31日	500,000
10	物質化学工学科	松浦 幸仁	企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。				令和5年12月26日 ～ 令和6年3月20日	500,000
11	機械工学科	谷口 幸典					令和6年1月12日 ～ 令和7年3月31日	1,300,000
12	情報工学科	松尾 賢一				期間延長 研究費増額	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日	440,000
13	機械工学科	福岡 寛				期間延長 研究費増額	令和2年5月26日 ～ 令和7年3月31日	500,000
14	情報工学科	上野 秀剛				期間延長 研究費増額	令和2年5月26日 ～ 令和7年3月31日	500,000
15	機械工学科	須田 敦					令和6年2月5日 ～ 令和7年3月31日	990,000
16	電子制御工学科	樺 弘明				期間延長 研究費増額	令和4年6月13日 ～ 令和7年3月31日	1,020,000
17	機械工学科	廣 和樹				期間延長	令和5年7月4日 ～ 令和6年9月30日	-
18	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長 研究費増額	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日	500,000
19	電子制御工学科	中村 篤人				期間延長	令和3年10月27日 ～ 令和8年3月31日	-
20	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長 研究費増額	令和5年5月23日 ～ 令和7年3月31日	990,000
21	情報工学科	上野 秀剛				期間延長 研究費増額	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日	1,300,000
22	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長 研究費増額	令和5年7月31日 ～ 令和7年3月31日	2,010,000
23	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長 研究費増額	令和5年7月4日 ～ 令和7年3月31日	500,000
24	電子制御工学科	飯田 賢一				期間延長	令和2年4月2日 ～ 令和7年3月31日	-
計		21件（期間延長のみの変更契約分は件数に含まない）						17,127,000

資料 4 4

令和5年度奨学寄附金一覽

[illegible]

49	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 8. 25
50	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 7. 25
51	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 7. 20
52	中村准教授研究助成金			○	100,000円		R5. 7. 4
53	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 7. 31
54	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 8. 21
55	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 8. 4
56	亀井 総之 准教授研究助成金			○	500,000円		R5. 8. 9
57	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 9. 8
58	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R6. 1. 17
59	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	30,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 9. 5
60	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 8. 22
61	長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会研究助成			○	200,000円		R5. 9. 29
62	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 9. 25
63	情報工学科運営への寄附			○	50,000円		R5. 10. 3
64	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 10. 31
65	飯田教授研究助成金			○	550,000円		R5. 11. 2
66	福岡准教授・谷口教授 研究助成金			○	750,000円		R5. 10. 30
67	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 11. 20
68	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 12. 20
69	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 12. 6
70	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R5. 11. 16
71	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R6. 2. 5
72	教育助成金			○	5,000,000円	教育の助成	R6. 3. 5
73	福岡准教授研究助成金			○	30,000円		R6. 4. 23
74	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」事業費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R6. 4. 19
75	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業寄附金38件			○	2,910,000円	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業のため	
76	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業寄附金41件			○	4,030,000円	奈良工業高等専門学校創立60周年記念事業のため	
合 計					19,194,400円		

学会賞等の受賞状況(奈良高専在任期間中)

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
情報工学科	山口 賢一	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	プログラミング導入教育の地域への普及促進とセキュリティ人材確保に向けた取り組み
電気工学科	芦原 佑樹	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
物質化学工学科	伊月 亜有子	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生に寄り添った指導支援の実践
電気工学科	芦原 佑樹	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
電子制御工学科	玉木 隆幸	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生とのコミュニケーションを中心とする教育研究の実践
情報工学科	岩田 大志	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	高専間人事交流を活用したIoTシステムに関する教育研究の展開
電気工学科	石飛 学	令和4年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	日本を元気にするエンジニア人材の育成
情報工学科	上野 秀剛	令和4年4月	令和3年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 若手部門 理事賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	シームレスな学生教育・研究・社会実装の結合
機械工学科	酒井 史敏	令和4年5月	2022年度システム制御情報学会学術論文賞	一般社団法人システム制御情報学会	射影型反復学習同定法のためのパラメータ空間表現の推定
電子制御工学科	中村 篤人	令和5年4月	令和4年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 若手部門 優秀賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	多段階体験型学習に基づく課題解決能力を有する技術者の育成
一般教科	森 弘暢	令和5年6月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	豊かな人間性を育むための教育に向けた取り組み

特許出願・登録状況

No	学科	氏名	特許出願日	出願番号	特許登録日	発明の名称	特許権者
1	機械工学科	小柴 孝	2005. 02. 10	2005-034243	2007. 06. 22 (特許第3972109号)	液体の曳系性評価方法	国立高等専門学校機構
2	電子制御工学科	早川 恭弘	2005. 12. 20	2005-365829	2009. 11. 27 (特許第4411439号)	靴底及び靴	国立高等専門学校機構
3	校長 電気工学科	研二 谷口 滋貴	2015. 06. 22	2015-124380	2019. 06. 14 (特許第6539126号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
4	校長 電気工学科	研二 谷口 滋貴	2019. 05. 15	2019-091803	2020. 10. 16 (特許第6779537号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
5	電気工学科	石飛 学	2018. 01. 18	2018-006806	2022. 08. 04 (特許第7117725号)	インダクタ、インダクタを備えた装置及びインダクタの製造方法	国立高等専門学校機構 株式会社ダイヘン 株式会社アード
6	情報工学科 電気工学科 情報工学科	寿枝 小村 洋明 小坂 秀剛 上野	2020. 04. 27	2020-78149	2023. 08. 01 (特許第7323936号)	疲労推定装置	国立高等専門学校機構
7	電気工学科	石飛 学	2022. 04. 28	2022-74890	2023. 09. 15 (特許第7350239号)	高周波電力供給システム	国立高等専門学校機構 株式会社ダイヘン 株式会社アード

第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

資料 4 7

公開講座実施実績一覧（令和4年度）

講 座 名	開 催 日 時	対 象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会
からくり人形をつくろう	9月17日(土) 13:00～15:00	小学生 (4～6年)と 保護者	20 (18)	機械工学科
デジタルファブ리케이션入門～デジタル工作機械を使ってみよう～	9月3日(土) 10:00～15:00	小学校6年生、 中学校1・2年生	8 (6)	機械工学科
楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネットにつながる！～	10月1日(土) 13:00～16:00	中学生 (1～3年)	16 (5)	電気工学科
電気工学科オンライン体験授業	第1回10月8日(土) 15:00～15:45 第2回11月3日(木・祝) 13:00～13:45 第3回12月4日(日) 11:00～11:45	中学生 (1～3年)	20 (40)	電気工学科
楽しく作るライン追跡ロボット ～君にもできるロボット製作～	9月10日(土) 10:00～15:00	小学生 (5・6年)と 保護者	24 (20)	電子制御工 学科
ビジュアルプログラミングで プログラミングを学ぼう (初級・中級)	8月6日(土) 10:00～16:00	小学生(4～6 年)と保護者、 中学生(1～3 年)と保護者	40 (33)	情報工学科

公開講座実施実績一覧（令和５年度）

講 座 名	開 催 日 時	対 象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会
からくり人形をつくろう	9月23日（土・祝） 13:00～15:00	小学生 （4～6年）と 保護者	30 (30)	機械工学科
デジタルファブ리케이션入門～デジタル工作機械を使ってみよう～	9月2日（土） 10:00～15:00	小学校6年生、 中学校1・2年生	20 (18)	機械工学科
楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネットにつながる！～	9月10日（日） 13:00～16:00	中学生 （1～3年）	16 (11)	電気工学科
電気工学科オンライン体験授業	第1回9月23日（土・祝） 15:00～15:45 第2回10月21日（土） 13:00～13:45 第3回12月3日（日） 11:00～11:45	中学生 （1～3年）	240 (240)	電気工学科
楽しく作るライン追跡ロボット ～君にもできるロボット製作～	8月5日（土） 10:00～15:00	小学生 （5・6年）と 保護者	32 (32)	電子制御工 学科
ビジュアルプログラミングで プログラミングを学ぼう （初級・中級）	8月5日（土） 10:00～16:00	小学生（4～6 年）と保護者、 中学生（1～3 年）と保護者	40 (34)	情報工学科
全日本小中学生ロボット選手権 奈良地区大会	説明会 8月24日（木） 10:00～15:00 走行会 9月23日（土・祝） 10:00～15:30 予選会 11月18日（土） 10:00～16:00	小学生（4～6 年）、 中学生（1～3 年）	44 (19)	総務課

令和 5 年度 学市連携事業一覧

学市連携「出前授業」

市		派遣講師	実施日	学校名	内 容	学年・組	人数
大和郡山市	1	一般教科 新野 康彦	7月11日(火)	郡山東中学校	超低温の世界を探る	中学2年生・2組	56
	2	一般教科 榊原 和彦	9月6日(水)	郡山中学校 分教室「ASU」	超低温の世界を探る	中学1～3年生 ・1組	6
	3	一般教科 松井 真希子	9月7日(木)	郡山北小学校	中国語で遊ぼう	小学3年生・3組	86
	4	電気工学科 芦原 佑樹 池田 陽紀	9月12日(火)	矢田小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学4年生・2組	37
	5	情報工学科 山口 賢一 岩田 大志	11月16日(木)	矢田小学校	パズルの達人	小学6年生+保護者 ・1組	33
	6	電気工学科 芦原 佑樹 頭師 孝拓	2月14日(水)	筒井小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・2組	59
	7	電気工学科 大谷 真弘 池田 陽紀	3月5日(火)	矢田小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・2組	39
	8	電気工学科 石飛 学 池田 陽紀	3月7日(木)	郡山北小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・3組	85
	9	電気工学科 池田 陽紀	3月11日(月)	平和小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・1組	35
	10	電子制御工学科 玉木 隆幸	3月11日(月)	矢田小学校	光を探る	小学5年生・1組	32
							468
生駒市	1	電子制御工学科 橋爪 進 中村 篤人	7月13日(木)	生駒南第二小学校	ロボットプログラミングを学ぼう	小学6年生・1組	32
	2	電気工学科 小坂 洋明 芦原 佑樹	3月14日(木)	俵口小学校	磁石の不思議 君も磁石博士だ！	小学3年生・3組	84
							116

学市連携「科学教室（高専教室）」

市		テーマ名	担当学科	実施日	対 象	人数	備 考
大和郡山市	1	パソコンでアニメーションを作ろう	情報工学科 松尾 賢一 山口 賢一 上野 秀剛 教育研究支援室 西野 貴之	①7月1日(土) ②7月8日(土) ③7月15日(土)	小学4年生 ～中学1年生	15	少年少女パソコン教室
	2	親子で楽しく作る6足歩行ロボット	電子制御工学科 樺 弘明 玉木 隆幸 教育研究支援室 登 一	8月19日(土)	小学4～6年生 とその保護者	14	8組(小学生8名、保護者等6名)
	3	手作りモータを作ろう！～電気エネルギーから運動エネルギーへ～	電気工学科 池田 陽紀	11月18日(土)	小学5・6年生	9	
						38	

学市連携「科学教室（いこまっこチャレンジ教室）」

市		テーマ名	担当学科	実施日	対 象	人数	備 考
生駒市	1	音博士から教わり、調べてみよう！	情報工学科 松村 寿枝 教育研究支援室 西野 貴之	9月30日(土)	小学4～6年生	23	
	2	ペーパークラフト分子模型でフラレンを作ってみよう	物質化学工学科 宇田 亮子	10月1日(日)	中学1・2年生	5	
	3	コンパスと定規で正多角形を作図してみよう-めざせ作図マスター！-	一般教科 飯間 圭一郎 山中 聡恵 矢野 充志	11月26日(日)	小学3～6年生	18	
						46	

資料 4 9

令和5年度 学市連携以外派遣事業一覧

	派遣事業	派遣者	実施日	派遣先
1	出前授業「音を見てみよう」	情報工学科 松村 寿枝	10月5日(木)	三笠中学校 (奈良市)

資料 5 0

令和5年度 展示会・地域連携事業一覧

	展示会・地域連携事業 詳細 (イベント名称・実施日・会場・出展者等)
1	NEW 環境展 令和5年5月24日(水)～26日(金) (於 東京ビッグサイト) 出展者：物質化学工学科 山田 裕久
2	MOBIO-Café ここから始まる産学連携『奈良高専』 令和5年8月23日(水) (於 クリエイション・コア東大阪) 出展者：情報工学科 松村 寿枝
3	奈良県主催水素エネルギー普及啓発イベントにおける科学教室実施 令和5年8月24日(木) (於 イオンモール大和郡山) 物質化学工学科 山田 裕久
4	MOBIO大学・高専合同シーズ発表会(デジタル技術編) 令和5年10月3日(火) (於 クリエイション・コア東大阪) 出展者：情報工学科 岩田 大志
5	けいはんなビジネスメッセ2023：オンライン出展 令和5年10月5日(木)～6日(金)
6	MOBIO-Café ここから始まる産学連携『奈良高専』 令和5年11月9日(木) (於 クリエイション・コア東大阪) 出展者：電子制御工学科 玉木 隆幸
7	大和郡山市 郡山城天守台登城サポート事業への学生ボランティア協力 令和5年11月11日(土) (於 郡山城天守台) 情報工学科 内田 眞司・硬式野球部学生
8	奈良県福祉フェア第6回福祉機器展in奈良2023 令和5年11月18日(土) (於 県営福祉パーク) 出展者：電子制御工学科 樺 弘明
9	ビジネスチャンス発掘フェア2023 令和5年11月29日(水)～30日(木) (於 マイドーム大阪) 出展者：情報工学科 松村 寿枝・物質化学工学科 中村 秀美
10	大和郡山市 郡山城天守台プロジェクトマッピング 令和5年12月2日(土) (於 郡山城跡) 情報工学科 内田 眞司(プロジェクトマッピング製作)・一般教科 稲田 直久(天体コーナー運営) 情報工学科 市川 嘉裕(講演)
11	イノベーションストリームKANSAI 7.0 令和5年12月19日(火)～20日(水) (於 グランフロント大阪) 出展者：情報工学科 松村 寿枝・物質化学工学科 中村 秀美
12	デジタルメッセ奈良 令和6年2月8日(木) (於 奈良県コンベンションセンター) 出展者：情報工学科 上野 秀剛
13	京都ビジネス交流フェア2024 令和6年2月15日(木)～16日(金) (於 京都パルスプラザ) 出展者：情報工学科 松村 寿枝

施設開放状況一覧

年度	日付	使用目的	使用団体	選択教室5	教室(5E)	大視聴覚室	視聴覚室	電子工学実験室	第一会議室	大講義室	本館1R	大会議室	プール更衣室	第1体育館	第2体育館	陸上競技場	インフラ	テニスコート	アーチェリー場
H30年度	H30.5.13	第68回市民体育大会	大和郡山市体育協会											300	300			300	300
	H30.5.13	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会入リーグ														80		
	H30.5.20	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会入リーグ														80		
	H30.6.17	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会入リーグ														80		
	H30.7.15	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会入リーグ														80		
	H30.12.16	第26回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														250		
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	570	300	300
R1年度	R1.5.12	第69回市民体育大会	大和郡山市体育協会											300	300			300	300
	R1.5.19	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会入リーグ											300	300		80		
	R1.5.26	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会入リーグ														80		
	R1.10.5	第50回市民陸上競技大会	大和郡山市体育協会														200		
	R1.12.15	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														250		
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	610	300	300
R2年度		新型コロナウイルス感染拡大防止のため貸出実績なし																	
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3年度	R3.5.9	第70回市民体育大会	大和郡山市体育協会															100	100
	R3.6.20	第70回市民体育大会(アーチェリーのみ)	大和郡山市体育協会															20	20
	R3.7.18	第70回市民体育大会(アーチェリーのみ)	大和郡山市体育協会																
	R3.8.7	第45回やまとの夏まつりサブライズ	大和郡山市商工会														20		
	R3.8.8	第45回やまとの夏まつりサブライズ	大和郡山市商工会														20		
	R3.12.12	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														200		
小計											0	0	0	0	0	0	240	100	140
R4年度	R4.5.8	第71回市民体育大会	大和郡山市体育協会											200	200			200	200
	R4.12.11	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会														200		
小計											0	0	0	200	200	0	200	200	200
R5年度	R5.4.16	大和郡山市ラグビーフットボール協会設立三十周年記念大会	大和郡山市ラグビーフットボール協会			100											200		
	R5.5.21	第72回大和郡山市民体育大会	大和郡山市体育協会											200	200			200	200
	R6.3.2	日本設計工学会関西支部2023年度研究発表講演会	公益社団法人日本設計工学会			50	50				50								
小計				0	0	150	50	0	0	0	0	0	0	200	200	0	200	200	200
年平均				0.00	0.00	25.00	8.33	0.00	0.00	0.00	8.33	0.00	0.00	166.67	166.67	0.00	303.33	183.33	190.00
合計				0	0	150	50	0	0	0	50	0	0	1000	1000	0	1820	1100	1140

留学生年度別受入一覧表

年度	機械工学科		電気工学科		電子制御工学科		情報工学科		物質化学工学科		計		在籍数		退学数		卒業数	
	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	国費	政府 派遣	進学	帰国 就職
R1		1 マレーシア							1 モンゴル		1 2	1	3	5			1	1
R2		1 マレーシア				1 マレーシア	1 インドネシア		1 インドネシア		2 4	2	4	6			2	2
R3				1 モンゴル		1 マレーシア			1 インドネシア		1 3	1	4	5			1	1
R4						1 マレーシア			1 ラオス	1 マレーシア	1 3	1	4	6			4	4
R5							1 カンボジア		1 モンゴル		2 2	2	4	4			2	1
																		3

資料 5 3

国際交流 派遣・受入事業一覧(令和5年度)

国際交流派遣						
No.	日 程	内 容 (引率教員)	派遣学生		派遣先	
			学年	人数	国・地域	学校名・企業名等
1	令和5年8月18日(金) ～ 9月12日(火)	研究室でのプロジェクト活動、研究発表など 【JASSO(協定校派遣)】 (引率なし)	専攻科1年 (1AM 1名, 1AE 1名)	2名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
2	令和5年8月18日(金) ～ 9月12日(火)	研究室でのプロジェクト活動、研究発表など 【JASSO(協定校派遣)は1名のみ】 (引率なし)	専攻科1年 (1AM 1名, 1AI 1名)	2名	シンガポール	リパブリック ポリテクニク
3	令和5年9月4日(月) ～ 10月21日(土)	研究活動【トビタテ！留学JAPAN】 (引率なし)	専攻科2年 (2AI 1名)	1名	オランダ	ラトバウド大学
4	令和6年2月26日(月) ～ 3月2日(土)	英語での文化・学校紹介、テーマプレゼン テーション、大学・企業見学など (物質化学工学科 伊月 亜有子)	本科1年 (1M 1名, 1E 2名, 1I 3名, 1C 3名)	9名	タイ	キングモンクット工科大学トンプリ校付属高等専 門学校(KOSEN KMUTT)、タマサート大学、泰日工業 大学、タイ・ヤマハ、タイ味の素社
5	令和6年3月10日(日) ～ 3月16日(土)	英語での共同プロジェクト成果発表会、学校 紹介、日本文化の紹介など (一般教科 松井 良明) (情報工学科 山口 賢一)	本科2年(10名)、3年(10名)、4年(3名) (2E 3名, 2S 2名, 2I 2名, 2C 3名, 3M 4名, 3S 3名, 3I 1名, 3C 2名, 4M 1名, 4S 1名, 4I 1名)	23名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク リパブリック ポリテクニク

国際交流受入							
No.	日程	担当教員	担当学生		受入校		
			学年・所属など	人数	国・地域	学校名	人数
1	令和5年8月22日(水) ～ 8月29日(水)	グローバル教育センター委員	本科1～4年	35名	香港	香港專業教育學院 (香港IVE)	27名 (学生25名, 教員2名)
2	令和5年9月27日(水)	グローバル教育センター委員	本科1～4年	27名	シンガポール	リパブリック ポリテクニク	43名 (学生40名, 教員3名)
3	令和5年10月3日(火) ～ 12月22日(金)	機械工学科 (須田研究室)			シンガポール	リパブリック ポリテクニク	2名
4	令和5年11月30日(木)	グローバル教育センター委員	専攻科1年, 2年 本科5年, 本科研究生	7名	韓国	ドゥウォン工科大学	17名 (学生15名, 教員等2名)
5	令和5年12月18日(月)	グローバル教育センター委員	本科1年	8名	タイ	キングモンクット工科大学 ラカバン校・トンブリ校 付属高等専門学校	8名 (学生7名, 教 員1名)
6	令和6年3月29日(金) ～ 3月30日(土)	グローバル教育センター委員	本科1～4年	28名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク	22名 (学生20名, 教員2名)

資料 5 4

教員の兼業状況

年 度	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
承認件数	4 2 件	5 3 件	5 3 件	4 9 件	4 1 件

資料 5 5

非常勤講師の配置状況

(令和 5 年度)

学 科	科目等	人数 (延べ)	授業時間数／週		備 考
			前期	後期	
一般教科	国 語	1	4	4	国語Ⅰ
	社 会	2	6	1 0	地理，地域学，公共，現代社会と法
	体 育	1	4	4	保健・体育Ⅱ
	数 学	2	1 2	1 0	数学特論 α，応用数学 α，応用数学 β
	物 理	1	4	4	物理Ⅰ，物理Ⅱ
	生 物	1	6	4	生物
	芸 術	2	0	1 2	美術，音楽
	英 語	7	2 2	4 0	英文法Ⅰ，英文法Ⅱ，英語Ⅲ，英語Ⅴ，英文法Ⅲ
機械工学科	—	2	2	4	機械設計製図Ⅰ，材料学Ⅱ
電気工学科	—	2	4	8	電気工学演習Ⅰ，アナログ回路，電気電子工学実験Ⅲ
電子制御工学科	—	2	6	4	電子制御工学総合演習Ⅱ，システム要素設計，ロボティクスⅠ，ロボティクスⅡ
専攻科	—	5	6	8	技術者倫理，特殊加工学，実用技術英語（電気電子・情報系），特修英語Ⅰ，プレゼンテーション英語，グローバルコミュニケーション，アドバンスト・グローバル・エンジニアスキル
留学生	日本語	1	4	4	留学生の日本語
	電 気	1	2	2	電磁気学，電子工学
	情 報	1	2	2	デジタル回路，論理回路Ⅰ
	計	3 1	8 4	1 2 0	

資料 5 6

令和5年度 F D・S D研修実施一覧

	日 時	場 所	テーマ	担当者	参加者
F D① S D①	令和5年6月9日(金) 13時30分～14時30分 ※教務委員会と共催	Teams	WebClassの操作実演と活用例	教務委員会教務主事補 機械工学科・教授 谷口 幸典	61名 教員50名 職員6名 技術5名
F D②	令和5年6月29日(木) 教職員会議終了後	大視聴覚室	生成系AI時代の教育はどうあるべきか？	総務委員会委員 情報工学科・教授 山口 智浩	54名 教員52名 事務1名 技術1名
F D③	令和5年7月27日(木) 教職員会議終了後	大視聴覚室	学校教育における生成AIの利用ガイド ラインの動向について	総務委員会委員 情報工学科・教授 山口 智浩	52名 教員51名 事務0名 技術1名
F D④ S D②	令和5年9月7日(木) 10時30分～11時40分	Teams	生成系AIと教育における信頼性	東北大学 大学院教育学研究科・教育学部 松林 優一郎	70名 教員41名 事務21名 技術8名
F D⑤ S D③	令和5年9月12日(火) 11時00分～12時05分 ※ハラスメント防止委員会と共催	大視聴覚室	ハラスメント被害者・加害者になら ないために	NPO法人こころ塾 企業サポート部門 中原 未知生 氏 産業カウンセラー キャ リアコンサルタント	48名 教員26名 職員22名
F D⑥ S D④	令和5年9月28日(木) 教職員会議終了前 13時00分～13時23分	Teams (大視聴覚室)	業務軽減に向けたDX推進取り組みの一例 (教学IR室のデータを用いて)	学生課特命助教 石丸 政行	71名 教員51名 事務13名 技術7名
F D⑦	令和5年11月21日(火) 教職員会議終了後 17時30分～18時29分	大視聴覚室	WebClassポートフォリオ機能（修学カル テ）を用いたポートフォリオ教育の実施に ついて	教務委員会教務主事補 機械工学科・教授 谷口 幸典	60名 教員54名 事務5名 技術1名
F D⑧ S D⑤	令和5年12月4日(月) 13時30分～14時45分 ※人権教育推進・いじめ防止対策委員会主催 ※学生支援センターと共催	大会議室	自己肯定感を高める教育相談について（仮題）	奈良女子大学付属中等 教育学校 健康環境部 養護教諭 加島 ゆう子	28名 教員20名 職員4名 技術4名
F D⑨ S D⑥	令和6年3月8日(金) 13時30分～14時40分 ※ダイバーシティ推進委員会と共催 ※終了後、臨時教職員会議（進級認定・専攻科連携教 育PG修了認定）	大視聴覚室	ジェンダー劇場 「無意識の思い込み」に気 づこう	奈良県女性センター (いきサボ座)	47名 教員37名 職員6名 技術4名 他機関教員1名

授業アンケート結果総括（令和 5 年度）

【授業内容に関する質問】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
1	担当教員の指導（話し方・問いかけ・指示・板書等）は適切であり、授業の進行や内容は整理されていて理解しやすかったと思いますか。	3.38	3.27	3.45	3.43	3.47	3.29
2	担当教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたと思いますか。	3.26	3.19	3.36	3.30	3.33	3.15
3	授業の進め方や授業内容は、最初の授業で説明されたシラバスに沿っていたと思いますか。	3.47	3.35	3.51	3.53	3.52	3.41
4	授業の形態（講義、演習、実験、実習、グループワーク等）は内容を理解するうえで適切であり、到達目標（シラバス参照）を達成するための工夫があったと思いますか。	3.36	3.26	3.40	3.39	3.46	3.27
5	授業で使用する教材（教科書・参考図書・配付資料・課題・宿題等）は、内容を理解するうえで適切であったと思いますか。	3.35	3.24	3.43	3.37	3.41	3.31

設問 1～5 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

【検証】

- ・昨年度に比べ、設問 1～5 の回答は 0.03～0.04 程度しか差異が認められない。
- ・いずれの設問においても学科間の最高と最低の差は 0.2 程度で大きな差異は認められない。

【自学自習と学習時間】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
6	あなたは授業概要の把握、予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。	2.72	2.75	2.92	2.69	2.64	2.62
7	あなたはこの授業の内容を理解するために努力（予習・復習、質問等）をして、積極的に内容の理解を目指す行動がとれたと思いますか。	3.07	3.06	3.15	3.14	3.04	2.96
8	あなたがこの科目の学習を行った時間（授業時間、予習・復習、宿題、試験勉強等含む）はどのくらいですか。週当たりの平均値で教えてください。	2.27	2.35	2.31	2.46	2.06	2.20

設問 6, 7 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

設問 8 270 分以上（4点）、180 分～270 分（3点）、120～180 分（2点）、120 分未満（1点）

【検証】

- ・昨年度に比べ、設問 6～8 の回答は 0.02～0.05 程度しか差異が認められない。
- ・いずれの設問においても学科間の最高と最低の差は 0.2～0.4 程度で大きな差異は認められない。
- ・シラバスの使用には改善の余地がある。積極的に活用できるようにさらなる周知・工夫が必要である。
- ・週当たりの学習時間もほぼ例年通りで学習習慣を付けられているとは言えない。抜本的な改善には新たな手立てが必要である。

【学習到達度、学習満足度】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
9	あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。優・良・可の基準で自己評価してください。	2.96	2.74	3.09	3.01	3.15	2.75
10	あなたのこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。	3.27	3.12	3.37	3.34	3.38	3.15

設問 9 優（4点）、良（3点）、可（2点）、不可（1点）

設問 10 満足（4点）、やや満足（3点）、やや不満足（2点）、不満足（1点）

【検証】

- ・昨年度に比べ、設問 9～10 の回答は 0.02～0.04 程度しか差異が認められない。
- ・いずれの設問においても学科間の最高と最低の差は 0.3～0.4 程度で大きな差異は認められない。
- ・設問 10 ではほとんどの授業で 3 点を超えており、学生は概ね授業に対して満足しているものと考えられる。
- ・自由記述回答に関しては、低学年のクラスではどの学科も比較的良好に書かれている。

【web アンケートについて】

web によるアンケートに移行して 4 年目であるが、授業によって回答数に大きなばらつきがあり、統計データの信頼性としては少し疑問が残った。アンケートの回答数を増やすための対策が必要である。アンケート実施率は前期で 61%, 74%であった。

【全体】

専門科目の授業、実験実習等、卒業研究や特別研究等での研究指導、就職・進学に関する指導や支援が平均4.0以上であった。これは、満足、やや満足での回答が大半であり、十分な満足度を得るものであったといえる。

また、授業等の学習、卒業研究・特別研究、進学・就職に向けた取り組み、基礎知識や理解、コミュニケーション力、社会人基礎力、自ら学ぶ力、高専生活が役立ったかなどいずれも4.0以上であり、十分な満足度を得るものであったといえる。

本校は、授業等の学習、卒業研究・特別研究、進学・就職に向けた取り組み、基礎知識や理解、コミュニケーション力、社会人基礎力、自ら学ぶ力、高専生活が役立ったかなどの項目については、非常に高い満足度であるが、一方で、授業外での学習支援、クラブ活動や課外での活動、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援が低く、この点が改善の必要があると考えられる。

以下に、日本人学生と留学生との比較、性別による比較、学年による比較、分野別の比較、全国高専との比較を記載する。

【日本人・外国人留学生比較】

一般科目の授業において、留学生は日本人学生よりも高い結果となっている。

また、全般的な満足度においても日本人学生よりも留学生の方がこれらの項目は高く、留学生の方が満足度が高かったといえる。

一方で、日本人学生において満足度が4.0を下回っているものは、授業外での学習支援、クラブ活動や課外での活動、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援であり、授業以外での学習支援や課外活動、寮などの支援については今後改善が必要である。

【性別】

性別による比較では、男性より女性の方が満足度が高い傾向がみられるが、就職・進学に関する指導や支援、授業外での学習支援、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援については男性よりも女性の方が満足度が低い結果となっている。

これらの結果から、女子学生については、就職・進学に関する指導や支援、授業外での学習支援、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援が更に必要であるといえる。

【学年による比較】

学年による比較では、本科5年生よりも専攻科2年生の方が全般的に高いが、クラブ活動や課外活動での活動の満足度が低いのは、研究中心であり、クラブ活動や課外活動の機会が減少したためと考えられる。

【分野別】

化学系で実験実習等、卒業研究や特別研究等での研究指導が高く、化学系、電気・電子制御で就職・進学に関する指導や支援が、他の学科・専攻よりも高く、電気系でクラブ活動や課外活動での活動、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援が、他の学科・専攻よりも高く、満足度が高かったといえる。

全国高専との比較

授業や専門科目、実験実習、進学就職指導については全国高専よりも満足度は高いが、授業外での学習支援、クラブ活動や課外での活動、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援が全国高専と比較すると低く、改善の必要がある。

一方で、留学生については、どの項目も全国高専と比較しても高く、留学生については十分満足していると考えられる。

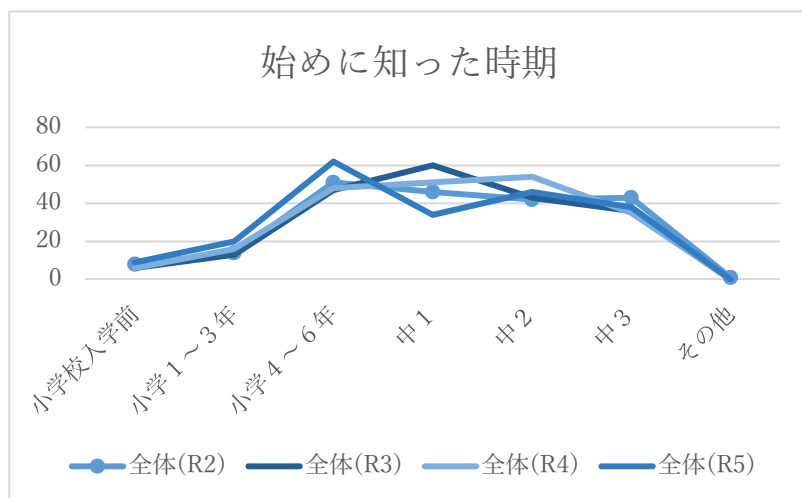
性別による比較についても同様に、授業や専門科目、実験実習、進学就職指導については全国高専よりも満足度は高いが、授業外での学習支援、クラブ活動や課外での活動、学生生活の指導や支援、寮での指導や支援が全国高専と比較すると低い傾向がみられる。

令和2～5年度入学生アンケートの集計結果

令和2年度から令和5年度の4カ年の入学者より徴収した入学動機アンケートのうち、質問の共通項を抜き出し傾向を比較したところ、4カ年においてその傾向に大きな変化は見られなかった。また、先に作成された平成26年度～31年度(5カ年)分の傾向とよく似ており、当時のコメントの内容と今回のコメントはほぼ同じ趣旨・内容になっていることが興味深い。

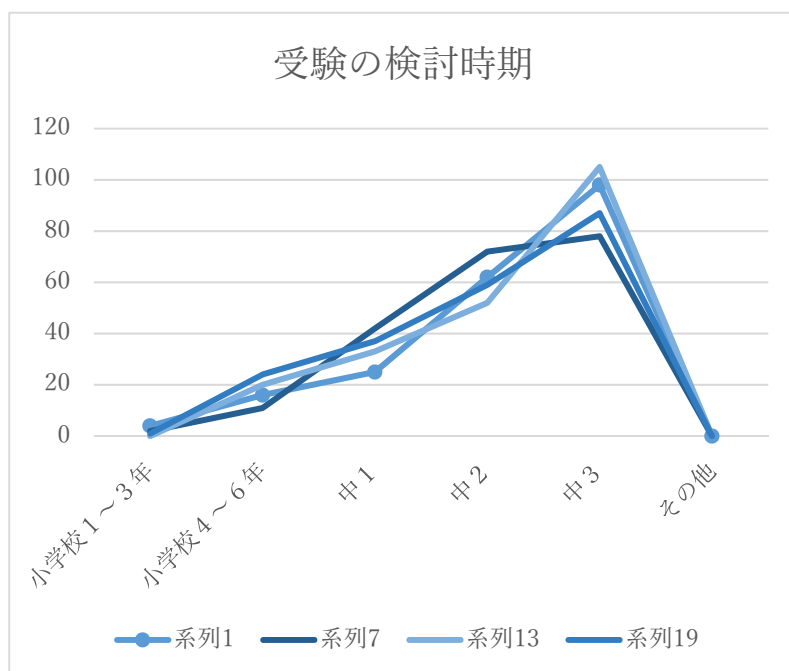
1. 始めに知った時期

4カ年で「小4～小6」が安定して多い傾向にある。中学生になってからは学年で大きな差はないが、理想的なのは中学受験を始める小4以降から「高専」を認知してもらうことだと考える。



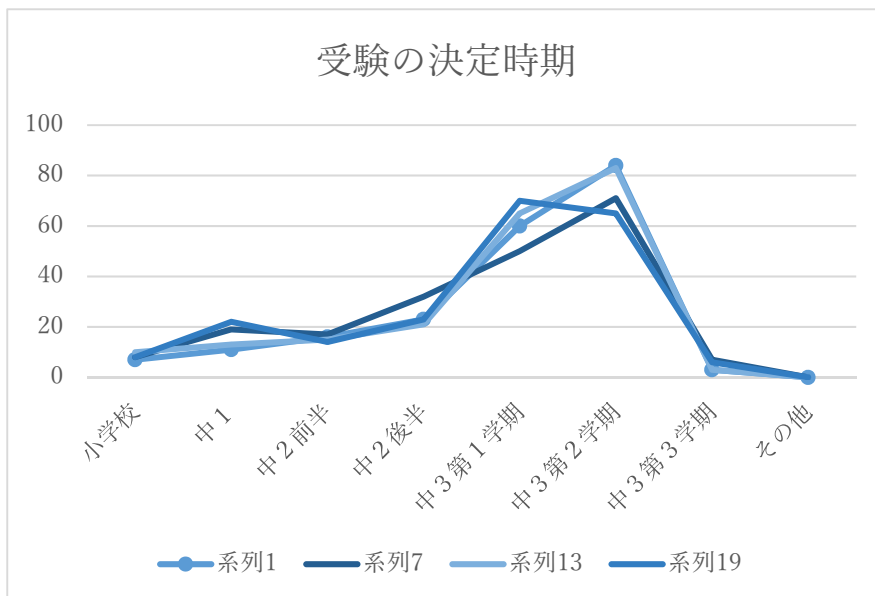
2. 受験の検討時期

現実に受験を控えた中3の時期が検討をする時期のピークであると言える。中3の60%程度の志願者が本校を受験できる学力の見込みは中2時点の学力と考えていることも参考になるのではないかな。



3. 受験の決定時期

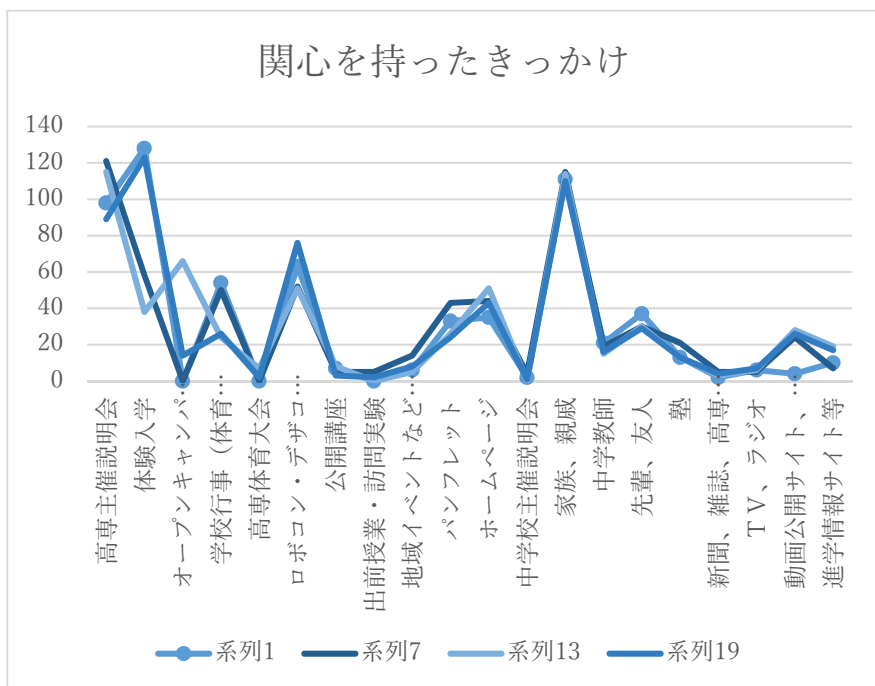
本校を受験して合格が見込める学力をある程度確認する時期は、中3の2学期がピークとなっている。中3の1学期も第2学期に次ぐ志願者が決定する時期である。



4. 関心を持ったきっかけ

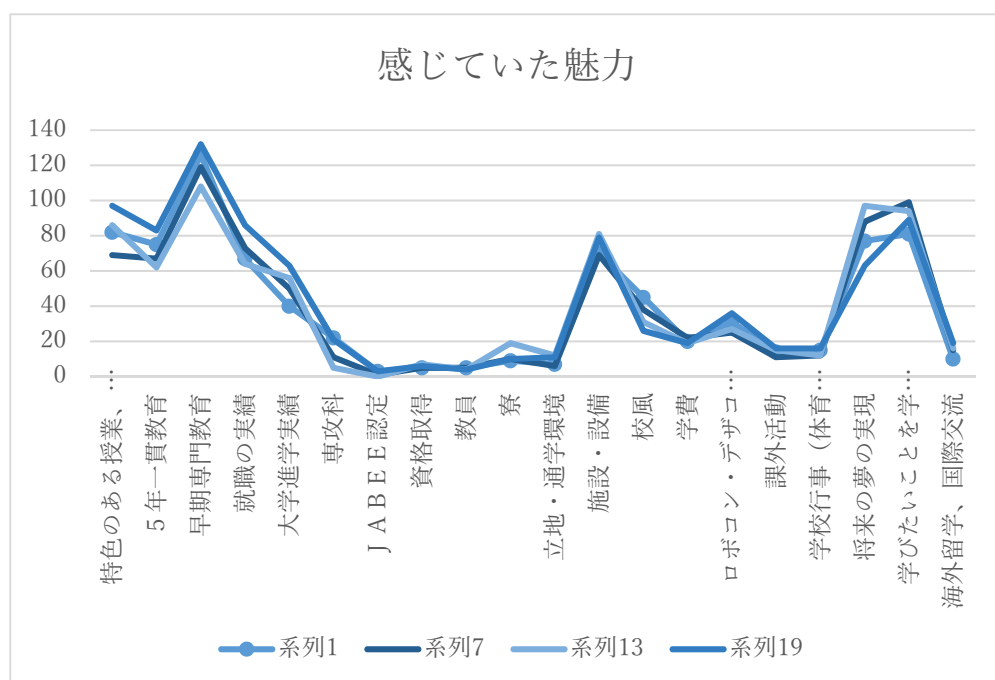
4カ年度で安定したきっかけは「家族・親戚」である。高専主催説明会も有力なきっかけである。「体験入学」は実施していれば関心を持つきっかけになるので、イベントとして重要である。ロボコン、プロコン等は高専のポジティブなイメージづくりに寄与していると考えられる。

体験入学への参加を促すためのすそ野拡大で実施している科学教室等については地域イベントとして実施することが、より効率的であると考えられる。ホームページや SNS からの情報発信も志願者増につながるためには重要であり、先輩・友人といった身近な人の満足度も影響を及ぼすので在学生の満足度をできる限り高いレベルで維持できるようにすべきであろう。



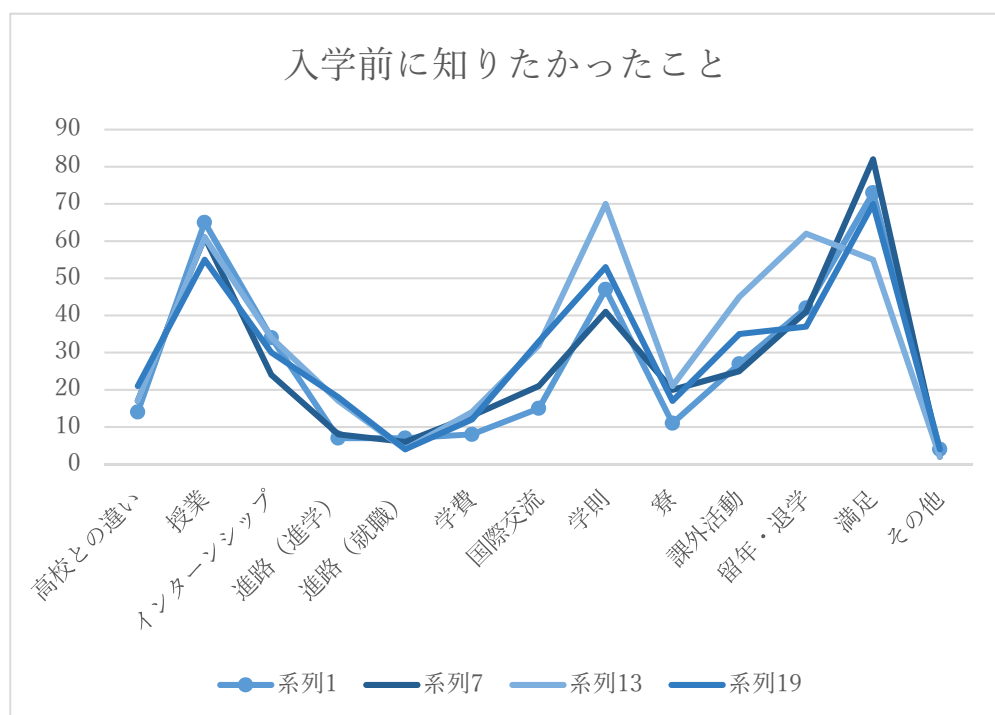
5. 感じていた魅力(従来の「志望動機」にあたる)

「特色ある授業、カリキュラム」、「早期専門教育」、「就職実績」、「大学進学実績」、「施設・設備」、「将来の夢の実現」、「学びたいことを学べる」といった実利・実践的、具体的な内容にアピールポイントがあるように思われる。



6. 入学前に知りたかったこと(令和2年度より「関心をもった経緯」より分離)

「授業」、「学則」、学校生活全体の「満足」への関心は、自己が学校生活を送る上で重要であることを志願者の多くが考えていると思われる。「留年・退学」についても気になるところがあるようだ。入学前に志願者に周知することは、本校での学校生活が学業・課外活動共にいかに充実して楽しいものであるか、を「見える化」することが本校の広報に重要であることを示唆するものである。



7. その他(令和5年度アンケートより)

- (1) 経年比較ができない事項のうち、「国公立高専合同説明会(KOSEN FES)」が「関心を持ったきっかけ」に11件上がっている。
- (2) 「志願に影響を受けた方やアドバイスを受けた人」において、保護者が最も多く、中学校教師、学習塾、先輩・友人がほぼ同程度である。

R2-R5アンケート元データ

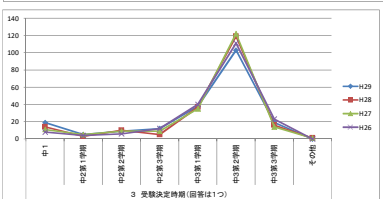
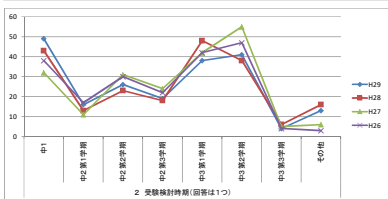
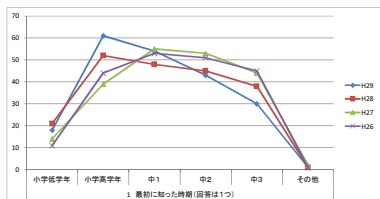
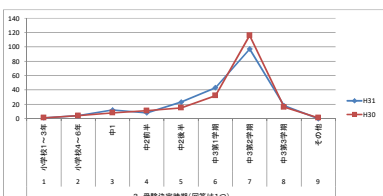
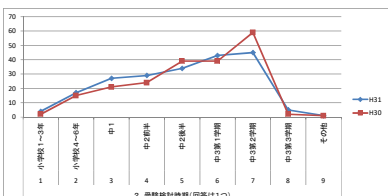
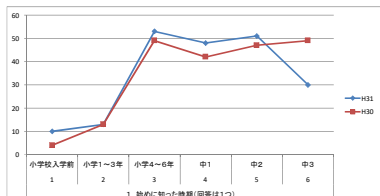
○入学動機に関するアンケート調査集計結果（令和2-5年度）

[illegible]

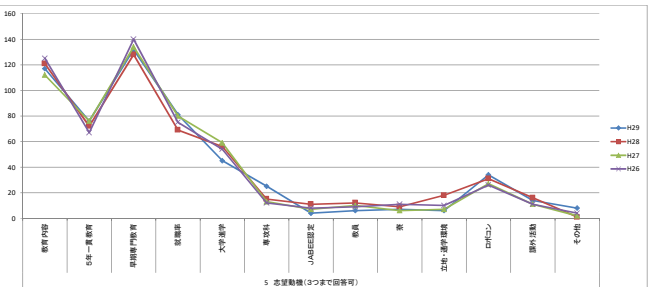
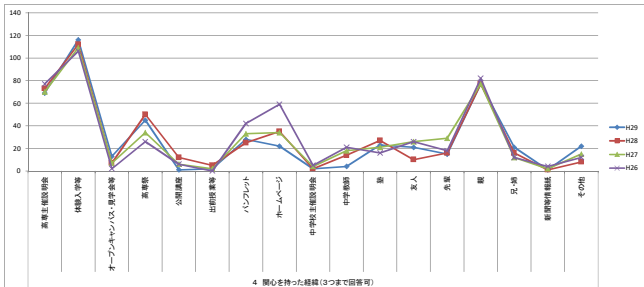
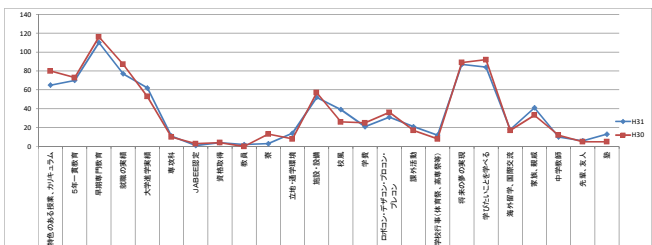
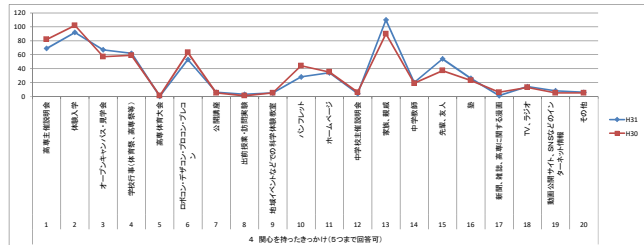
H26-31アンケート元データ

○入学動機に関するアンケート調査集計結果(年度別)

年度	学科名	入学数	回答数	1 組み立て問題(回答は1つ)							2 受験検定時算(回答は1つ)							3 受験検定時算(回答は1つ)							4 関心を持ったきっかけ(6つまで回答可)							5 志望動機(5つまで回答可)																																										
				1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25																					
H31	28	計	205	205	10	13	53	48	51	30	4	0	17	27	29	34	43	45	5	1	4	12	8	23	43	97	18	0	69	92	67	62	0	53	6	3	5	28	34	4	110	20	54	26	1	14	8	6	65	70	110	77	62	11	1	4	2	4	13	54	52	39	21	31	21	12	87	84	18	41	10	6	13	0
H30	28	計	204	204	4	13	49	42	47	49	0	2	15	21	24	39	39	59	2	1	1	4	8	11	15	32	116	16	1	82	102	57	59	1	63	5	1	5	44	35	6	90	19	37	23	6	13	5	5	80	73	116	87	63	10	3	4	0	13	8	57	26	25	36	17	8	89	92	17	33	12	5	5	0

[illegible]

1. **「始めに知った時期」**を学年毎に比較すると、毎年度の傾向そのものは似たような形で推移しているのとおよそ信頼できるデータと考えられる。小学校高学年(小4～小6)を対象とした、本校の認知度向上に係る取組を行うことが、効果的であると考えられる。また、学力向上が期待できる中学1～2年生も認知度向上策を講じることについて効果的であると考えられる。
2. **「受験検討時期」**を毎年度の傾向で見ると、似たような形で推移しているのとおよそ信頼できるデータと考えられる。合格ラインまでの学力を担任、自己でも確認できる時期が中学3年生2学期がピークになっている。しかし、小学校4年生から受験検討を始めている者も少なくないことがグラフで確認できる。本校の訴求について小学4年生から対象とすることにはグラフからも根拠付けられると考える。
3. **「受験決定時期」**を毎年度の傾向で見ると、似たような形で推移しているのとおよそ信頼できるデータと考えられる。受験を決定するにあたり合格ラインまでの学力を担任、自己でも確認できる時期が中学3年生2学期がピークになっている。



- 4.「**関心を持った経緯**」について、大きな影響を与えているのが、「体験入学」、「家族(親・親類)」であり大きなピークになっている。実際に来校し様々な体験をすることの価値を受験生が重視していることが分かり、保護者の高専に対する印象も非常に重要であることが分かる。その他「高専祭」のように身近に高専を感じることができる体験型イベントは重要で出前授業・科学教室・公開講座も付随して費用対効果を検討しつつ継続実施する必要がある。イベント開催時期は生徒・保護者が参加しやすい時期にできるよう1〜層検討していく必要があると思われる。なお、パンフレットやHPのような広報媒体についても関心を与える上で重要なコンテンツであり、一層、見やすい魅力発信ができる内容にする必要がある。ロボコン等のコンテスト系についてもイメージ戦略として重要であることがグラフから理解できる。
- 5.「**志望動機**」について、「教育内容」、「5年一貫教育」、「早期専門教育」という本校の本質に係る事項を多くの支持を集めていることは、高専教育の価値を学生、保護者に理解いただいていると考えて良いと思う反面、気を引き締めて堅実に取り組む必要があることも意味している。進路について「就職実績」が「進学実績」を上回って選択されていることも注目したい。最終のゴールである就職先を重視している学生・保護者への訴求が重要であると認識させられる。運動して将来の夢、学びたいことを学ぶといった具体的な欲求を満たす学校である印象や実績を重ねてアピールすることも有効であると考えられる。施設・設備といった学生、保護者にとって分かりやすいことも予算に限りがあるもの、取り組んで行かなければならないところである。

令和5年度 アドミッションポリシーの適合割合の確認（まとめ）

◆アドミッションポリシーの妥当性及び入学学生の適合度の確認のため、本科1年生学級担任および専門科目担当教員においてはクラスの学生の様子から、専攻科1年生の指導教員においては研究室の所属学生の様子から、それぞれのアドミッションポリシーにどの程度適合しているか、おおよそのパーセンテージでお答えください。
大変答えにくい質問だと思いますが、（適合している学生／受け持たれている学生）×100%を基準にお考えください。

◆アドミッションポリシー

【本科】

- （１）技術者や研究者になって、社会の役に立ちたい人
- （２）基礎的な学力を身に付けていて、自ら進んで学べる人
- （３）科学や技術に関心があり、仲間と協力して新しいものを創造したい人
- （４）他者への思いやりがあり、責任感を持って誠実に行動できる人

【専攻科】

- （１）豊かな人間性を有する技術者になりたい人
（求める要素：人間性）
- （２）自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人
（求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）
- （３）技術を通して国際社会や地域に貢献したい人
（求める要素：主体性・協働性・多様性）

【システム創成工学専攻】

- （４）創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人
（求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）

【物質創成工学専攻】

- （４）環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関して
その課題発見と解決に貢献したい人
（求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力）

◆回答

回答者		(１)	(２)	(３)	(４)
本科1年生	1 M	59%	61%	60%	65%
	1 E	83%	74%	81%	85%
	1 S	73%	71%	73%	77%
	1 I	84%	77%	84%	89%
	1 C	74%	67%	73%	78%
専攻科1年生	1 A M	92%	92%	91%	92%
	1 A E	97%	96%	98%	89%
	1 A I	100%	97%	100%	97%
	1 M C	98%	98%	93%	98%

◆評価

本科：MおよびCの一部を除き、70%以上がAPをみたしていると評価されている。Cに関してはわずかに下回る程度であるが、5名中2名が厳しい評価をした影響である。MIに関しては4名中2名が特に厳しい評価をした影響である。
絶対値は別にしても、担任と2学科において(2)の数値が最小値を取ったことは注目すべきと考えられる。
今年度の結果からは(2)の観点からAPに対して議論を進めることが望ましいと判断する。

専攻科：全てのコース（学科）で90%(E(4)のみ89%)をこえてAPが満たされるとの評価が得られている。このことから
本校の専攻科APは妥当であると言える。

令和5年度 内部質保証に係るカリキュラムレベルの点検表（学科主任）まとめ

1. 教育の内部質保証システム
（１）学校の「理念と目標」及び学科・専攻科の３つの方針（ＤＰ、ＣＰ、ＡＰ）が、社会の状況等の変化を踏まえた上で、現状、適切であると言えるか？
（令和５年度は回答を要さない。次回令和８年度または３つの方針の変更時に実施、以降原則５年ごとに実施）

2. 教育組織及び教員・教育支援者等	検討部門
（１）必要な教員が適切に配置されているか？	
一般	・問題ない
機械	・問題あり → 昨年度から、教員が8名（今年度は教授6名、准教授2名）となり、実習科目（機械工作実習、創造設計製作）を支援していただいている技術職員も減らされている。授業担当を8名で分担することになり授業負担が増加した点については、学科内では一定の理解は得られていると考えるが、1研究室あたりの配属学生数の増加、学科運営上必要な業務（就職・進学指導のための資料整理等）の増加もあり、余裕のない状況の中で学生の指導等を行っている。学科教員の定員を増やしていただくことや、非常勤講師の任用についても検討していただきたい。教員は機械実習工場にある工作機械等を用いた作業の専門家ではないため、学生・教員の安全を第一に考えた実習を行うためには従前どおりの技術職員の支援をお願いしたい。
電気	・問題あり → サポートが必要な学生が増えているため、可能であれば演習系科目に複数の教員を配置したいが、人数の関係で難しい。そこで、実状に合わせたカリキュラム改定を検討していたが、学校の方針変更により延長となったため、次の改定期までによりよい案を作成の上、実施する予定である。
電子制御	・問題ない
情報	・問題ない
物質化学	・問題ない
（２）教員の能力向上を図る取組（研修・FD）が適切になされているか？ 本年度、別紙のような研修（FD・SD）を実施した。	
・本年度の研修は、適切であったか？	
一般	・問題ない
機械	・問題ない
電気	・問題あり → 他の会議や業務と重なっていることが多く、また学生サポートに要する時間も増加しているため、平日の勤務時間内に教員がなかなか集まらない状況である。よって、学内業務の効率化と削減、学生支援の根本的な改善をよりスピードアップして取り組む必要がある。まずは様々な課題について話し合うことができる環境の構築と、教員がマルチタスクを管理しやすいシステムについて検討している。
電子制御	・問題ない
情報	・問題ない
物質化学	・問題ない
・今後、FDで取り上げて欲しい内容や、具体的な講師の候補などがあれば記入ください。	
一般	すでに行われていますが、今後も、「ハラスメント防止」に関するFD等を、積極的に行って（より充実して）頂きたいかと思います。
機械	
電気	（講演者） ・経験と失敗を多く積んだベテラン教員やベテランエンジニア ・スキルをお持ちの臨床心理士、医者など ・違う世界を経験してきた人（ダイバーシティ） 南極越冬経験者、現在のウクライナやガザ地区を実際に見てきた人、住職、等 （内容）・・・現場に寄り添った研修、実践テクニック、初心に戻れるような研修 ・部活、授業、保護者、学校運営、広報等に関する失敗・経験話、現場スキル ・合わない上司・部下との付き合い方、好転方法 ・効率的な業務のこなし方、業務を削減してくれるデジタル機器の使いかた ・学生の目が輝き、笑顔を増やす方法 ・内面を研鑽できる研修 ・普段触れない世界（哲学、文化、海外 等）に触れる研修（ダイバーシティ）
電子制御	
情報	
物質化学	
（３）技術職員や事務職員が適切に配置されているか？	
一般	・問題ない
機械	（１）の回答と同様
電気	・問題あり → 業務が増える中、人数は減っていくため、事務職員の多忙さが年々増している様子である。教員へのタスク分散も実施されているが、教員も回っていないため互いに悪循環しており、押印の見直しやDX化による手続きの簡素化、事務係と教員のタスクがわかりやすく管理しやすいシステムづくりを急がないといけない。
電子制御	・問題ない
情報	・問題ない
物質化学	・問題ない

3. 学習環境及び学生支援等		
(1) 本校では、担任や主任、教科担当者、各種委員会委員が中心になって、学生の学習支援、学生生活支援、進路指導などを行う体制をとっているが、現状の体制は機能していると言えるか？また、学科における学生支援の体制に問題はないか？		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題あり → よりサポートが必要な学生は増加傾向にある。多忙化に加えて、特に対応が必要な学生に時間を要することもあり、教員が多くの学生サポートに割ける時間は年々減ってきている。このため、教員と学生の距離が年々遠ざかっているように感じられる。一方でオンライン化が進み、学生の状況確認と迅速な連絡が可能となった。学内業務の効率化と削減、教員がマルチタスクを管理しやすいシステムの構築が必要であり、検討を行っている。	企画会議 ／学生
電子制御	・問題ない	
情報	・問題あり → 教育目的、人材育成像などについて専門学科と一般科教員との距離が大きい。特に本校の入口戦略を担う各専門分野の学科広報での教育目的等のPR、出口戦略を担う進路指導などに関して、一般科教員が専門学科と関わり、よりよい入口・出口戦略に変えていくため組織的改革が望ましい。	企画会議
物質化学	・問題ない	

4. 教育課程・教育方法		
(1) 現在実施されている教育課程は、社会情勢の変化などを踏まえて、適切な科目配置になっているか？ また、CPに適合しているか？さらに DP を達成するための配置となっているか？		
(令和5年度は回答を要しない。カリキュラム改訂以降に回答を求める予定)		
(2) 学科で実施している創造力・実践力を育む教育方法の工夫について、挙げてください。 また、学校全体として、改善すべき点があれば挙げてください。		
・ 学科での取り組み内容		
一般	一般教科は多分野にわたる教科の“集合体”であり、それぞれの教科の特性を生かした工夫をしております。理系科目を中心としては、座学で学んだことと実際の現象を結びつける「実験」や、授業だけでは学びきれなかった数学力をつけるための「ティーチングアシスタント」を実施し、文系科目を中心としては、コミュニケーション能力をつけるための「グループワーク」を取り入れた授業を実施し、さらには、持続的な社会発展に貢献できる人材を育てるために「地域の文化や産業にも目を向ける」ことにも力を入れています。一方で、グローバルな社会で活躍できる人材を育てるための実践的な外国語コミュニケーションスキルを高めるトレーニング、また生涯にわたってスポーツや武道などの身体運動に親しむ実践的な態度や知識を育成することを意識した授業を実施しています。	
機械	3年次の創造設計・創造設計製作では、課題（テーマ）に対するアイデア、グループワークによる設計・製図、グループワークによる製作、製作した製品のプレゼンテーションを行っている。また、3Dプリンタを自由に使用できる環境を整備し、学生の創造力を育む教育に利用している。	
電気	まず1年生の専門科目の中で、暗記勉強から脱却し、基礎を組み合わせ物事を考え、判断していく練習や、能動的に授業やテストに取り組む練習を行っている。また実習系科目で電気回路を触って考えたり、グループでディスカッションした内容をまとめてプレゼンテーションしたりしている。3年生の座学では、電気技術、SDGsと本学科で挑戦している研究内容をリンクさせて学び、特に関心を持った領域についてグループで調査報告を行っている。4年生では家電の中身（実物）を調べる授業や、生産ラインを構築するラダー図等を学び、5年生になると各種応用領域に展開し、組み込み技術も身につける。並行で、2年生から5年生までの実験科目を通し、各種測定器の使い方、自ら考えプログラミングを行ってマイコン・CPU制御、ディスカッションからSDGsに関わる課題と解決策を見いだして具現化（電気機器を製作）する実習など、創造力と実践力を育むトレーニングを行っている。集大成となる卒業研究では、世の中の各種課題やNeedsに応えるため、研究開発を実施している。一方、本学科では、電気主任技術者と電気工事士の資格取得に関する認定を受けており、実践力が養えるカリキュラムを構築している。	
電子制御	低学年から実験の中にPBL教育を一部取り入れ、ロボットシステム製作実験を段階的に実施している。また、システム設計製作において自律ロボットの製作制御を通じた実践的な教育を実施している。	
情報	「情報アクティブラーニングI、II」科目では、情報工学科3、4年の同時開講による、通年科目でのグループ実習を実施、3、4年各4、5名程度、計8～9名の計10グループに半期ごとに分かれて、担当教員のテーマに沿って何かをグループで作る、創造力を鍛える実習である。期末ごとに、ポスター発表を行い、成果およびグループ、学生の取り組み状況の評価している。教育方法の工夫は、3、4年生の混成メンバによるグループ実習であること。3年生時のグループ実習では、上級生とのとりくみを毎週目の当たりにしながら、グループ活動について経験したことを、4年次の実習で実践していく良いサイクルが形成されている。	
物質化学	物質化学工学科1年～5年生のTeamsを立ち上げた。学生チャレンジプロジェクトの案内などを通して、学科学生間の縦のつながりを促進した。	
・ 学校全体として改善すべき点など		
一般	特にありません。	
機械	特になし。	
電気	想像力や実践力を育む教育には、マンネリ化しない学生を能動的にする教材が求められ、これらの開発に教員の時間と余裕が必要である。また、学生のモチベーションを上げるのに、普段から教員が夢や技術の話を語れる余裕がほしい。年々このような時間を設けることが難しくなっている。	企画会議
電子制御	特になし。	

情報	実習系科目(情報分野でのプログラミング等)での2学年同時開講による教育効果が広まることを期待する。上級生の実践力を下級生が身近にみて学ぶ、上級生が教えることで、身につけた実践力を言語化し、理解を整理、深めることにつながる等の効果が期待される。	教務
物質化学	なし	
(3) 次回のカリキュラム改訂の検討を行っているか？		
一般	・行った	
機械	・行った	
電気	・行った	
電子制御	・行っていない	
情報	・行った	
物質化学	・行っていない	
(4) (カリキュラム改訂の検討を行っている場合) 講義・演習・実験・実習のバランスが適切かの検討を行っているか？		
一般	・行った	
機械	・行った	
電気	・行った	
電子制御	-	
情報	・行った	
物質化学	-	
(5) (カリキュラム改訂の検討を行っている場合) 効果的な授業方法の検討を行っているか？		
一般	・行った	
機械	・行った	
電気	・行った	
電子制御	-	
情報	・行った	
物質化学	-	

5. 学習・教育の成果

(1) 卒業生や進路先関係者等の意見から判断して、本校の教育は十分な成果を上げていると考えられるか？ (学校全体に対する検討希望や提案と、学科としての自己点検結果)		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題ない 卒業生・修了生が進学および就職した大学や企業から、本学科と専攻科の本コースについて高い評価をもらっている。特に、手と頭を動かして物事に取り組むことができ、暗記知識でなく、基礎から論理的に考えて対応できる卒業生が多い様子。進学後、博士課程に残る学生の比率も高い。	
電子制御	・問題ない	
情報	・問題あり → 情報共通教育における、高校必修科目、大学(応用基礎レベル)の必修化、および情報科の新設。	
物質化学	・問題ない	
(2) 卒業後の進路状況(就職・進学)から判断して、本校の教育は十分な成果を上げていると考えられるか？ (学校全体に対する検討希望や提案と、学科としての自己点検結果)		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題ない	
電子制御	・問題ない	
情報	・問題あり → 情報共通教育における、大学1、2年時(情報リテラシーレベル、応用基礎レベル)の単位認定に必要な科目の全学必修化。	教務
物質化学	・問題ない	

6. 点検内容

(1) この点検項目について追加、不要、修正などの意見があるか？		
一般	・問題ない	
機械	・問題ない	
電気	・問題ない	
電子制御	・問題ない	
情報	・問題ない	
物質化学	・問題ない	

点検評価：総務委員長

本調査は、カリキュラム(学科)レベルのPDCAのチェックにあたる調査である。

カリキュラムレベルの教育の質保証についてはあまり問題なく実施されてるという結果である。

一方で、教員の多忙化により改善に関わる労力が生み出せない点。それに関わり支援の不足する声も出されており、この点については全学的な対応が必要と考えられる。

また、FDに関しては今年度はICTについて重点を置いて実施したが、来年以降もある程度テーマを決めて実施するのが良いと思われる。総務委員会でもFDのテーマや提案について活発に議論いただきたい。

令和5年度 授業チェックシート集計結果

学科等		設問番号・内容														※「13. 試験・レポート・課題の回数および返却率」の掲載省略			
		はい／総数														はい／総数			
		1 学生に授業科目の学習到達目標・教育方法等の説明をしましたか？	2 開講時にシラバスの内容を説明しましたか？	3 授業はシラバスの内容に沿って実施しましたか？	4 適切な教材を用いていますか？	5 学生の授業中の反応をチェックして、活用していますか？	6 課題・レポート・小テスト等を適切に実施しましたか？	7 成績はシラバスの評価値に近づきましたか？	8 (学修単位科目のみ) 授業時間以外の学習の指導とそとの評価をしましたか？	9 成績評価の根拠資料(定期試験、小テスト、課題など)は適切に採点していますか？	10 学生の興味や理解度を高める工夫をしましたか？	11 授業アンケートや公開授業などの点検結果を来年度の授業に反映しますか？	12 学生が授業に自律的に取り組む意欲を持っていますか？	14 授業時間外に行った学習指導等について	追試験・追実験	その他			
本 科	一般教科	国語	25/25	25/25	20/25	25/25	25/25	15/15	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	10/25	0/25	20/25	15/25	0/25	
		社会	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	19/19	32/32	16/32	13/32	16/32	25/32	2/32	31/32	2/32	0/32	
		英語	36/36	35/36	36/36	36/36	36/36	36/36	16/16	36/36	36/36	21/36	36/36	27/36	13/36	16/36	18/36	0/36	
		体育	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	10/10	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	9/25	15/25	5/25	
		数学	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	4/4	37/37	35/37	33/37	36/37	35/37	18/37	22/37	21/37	0/37	
		理科	38/38	38/38	38/38	38/38	38/38	38/38	5/8	38/38	38/38	38/38	36/38	28/38	31/38	1/38	28/38	13/38	
		芸術	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	0/5	5/5	0/5	5/5	/5	0/5	
		機械	42/42	42/42	38/42	40/42	41/42	40/42	27/29	42/42	39/42	38/42	34/42	29/42	5/42	16/42	8/42	3/42	
		電気	45/45	45/45	44/45	45/45	43/45	45/45	15/16	44/45	41/45	36/45	41/45	21/45	12/45	22/45	32/45	1/45	
		電子制御	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	10/10	28/28	26/28	26/28	23/28	20/28	2/28	12/28	11/28	0/28	
専門学科	情報 <td>23/23</td> <td>23/23</td> <td>23/23</td> <td>23/23</td> <td>23/23</td> <td>23/23</td> <td>12/13</td> <td>23/23</td> <td>23/23</td> <td>18/23</td> <td>23/23</td> <td>20/23</td> <td>7/23</td> <td>13/23</td> <td>11/23</td> <td>1/23</td>	23/23	23/23	23/23	23/23	23/23	23/23	12/13	23/23	23/23	18/23	23/23	20/23	7/23	13/23	11/23	1/23		
	物質化学	43/43	43/43	43/43	43/43	43/43	43/43	24/25	43/43	35/43	25/43	26/43	30/43	3/43	20/43	12/43	0/43		
	総数	379/379	378/379	369/379	377/379	376/379	377/379	162/170	378/379	344/379	296/379	318/379	273/379	72/379	220/379	148/379	13/379		
	割合	100.0%	99.7%	97.4%	99.5%	99.2%	99.5%	95.3%	99.7%	90.8%	78.1%	83.9%	72.0%	19.0%	58.0%	39.1%	3.4%		
専 攻 科	一般教科 (専攻科)	国語	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	0/4	4/4	0/4	4/4	0/4	0/4		
		社会	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	0/8	8/8	0/8		
		英語	30/30	30/30	30/30	30/30	26/30	30/30	26/30	30/30	30/30	10/30	30/30	4/30	0/30	6/30	0/30		
		数学	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	0/4	0/4	4/4	0/4		
		理科	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	0/4	4/4	0/4		
		機械	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	12/14	14/14	11/14	13/14	12/14	5/14	0/14	6/14	0/14		
		電気	16/16	16/16	16/16	16/16	16/16	16/16	8/8	16/16	15/16	14/16	16/16	2/16	3/16	7/16	3/16		
		電子制御	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	1/4	1/4	0/4	4/4	0/4		
		情報	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	6/6	8/8	8/8	3/8	8/8	8/8	0/8	7/8	0/8		
		物質化学	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	9/9	7/8	9/9	8/9	8/9	7/9	3/9	0/9	7/9	0/9		
小計	総数	101/101	101/101	101/101	101/101	97/101	101/101	83/90	101/101	96/101	68/101	94/101	35/101	3/101	57/101	6/101	28/101		
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.0%	100.0%	92.2%	100.0%	95.0%	67.3%	93.1%	34.7%	3.0%	56.4%	5.9%	27.7%		
	総数	480/480	479/480	470/480	478/480	473/480	478/480	245/260	479/480	440/480	364/480	412/480	308/480	75/480	277/480	154/480	41/480		
	割合	100.0%	99.8%	97.9%	99.6%	98.5%	99.6%	94.2%	99.8%	91.7%	75.8%	85.8%	64.2%	15.6%	57.7%	32.1%	8.5%		

【評価】

- ・基本12項目の集計結果のうち、問8と問12の2項目が昨年度よりポイントが上がり、問1を除く他の9項目は昨年度よりポイントが下がっていた。特に昨年度100%の科目で達成されていた問2～問7及び問9について、令和5年度はいくつかの科目で実施されていなかったことになる。問1～問12の項目は10%を目指す項目であるので改めて全教員に周知・依頼をする必要がある。
- ・問14「授業時間外に行った学習指導等について」は5項目までにおいて、昨年度よりポイントが下がっている。学生の自律的な授業外学習を促進し、これを教員がサポートする取り組みをさらに進めていく必要がある。

令和5年度 卒業生・修了生アンケート集計結果（抜粋：ディプロマポリシー達成割合）

単位：％

本科

	(1) 人文・社会・自然についての豊かな知識を培ったこと、主体的・総合的に学習ができる。【基礎力】	(2) 各専門分野の人材養成目標・教育目標に導ける知識・技術・能力を有する。【専門応用力】	(3) 多様な個性や価値観を持つ他者を尊重し、同じ目的に向けて協働できる。【協働力】	(4) 技術者としての倫理観を培ったこと、社会に貢献できる。【社会貢献力】
1. ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった	2.96	1.19	2.36	1.78
2. ポリシーをほぼ満たす能力が身についた	37.87	32.54	26.63	27.22
3. ポリシーを完全に満たす能力が身についた	35.50	35.50	36.69	38.46
4. ポリシー以上の能力が身についた	23.67	30.77	34.32	32.54

専攻科

システム創成工学専攻

	(A) 幅広い視野と教養	(B) 技術者、科学者としての高度な倫理観	(C) 工学の基礎	(D) 研究成果の発信力	(E) 技術者に必要な英語力	(F) 専門分野の知識	(G) システムの設計力	(H) 問題解決能力
1. ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった	3.04	3.04	3.04	6.06	9.10	0.00	0.00	0.00
2. ポリシーをほぼ満たす能力が身についた	12.12	15.15	12.12	9.09	21.21	17.39	17.39	17.39
3. ポリシーを完全に満たす能力が身についた	45.45	39.39	36.36	30.30	36.36	47.83	43.48	39.13
4. ポリシー以上の能力が身についた	39.39	42.42	48.48	54.55	33.33	34.78	39.13	43.48

物質創成工学専攻

(F) 専門分野の知識2	(G) 物質・材料の創出力	(H) 優れた技術・研究能力
0.00	0.00	0.00
20.00	20.00	30.00
40.00	40.00	20.00
40.00	40.00	50.00

- 【評価】
- ・本科）においてDPを満たさないという自己評価は全ての項目で3%を下回り、95%以上のものが一定の水準にあると自己評価している。卒業単位が揃っていることは、学校の評価としてもDPを満たしていることと同値である。
 - ・このことから本校のDPが適切であること、また卒業生がDPを満たしていることが自他ともに認めるものであることが判断できる。
 - ・専攻科）においてはDPを満たさないという自己評価はほとんどどの項目で5%を下回り、90%以上のものが一定の水準にあると自己評価している。修了単位が揃っていることは、学校の評価としてもDPを満たしていることと同値である。
 - ・このことから本校の専攻科のDPが適切であること、また修了生がDPを満たしていることが自他ともに認めるものであることが判断できる。
 - ・ただし、専攻科・生全体の約10%が「技術者に必要な英語力」がポリシーのレベルまで到達していないと自己評価しており、昨年度の結果と同等で改善が見られない。また、「発信力」について約6%がポリシーのレベルに達していないと自己評価している。
 - ・全体的には、昨年度に比べ「ポリシーを満たすまでの能力は身につかなかった」の自己評価は微減、「ポリシーをほぼ満たす能力が身についた」という少し消極的な自己評価はかなり減少し、DPの達成度に改善が見られる。

令和5年度卒業生・就職先アンケート結果（まとめ）

【実施要領】

1. 外部評価要求事項に基づき、卒業後5年程度の方、及びその進路先にアンケートをします。
2. 各学科、本科卒業1名程度、専攻科修了1名程度（以下「卒業生」と略称します）を選出してください。
3. アンケートの送付に際しては、卒業生の宛名（住所含む）および担当者を総務係まで連絡ください。また、卒業生自身に担当者から連絡をとり、アンケート送付の同意をとってください。（本人、および本人から進路先にアンケート依頼する旨お伝えください）
4. 担当者は原則学科主任（総務委員）または、卒業生と関わりの深い教員が望ましいです。
5. アンケートはできるだけ収集したいと考えますが、相手があることなので、「毎年必ず収集」までは求めません。

【修了生・卒業生回答】

以下の項目に関して十分習得できたかについて、4段階で評価してください。
（評価点：そう思う4、いくらかそう思う3、あまりそう思わない2、そう思わない1）

設問	評価点										平均
1. 一般教養や基礎科学に関する知識	3	2	3	4	3	3	2	3	3	3	3
2. 専門科目に関する知識	3	3	3	3	3	4	3	3	3	4	3
3. 専門分野における実践力・技能	3	3	3	4	3	4	2	4	4	4	3
4. 非専門分野も含めた学際的能力	3	2	2	3	3	3	2	2	4	2	3
5. 社会で役に立つ実用的な知識	3	3	2	3	3	3	2	3	2	3	3
6. 国際的に活動できる能力（コミュニケーション、異文化対応）	2	2	1	2	2	2	1	1	2	3	2
7. 課題発見・解決能力	3	3	3	3	4	4	2	2	4	4	3
8. 科学技術者倫理・法令遵守などの社会が求める倫理観	4	2	3	3	4	4	2	3	3	4	3

本校の以下の項目の教育法は満足であったかについて4段階で評価してください。
（評価点：そう思う4、いくらかそう思う3、あまりそう思わない2、そう思わない1）

設問	評価点										平均
1. 講義	3	3	3	3	3	4	3	3	2	3	3
2. 演習・実験	3	3	3	4	3	4	3	4	3	4	3
3. 卒業研究論文または修了研究論文指導	4	3	2	4	4	4	4	4	2	4	4

【就職先の企業等回答】

以下の項目に関して、本校修了生が十分習得できたかについて、4段階で評価してください。
（評価点：そう思う4、いくらかそう思う3、あまりそう思わない2、そう思わない1）

設問	評価点										平均
1. 一般教養や基礎科学に関する知識	4	3	4	3	4	4	2	4	4	4	4
2. 専門科目に関する知識	4	3	3	4	4	4	3	3	4	4	4
3. 専門分野における実践力・技能	3	3	3	4	4	3	3	3	4	4	3
4. 非専門分野も含めた学際的能力	4	2	3	3	3	3	2	3	4	3	3
5. 社会で役に立つ実用的な知識	3	3	4	3	3	3	2	4	4	3	3
6. 国際的に活動できる能力（コミュニケーション、異文化対応）	2	2	2	3	2	3	1	4	4	3	3
7. 課題発見・解決能力	4	3	4	4	4	4	3	3	4	4	4
8. 創造力	3	3	4	3	4	3	2	3	4	4	3
9. 科学技術者倫理・法令遵守などの社会が求める倫理観	4	3	3	4	3	3	3	3	4	4	3
10. 豊かな教養	2	4	3	4	4	3	2	4	4	3	3

差し支えなければ御社名（大学名など）をご記入ください。
㈱呉竹、㈱ヒラノテクシード、三井化学㈱大阪工場、大阪府立りんくう翔南高校、アナログ・デバイスズ㈱、奈良先端科学技術大学院大学、西川計測㈱
本校へご意見がありましたら自由にお書きください。
・十分に満足しております。 ・いつも弊社へ優秀な学生をご紹介頂きありがとうございます。

【評価】

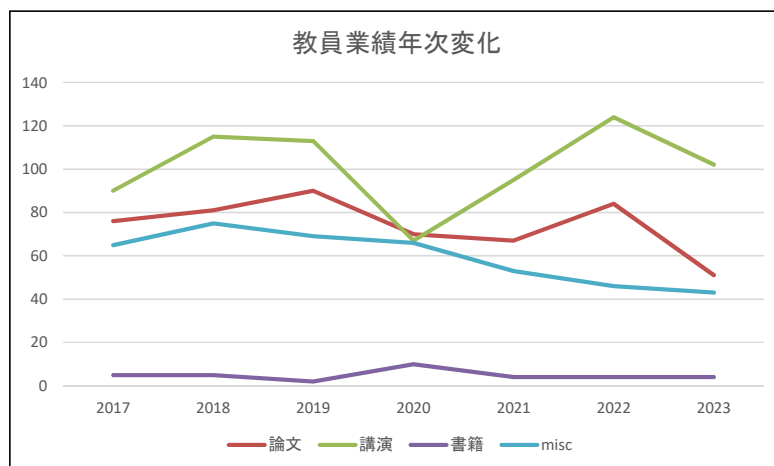
修了生・卒業生の回答における「6. 国際的に活動できる能力」を除き、平均は3以上であり、本校での講義、演習・実験、卒業研究（特別研究）を通じて様々な知識や能力を身に付けることができていると評価できる。しかし、修了生・卒業生および就職先の企業等の回答に共通し、「6. 国際的に活動できる能力」では1の評価を含む低い評価となっており、特にカリキュラムポリシー(2)に基づいた点検・教育改善が必要である。

著書・研究論文等の発表件数調べについて(平成29年(2017年)～令和5年(2023年))まとめ

【Researchmapを使った研究活動の集計方法】

- ①毎年1月20日を前年研究業績入力締め切り日とする。
毎年1月23日～1月30日の間で3日程度のダウンロード期間(今年度は1月26日～30日)を定め、総務課でResearchmapのデータをダウンロードする。
- ②書籍、論文、MISC、講演・口頭発表の項目について、過去5年分件数を学科ごとに集計し、自己点検・評価報告書に結果を記載する。
項目分類については各分野の慣例に従う。

【集計結果】



		校長	一般教科	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	総計
2017	書籍		2	1	1		1		5
	論文	5	14	10	7	6	14	20	76
	講演		10	14	17	16	1	32	90
	MISC	5	2	9	5	2	26	16	65
2018	書籍		3	1			1		5
	論文	8	10	7	13	6	11	26	81
	講演		9	18	19	17	1	51	115
	MISC	1	2	12	7	3	22	28	75
2019	書籍		2						2
	論文	5	6	15	10	14	20	20	90
	講演		12	20	31	8		42	113
	MISC	2	7	7	7	7	23	16	69
2020	書籍		8					2	10
	論文	8	8	9	4	7	18	16	70
	講演		5	7	20	8		27	67
	MISC		3	4	8	3	36	12	66
2021	書籍		2		1	1			4
	論文	3	5	3	9	10	16	21	67
	講演		5	18	28	10	4	30	95
	MISC		7	13	7	2	18	6	53
2022	書籍	1	2			1			4
	論文	6	5	18	5	15	14	21	84
	講演		11	23	40	5		45	124
	MISC		6	8	9		19	4	46
2023	書籍		2				1	1	4
	論文	4	7	1	9	6	10	14	51
	講演		4	8	23	15	1	51	102
	MISC		6	4	6	2	23	2	43

【評価】

コロナ禍という特殊事情があったにもかかわらず、大幅な減少は生じておらずコンスタントな研究とその成果発表が行われていると判断できる。
ただし、2019年までの増加傾向に対し、2020年から減少傾向が見られる。もちろんコロナ禍の影響があったと思われるが、2022年に一時増加した後、2023年に減少したことは、特徴的である。今後の推移に注意を払うべきと評価する。

教育方針等に係る質問集計(令和5年度運営諮問委員会) 集計表

	(1)AP, CP, DPが「教育理念」,「人材養成目的」と整合しているか	(1)コメント	(2)AP, CP, DPが社会の情勢に適合しているかの観点から、妥当であるか	(2)コメント
豊橋技術科学大学 角田 範義	整合している	なし	妥当である	なし
大和郡山市長 上田 清	整合している	なし	妥当である	なし
奈良先端科学技術大学院大学 小笠原 司	整合している	なし	妥当である	なし
大和郡山市立郡山東中学校 瀬谷 美奈	整合している	なし	妥当である	なし
奈良経済産業協会 二神 洋二	整合している	難しい社会の中で、学生本人の立場に共感する取組みをされていることに敬服いたします。	妥当である	なし
奈良新聞社 高瀬 法義	整合している	なし	妥当である	なし
奈良県教育委員会 山内 祐司	整合している	なし	妥当である	なし
DMG森精機(株) 入野 成弘	整合している	なし	妥当である	なし

あ と が き

教育・研究の高度化，教育機関の個性化・多様化，教育の成果（アウトカムズ）の可視化，組織運営の活性化等の要求から高等教育機関における内部質保証システムの重要性は今後も益々高まると予想される。本報告書は，本校の内部質保証の評価点検結果をまとめたものであり，各部門の総括と重点課題，各学科の総括，機関別認証評価の観点に合わせた自己点検評価からなる本文編と，関係する資料からなる資料編で構成されている。

今年度は主に，本文は令和5年4月から令和6年3月まで，資料は平成31年4月から令和6年3月までの5年間を対象としてまとめている。

本校は外部評価として，運営諮問会，認定専攻科審査，専攻科特例認定審査，機関別認証評価等を受けている。また，日本工学教育協会が認定する「国立高専教育国際標準（KOSEN International Standard：KIS）」が始まり，令和10年に本校も受審を予定している。なお，KIS評価・認定プロセスは，令和5年にJABEEの定める認定機関認証評価基準を満たしていることが認証されている。外部評価の選択も必要となり，平成17年から日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けていたシステム創成工学教育プログラムは，令和3年度をもって認定を終えた。

さて，令和5年度の運営諮問会は「奈良高専の改組計画について」をテーマとして開催し，10年先を見越した改組計画について運営諮問会でいただいた助言等の提案を踏まえ議論している。今後の教育・研究活動の改善・発展において，自己点検・評価を継続し成果を確認することの重要性は益々増えていくと思われ，この報告書がその一助となるものと期待している。

本報告書は，平成13年12月発行からはじまった「自己点検・評価報告書－奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題」以来，形式や内容をリニューアルしながら，過去の「報告」に重点をおいたものから，「点検評価」に重点を移し教育の外部評価，内部質保証に資するよう改善を続けている。

最後に，ご多忙の中，本報告書の執筆，編集にご尽力頂きました教職員の方々に深甚な謝意を表します。

令和6年10月

奈良工業高等専門学校 校長補佐（総務担当） 酒井 史敏

奈良高専の教育・研究・社会貢献への取り組みと課題
—自己点検・評価報告書—

令和6年10月発行

編 集 奈良工業高等専門学校総務委員会
発 行 独立行政法人 国立高等専門学校機構
奈良工業高等専門学校
〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町2-2
TEL 0743-55-6013
URL <https://www.nara-k.ac.jp/>